

9)盛南地域

盛南地域の平成12年度に実施した市民アンケート調査などをもとにした地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

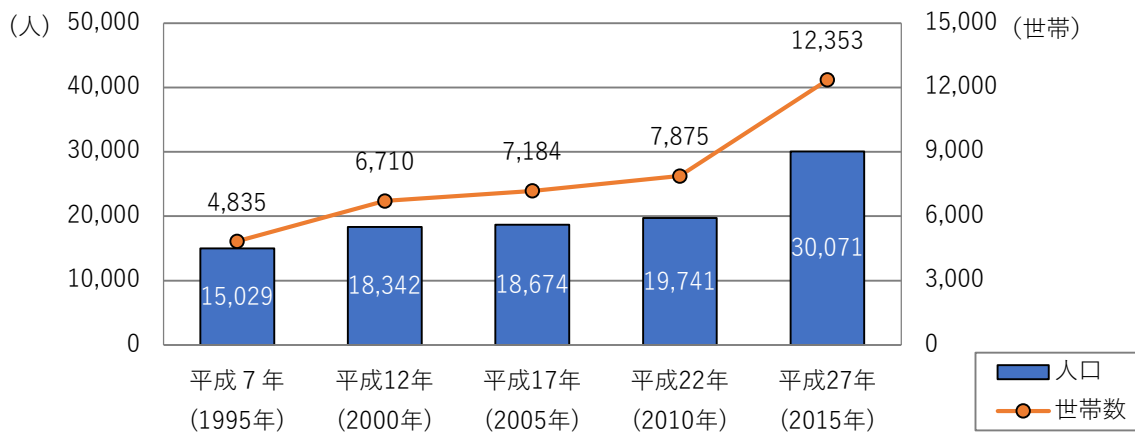
(1)地域の現況

①地域データ

i)人口・世帯数

盛南地域は、人口、世帯数ともに平成22年以降に大幅に増加しています。

人口・世帯数の推移 資料:国勢調査

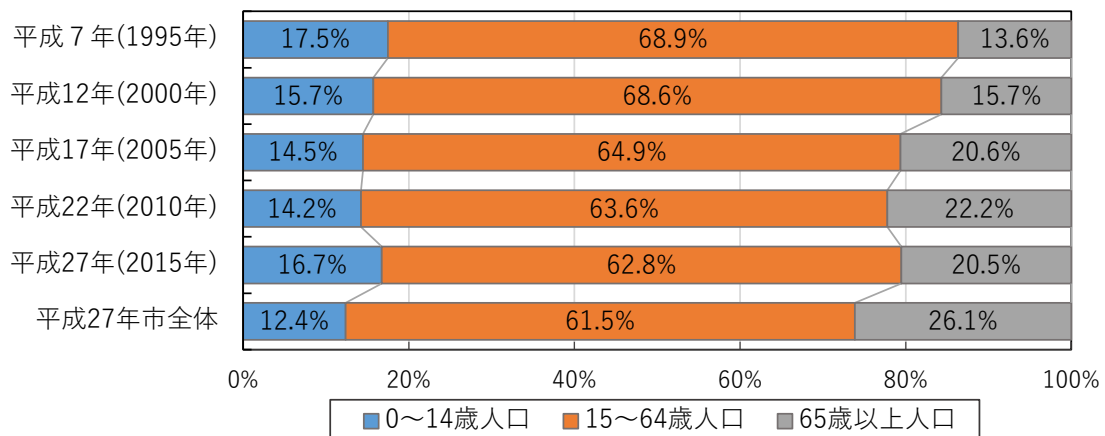


ii)年齢階層別人口割合

盛南地域は、市全体に比べて0～14歳人口の比率は高く、65歳以上人口の比率は低い、若い年齢構成となっています。

また、0～14歳人口の割合が高い地域となっており、平成27年には2.5ポイント増加しています。

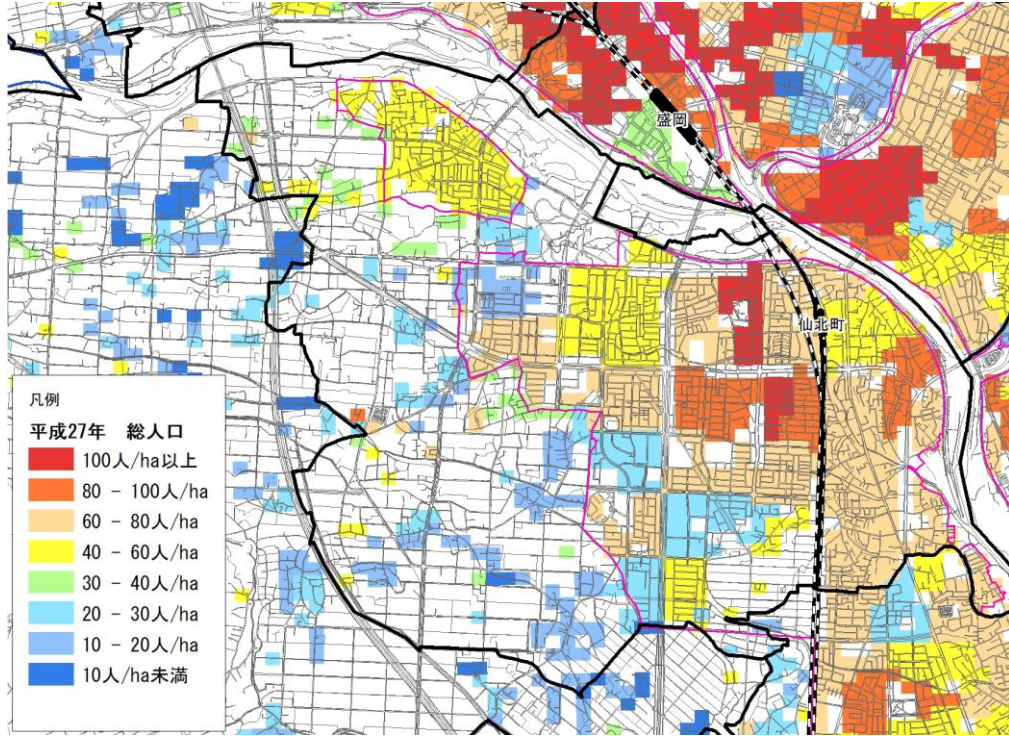
年齢階層の推移 資料:国勢調査



iii)人口の分布状況

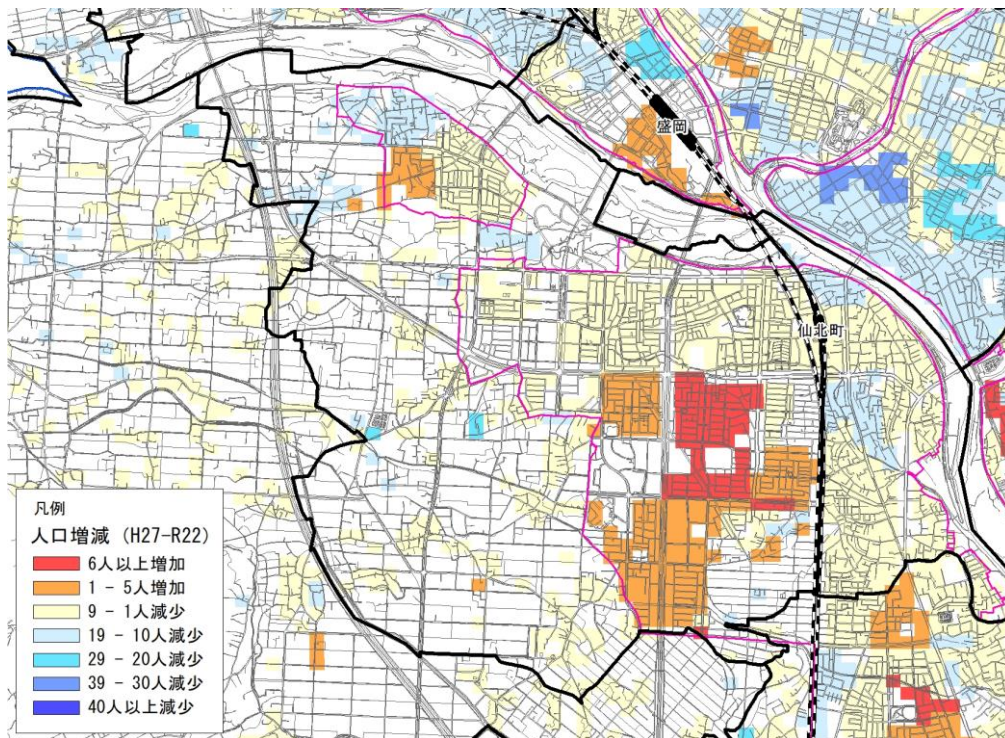
地域の東側などに 100 人/ha 以上の人口が集積しているエリアがみられ、近年開発されたエリアは将来的に人口の増加が見込まれます。
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲が周辺地域に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図 資料:平成 27 年国勢調査結果

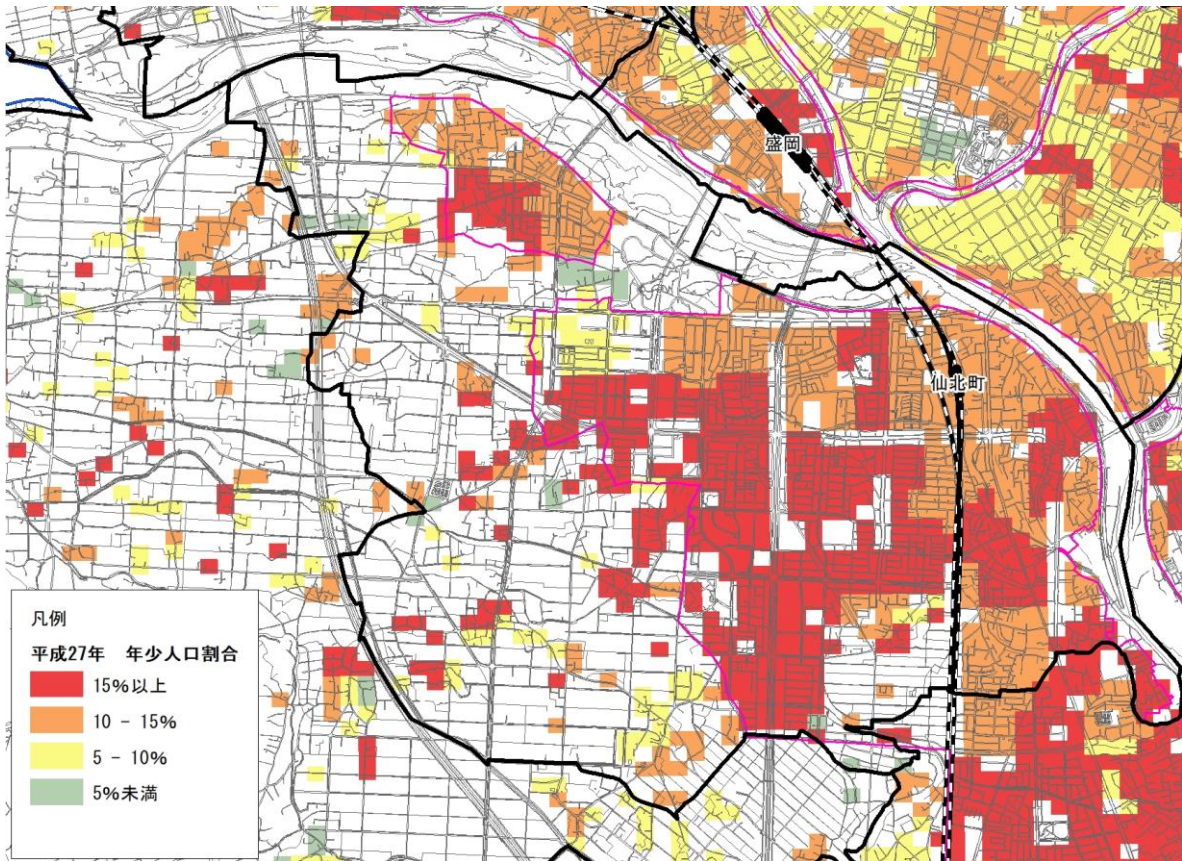


人口増減予測図(平成 27 年～令和 22 年)

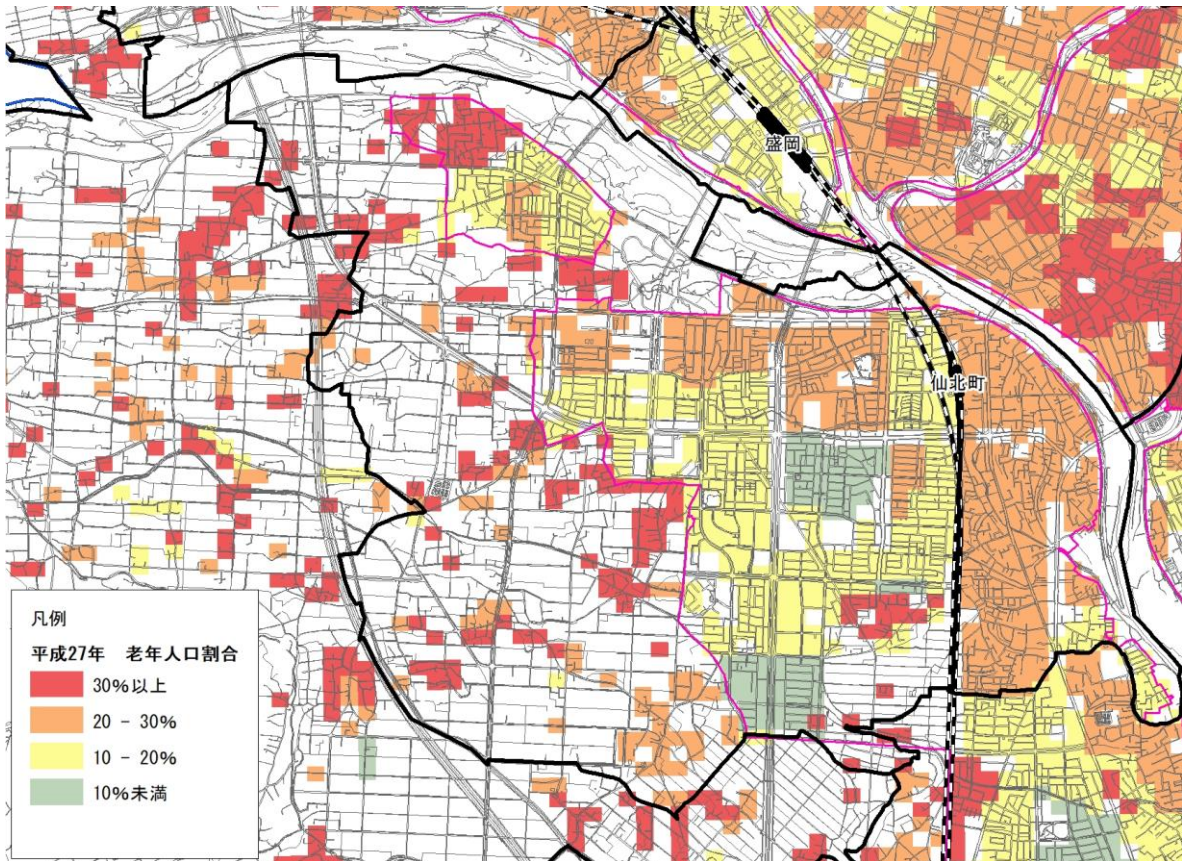
資料:平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来予測・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



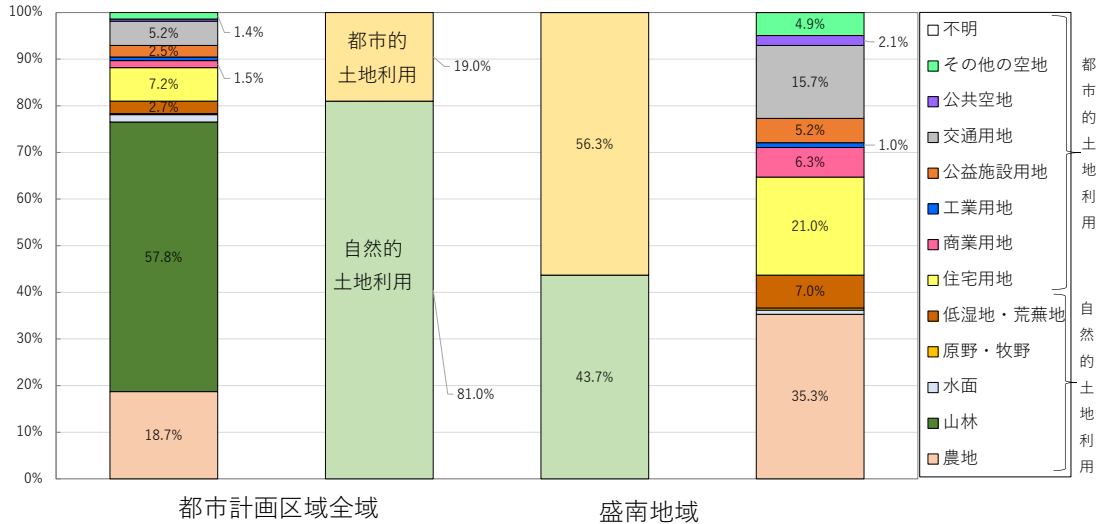
iv) 土地利用の状況

盛南地域の土地利用は、約56%が都市的土地利用、約44%が自然的土地利用となっています。

都市的土地利用は、住宅用地が最も多く、次いで、交通施設用地、商業用地、公益施設用地が多くなっています。盛南地域の整備が進みつつある区域は、計画的な土地利用が図られているため、交通施設用地の割合が高くなっています。

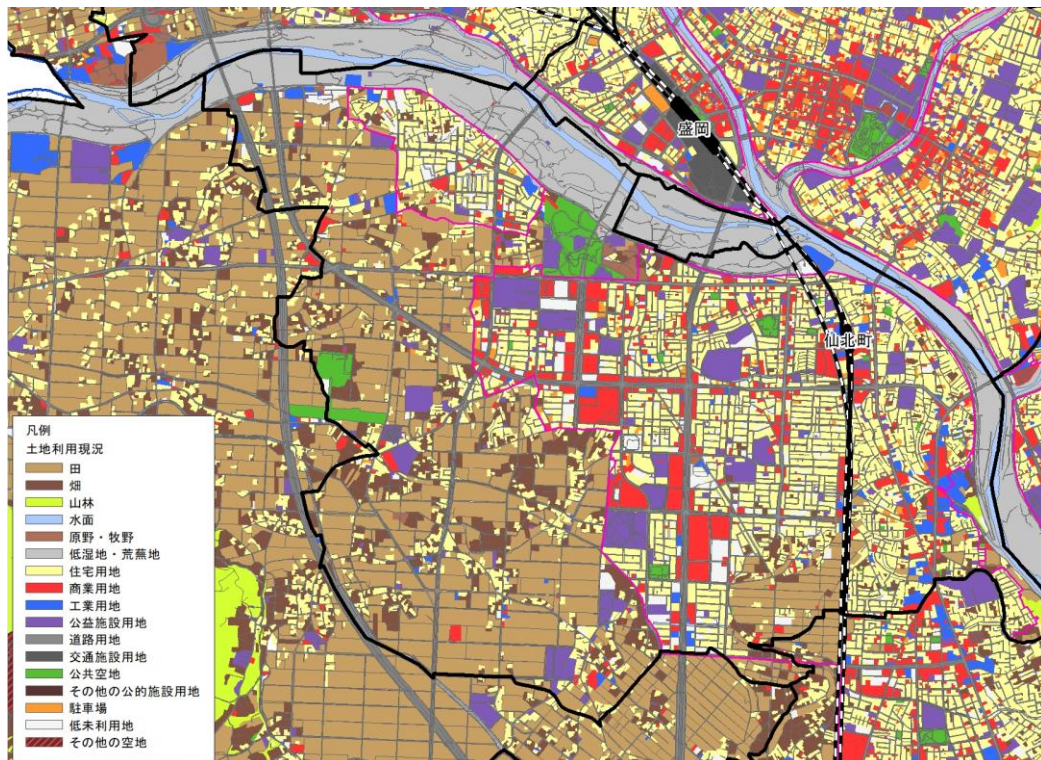
一方、周辺部では自然的土地利用、中でも農地が多くなっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較 資料:平成27年都市計画基礎調査



(地域の土地利用の割合が1%未満のものは、表記を割愛しました。)

土地利用現況図 資料:平成27年都市計画基礎調査

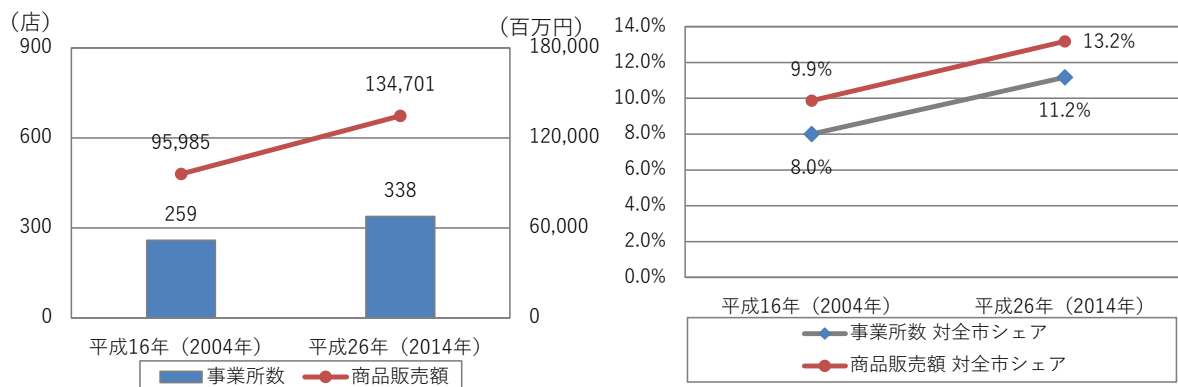


v) 商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも増加傾向にあり、その対全市シェアも増加傾向にあります。

平成26年の地域内の事業所数の対全市シェアは約11%、商品販売額の対全市シェアは約13%となっています。

産業関連指標と対全市シェア 資料:商業統計

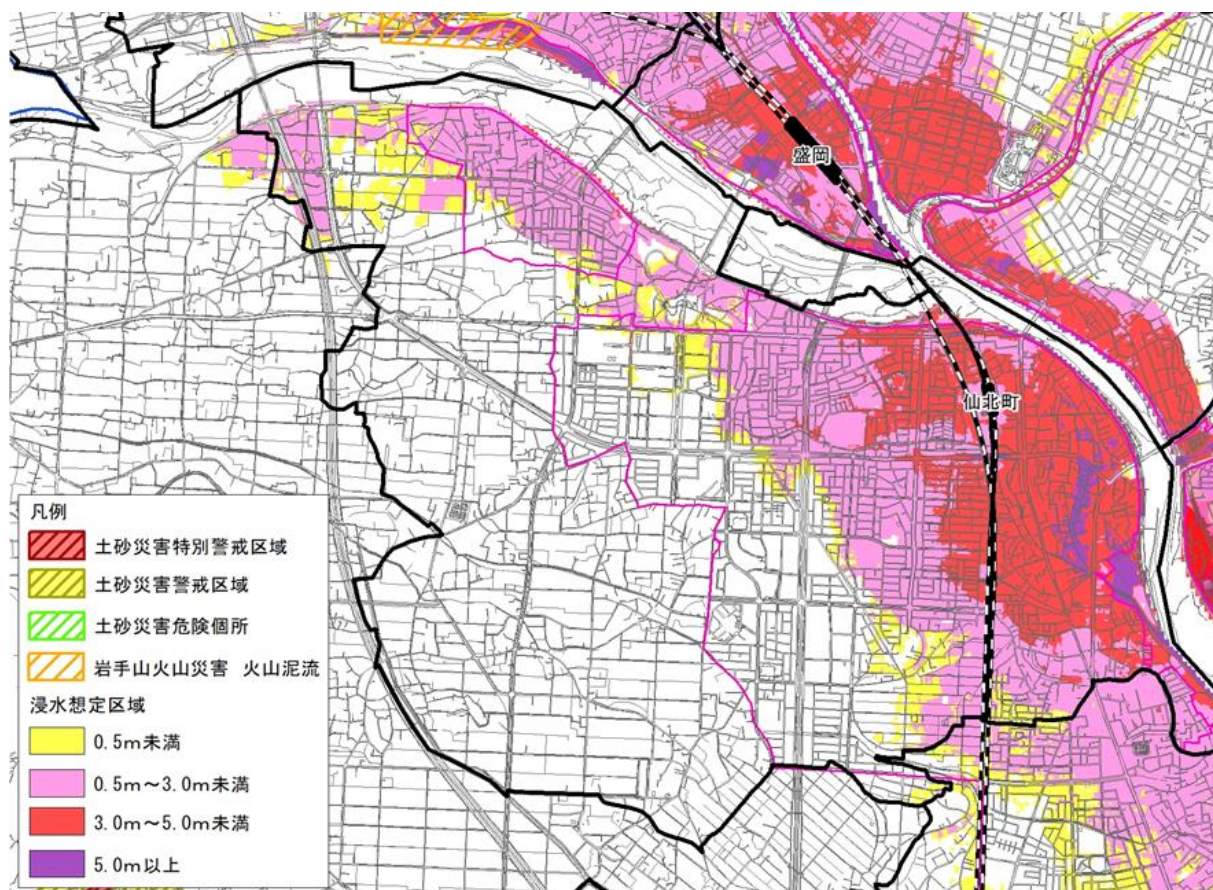


vi) 災害リスクの分布状況

雫石川右岸沿いなどに洪水浸水想定区域が分布しており、東側のJR東北本線沿いには浸水深が3.0m~5.0m未満となる範囲があります。

土砂災害警戒区域等は分布していません。

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図 資料:国土交通省、岩手県



②市民意見

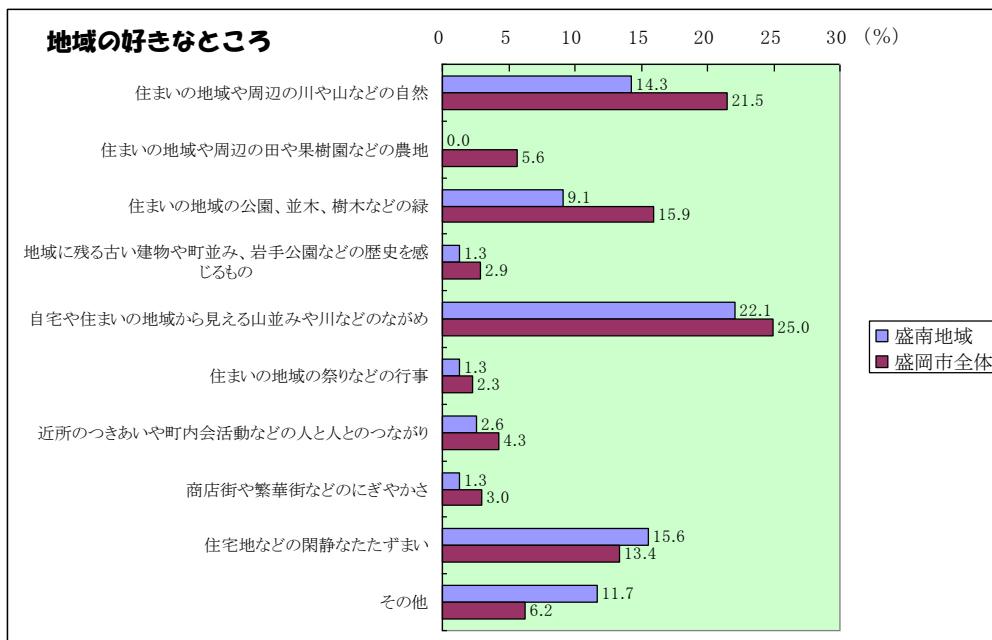
i) 地域の良いところ

平成12年度に策定した地域別構想（盛南地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査の結果のまとめは、次のとおりとなっています。

「自宅や住まいの地域から見える山並みや川などのながめ」、「住宅地などの閑静なたたずまい」が高く評価されています。これらは、岩手山などの眺望、雫石川の河川景観、田や屋敷林の田園風景などと考えられます。

また、「住宅地などの閑静なたたずまい」は、全市の評価と比べても高い割合を示しており、区画整理の行われた区域の街並みが評価されていると考えられます。

地域の好きなおところ(全市との比較)



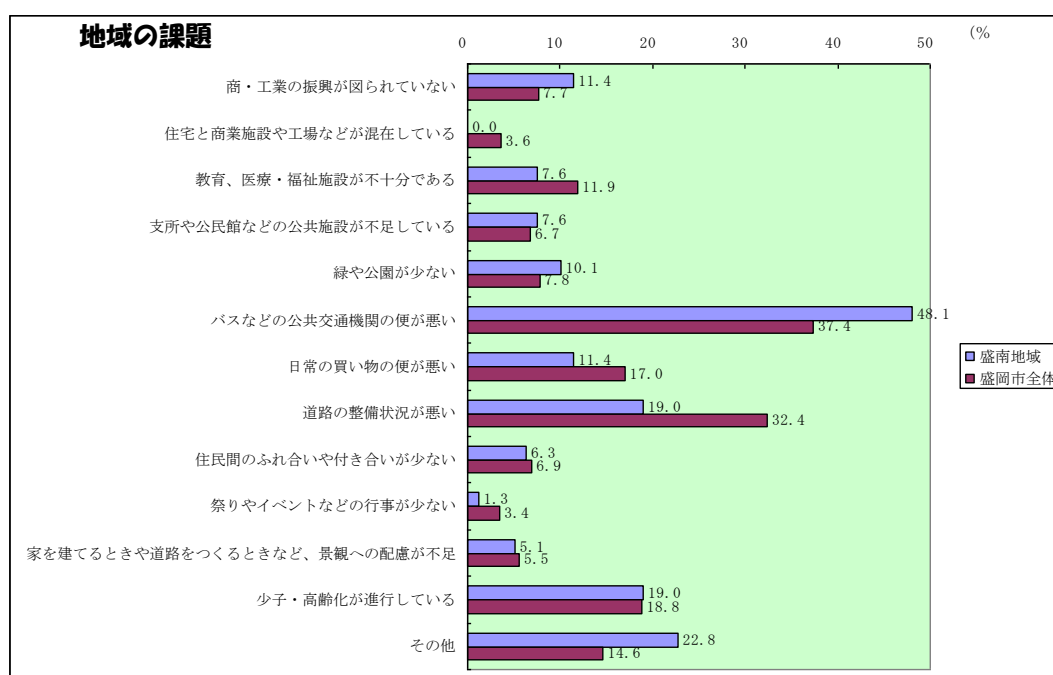
ii)地域の課題

平成 12 年度に策定した地域別構想（盛南地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査の結果のまとめは、次のとおりとなっています。

「バスなどの公共交通機関の便が悪い」がとくに高くなっています。このほか「少子・高齢化が進行している」、「道路の整備状況が悪い」などの項目もやや高く、「商工業の振興が図られていない」、「緑や公園が少ない」などの項目は、全市の平均と比べてやや高くなっています。

これらは、開発における道路・公園等の都市基盤の整備や、それに伴う日常生活の利便性、地域の振興などが進まないことへの意見として挙げられたとも考えられます。

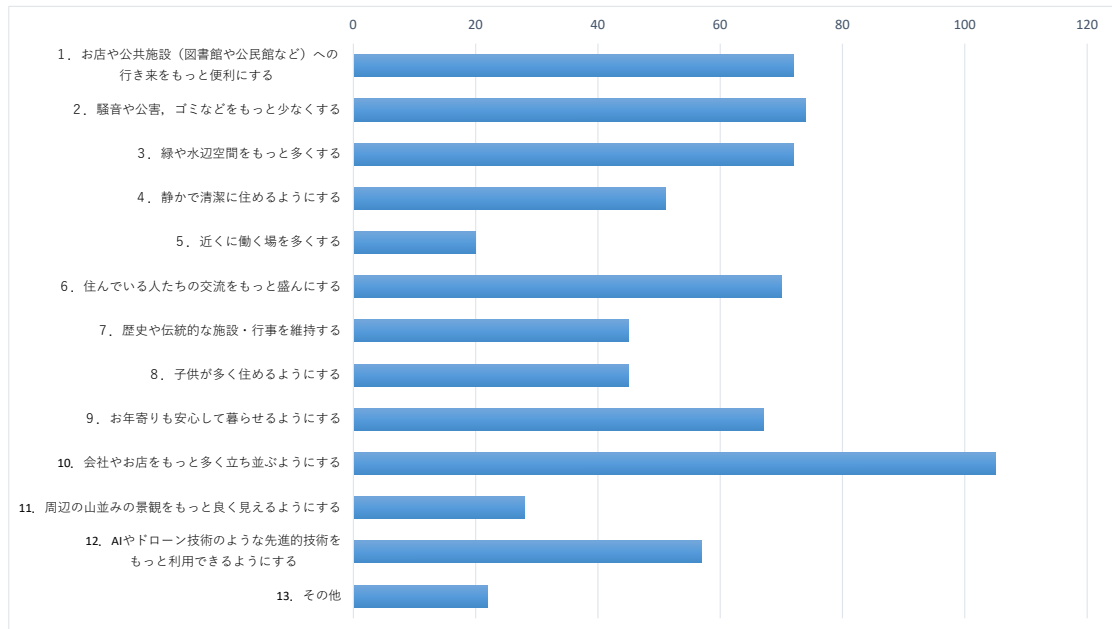
地域の課題(全市との比較)



iii)中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（盛南地域）の見直しにあたり、約20年後のまちづくりを担う世代である盛南地域の市立中学校2学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（盛南地域の285人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「騒音やゴミなどをもっと少なくする」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「緑や水辺空間をもっと多くする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、公共施設の整備に関する意見（新たな施設の整備など）、道路整備に関する意見（舗装等の修繕、道路の拡幅など）が多くありました。

iv)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（盛南地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、盛南地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。[28 町内会・自治会のうち 17 団体（61%）から回答]

主な意見は次のとおりです。

【資源】

- 大型店舗が近くにあり生活に便利である。
- 閑静な佇まいと地域から見える山なみや川などのすばらしい景観。

【課題】

- 少子化・高齢化が進行し、空き家も増えている。
- 町内会役員の若返りが困難である。
- バスの便が悪い。
- 災害（水害）が発生した場合の避難場所が少ない。

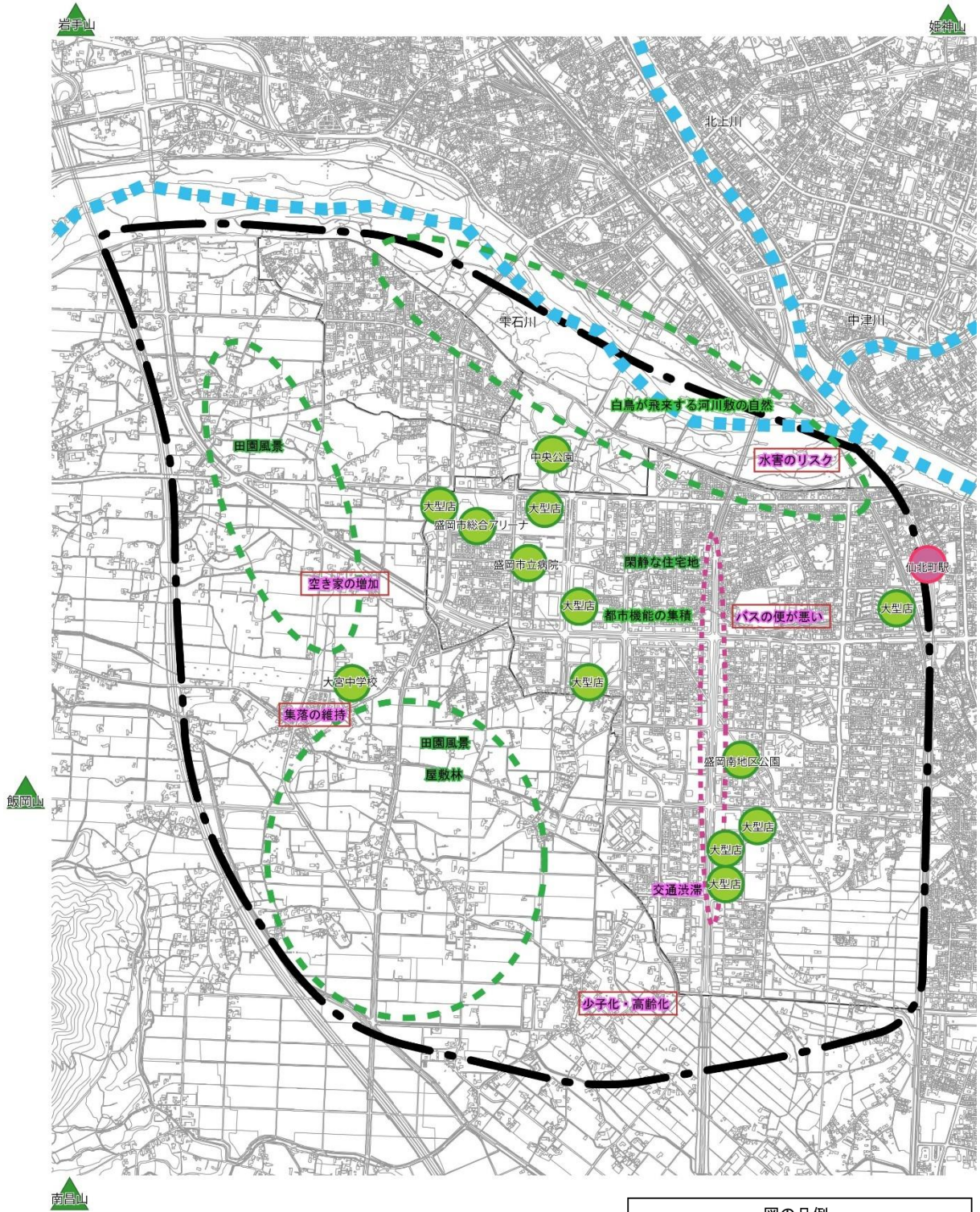
v)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（盛南地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、盛南地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。[28 町内会・自治会のうち 13 団体（46%）から回答]

主な意見は次のとおりです。

- 盛南地域の資源の有効性を活かしつつ、課題に対処するという点において、「新たな活力を生み出す新都心づくり」、「ゆとりある魅力的なまちづくり」、「緑あふれる周辺環境と調和したうるおいのあるまちづくり」の3本柱を基本方針とした考え方に大賛成である。
- 目標については「ゆとりとうるおい」のあるまちづくりは願ってもない目標であり、ぜひインクルーシブな（誰一人その属性によって排除されることのない）まちづくりの実現に向けて取り組んでほしい。
- 市の構想として「多様で価値の高い副都心の創造」を目指して新しいまちづくりをすすめることは、従来から示されているものであり適切であると思う。
- 今後のまちづくりにおいては、災害発生時の避難場所が少ないことについて検討する必要がある。

地域の資源・課題マップ



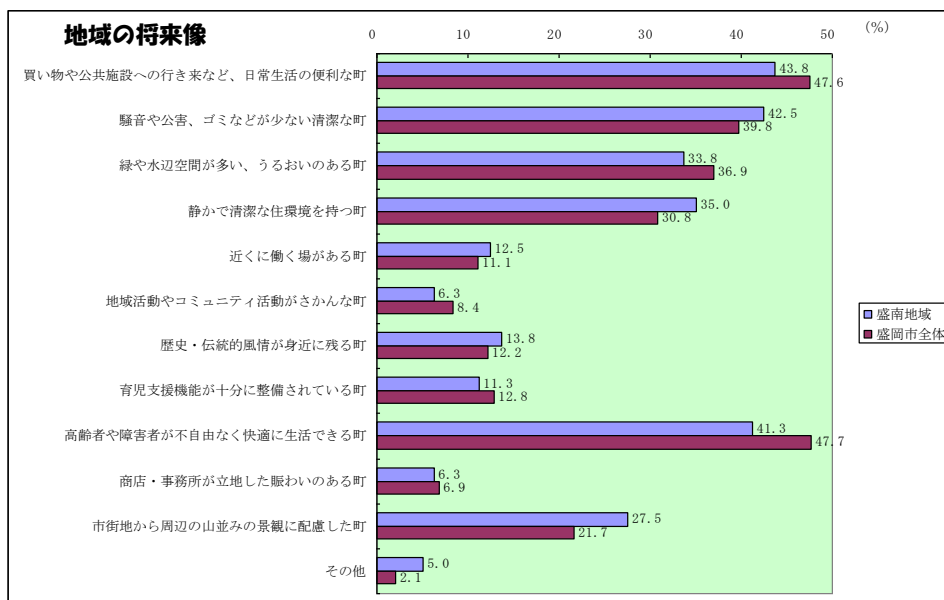
図の凡例

	地域の範囲
	地域の資源 場所を特定できるもの
	地域の資源 場所を特定できないもの
	地域の課題 場所を特定できるもの
	地域の課題 場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成12年7月に実施した市民アンケート調査などをもとに策定した地域別構想（盛南地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。

地域の将来像(全市との比較)



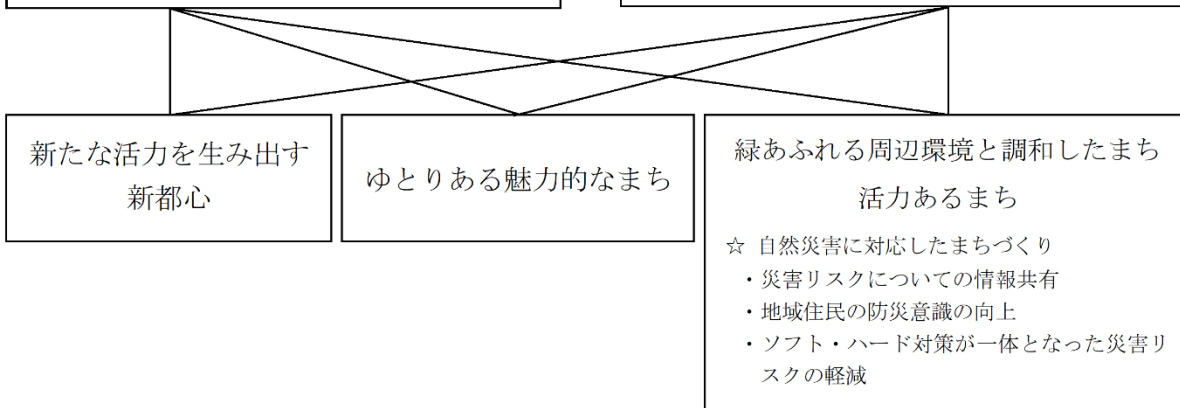
【「平成12年7月 市民アンケート調査」より】

資源

- ◎ ゆたかな自然環境
岩手山、雫石川、中央公園、田園風景
- ◎ 新都心
中心市街地、盛岡駅西口地区とともに市の中心拠点を構成、都市機能の集積
- ◎ 閑静な住宅
区画整理事業の実施区域など

課題

- ◎ 日常生活
バスの便が悪い
- ◎ 災害
水害のリスク（雫石川右岸、東北本線沿い）
- ◎ 地域
少子化・高齢化、空き家の増加



盛岡の新都心にあふれるゆとりとうるおいのある魅力的なまち

(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『盛岡の新都市にふさわしいゆとりと うるおいのある魅力的なまち』

②基本方針

i)新たな活力を生み出す新都心づくり

盛南地域は、土地区画整理事業などにより新たな市街地の整備を行っている地域で、地域の中心部においては、中心市街地及び盛岡駅西口地区とともに盛岡市の中心拠点として、それぞれの地域特性を活かした都市機能の分担を図り、連続的な都心を形成し、また高次の都市機能集積を進めることで、盛岡市の新たな活力を生み出す新都心を形成します。

ii)ゆとりある魅力的なまちづくり

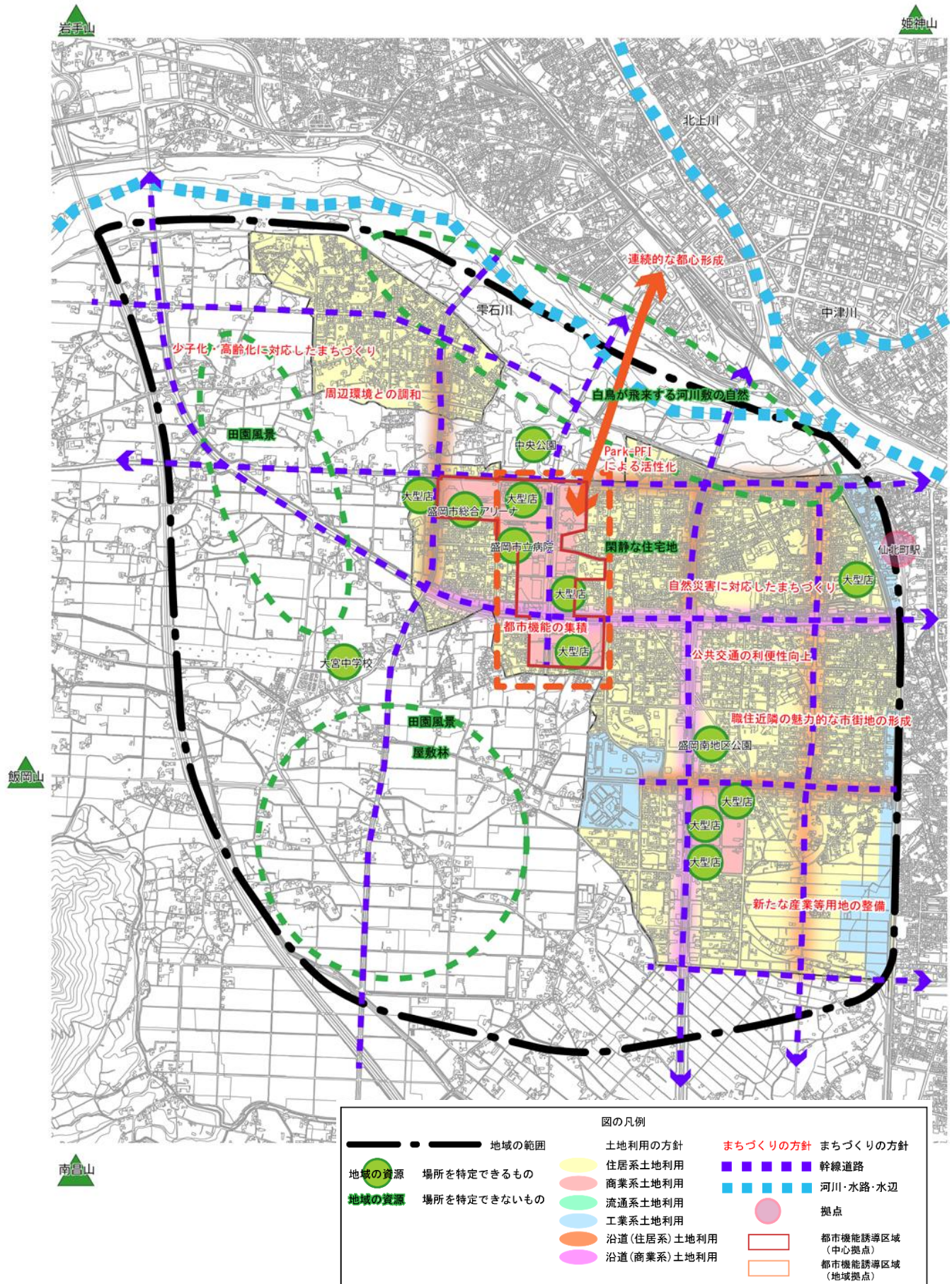
盛南地域は、都心機能に加えて、ゆとりとうるおいのある良好な住宅地を形成しているほか、研究機関の立地を主とする交通の利便性を生かした工業地を配置するなど、魅力的なまちづくりを進めています。地域内の計画的な土地利用の実現のため、建築物の用途制限などにより、落ち着いた住宅地や主要幹線道路沿道に利便性の高い商業業務地の形成を図るとともに、道路や公園などの都市施設の整備を計画的に進め、職・住近接の魅力的な市街地の形成を図ります。

iii)緑あふれる周辺環境と調和したうるおいのあるまちづくり

盛南地域から眺望できる岩手山や河川、田園風景などは、住民の高い評価を得ており、盛岡南新都市地区や道明地区でも岩手山の眺望を意識した道路の整備など地域と融合した計画としています。これらの周辺環境と新しく形成されるまちなみをより調和させるため、地域からの岩手山の眺望の確保や道路沿いの緑化修景を行うなど、ゆとりとうるおいのある美しいまちづくりを推進します。

防災面では、地域を流れる雫石川沿いやJR東北本線側のエリアが、洪水浸水想定区域に含まれています。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

まちづくりの方針マップ



10)見前・永井地域

見前・永井地域の平成13年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

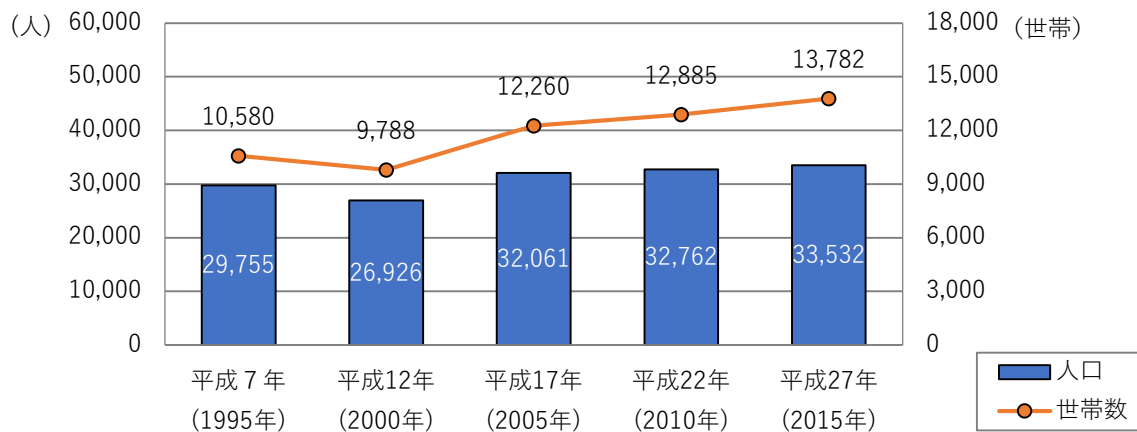
(1)地域の現況

①地域データ

i)人口・世帯数

見前・永井地域の人口と世帯数はともに微増傾向にあります。

人口・世帯数の推移 資料:国勢調査

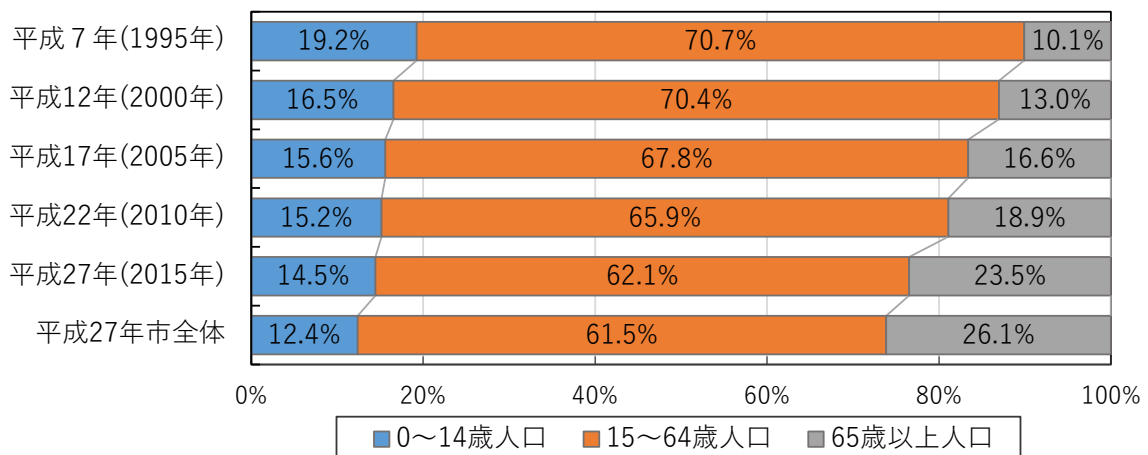


ii)年齢階層別人口割合

見前・永井地域は、高齢化の傾向にあります。市全体に比べて年齢構成は、やや若くなっています。

また、0～14歳人口の割合が高い地域となっています。

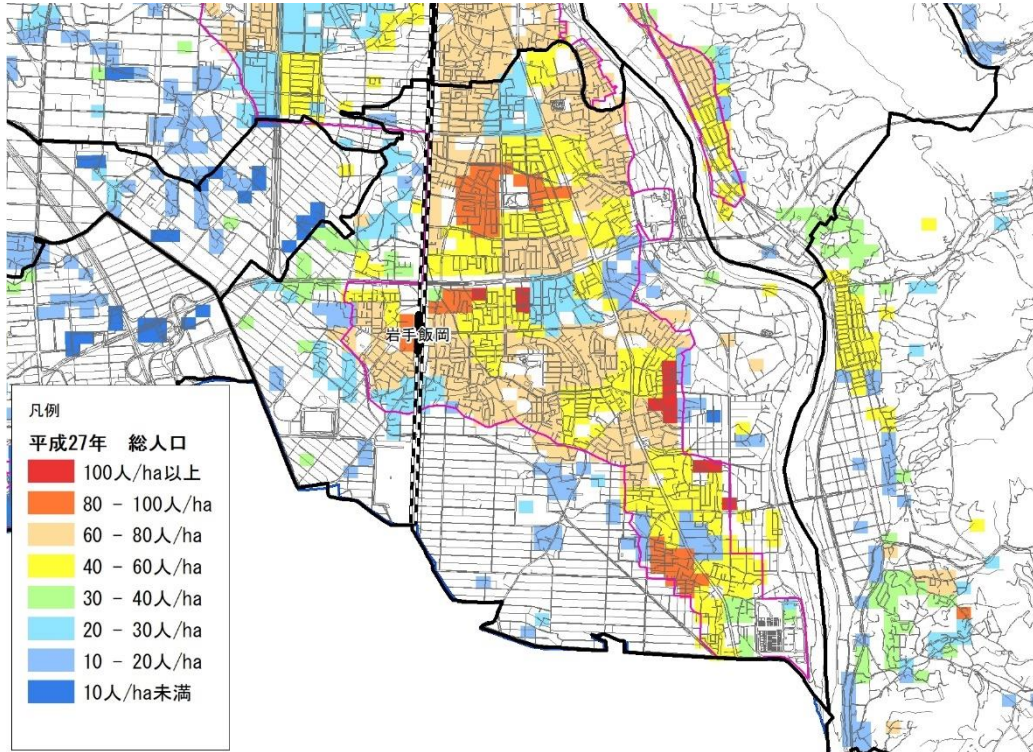
年齢階層の推移 資料:国勢調査



iii)人口の分布状況

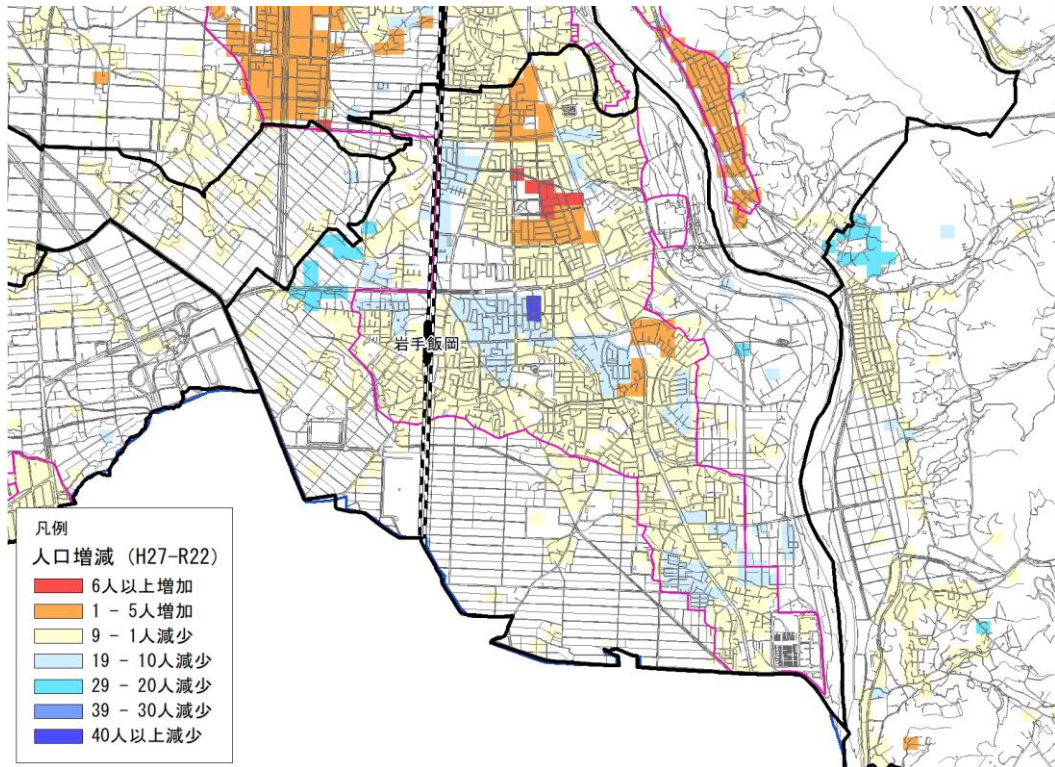
地域内の一部に 100 人/ha 以上の人口が集積しているエリアがみられます。津志田などに、将来的に人口の増加が見込まれるエリアがみられます。65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲は中央に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図 資料:平成 27 年国勢調査結果

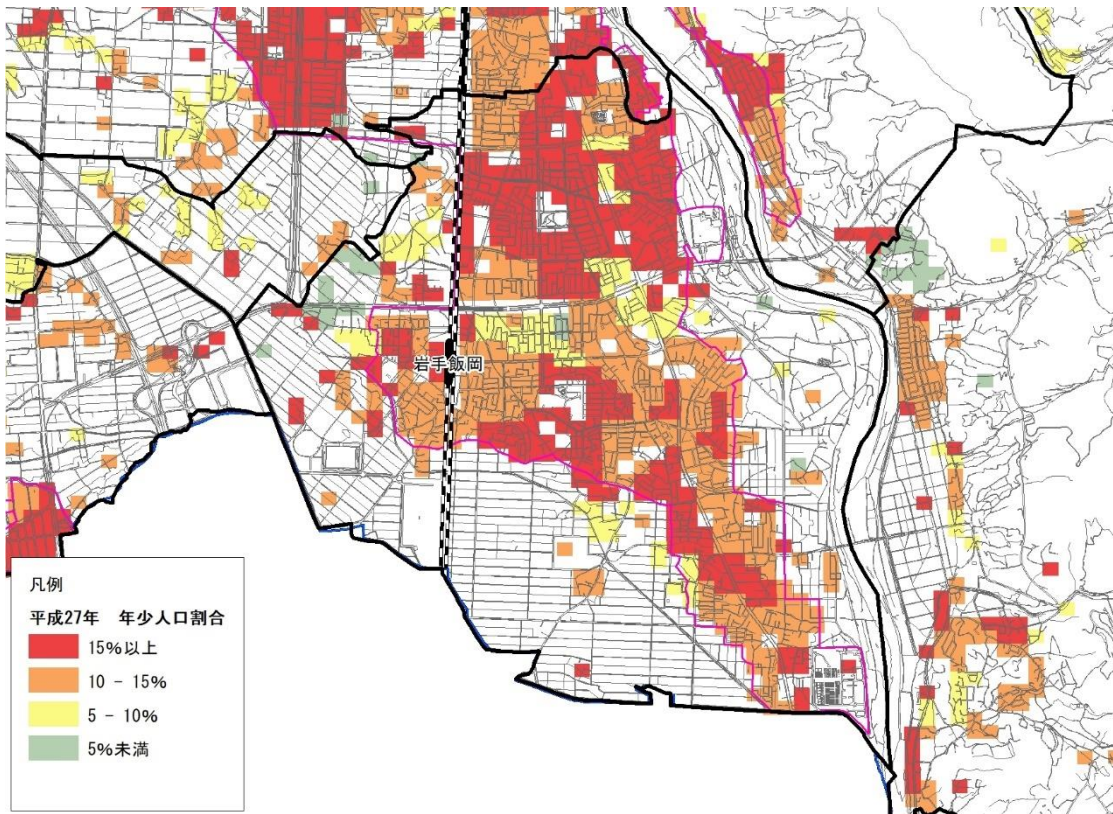


人口増減予測図(平成 27 年～令和 22 年)

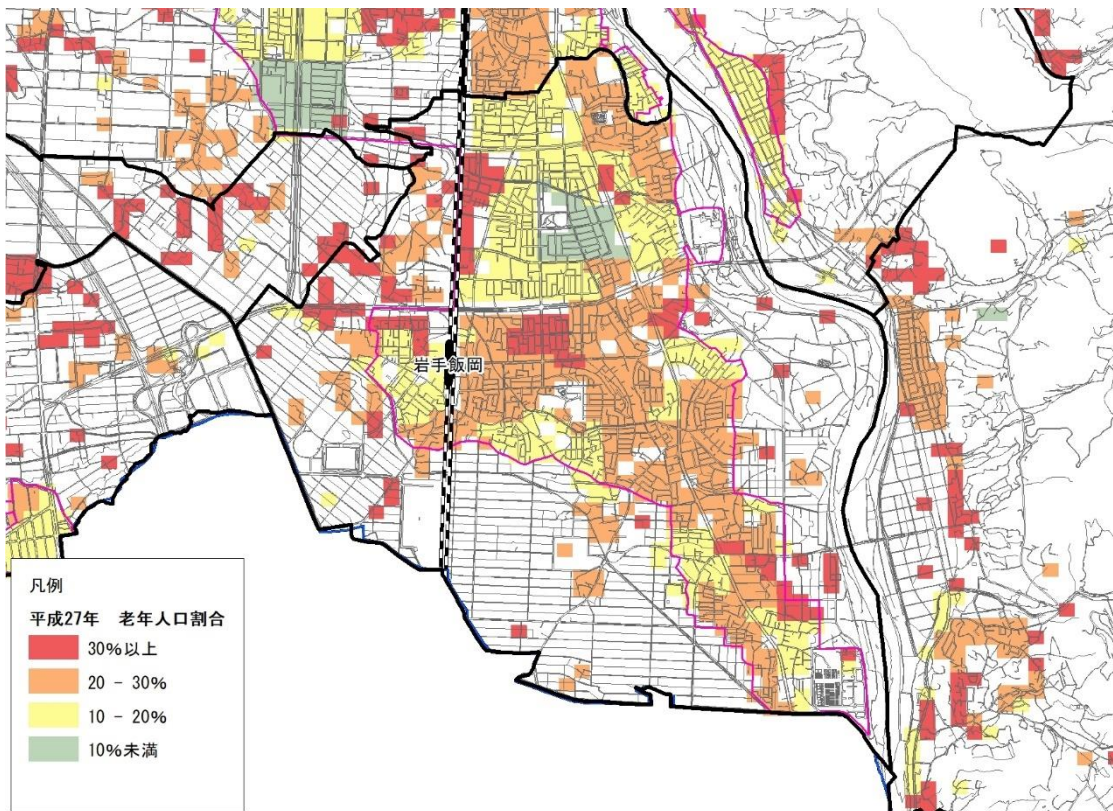
資料:平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果

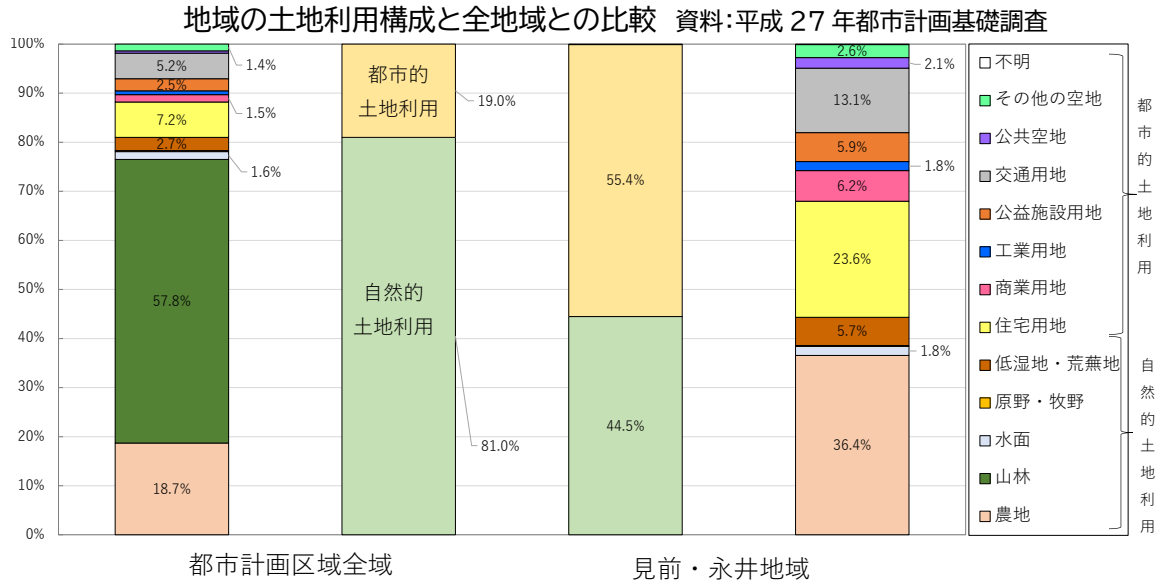


iv)土地利用の状況

見前・永井地域の土地利用は、約 55%が都市的土地利用、約 45%が自然的土地利用となっています。

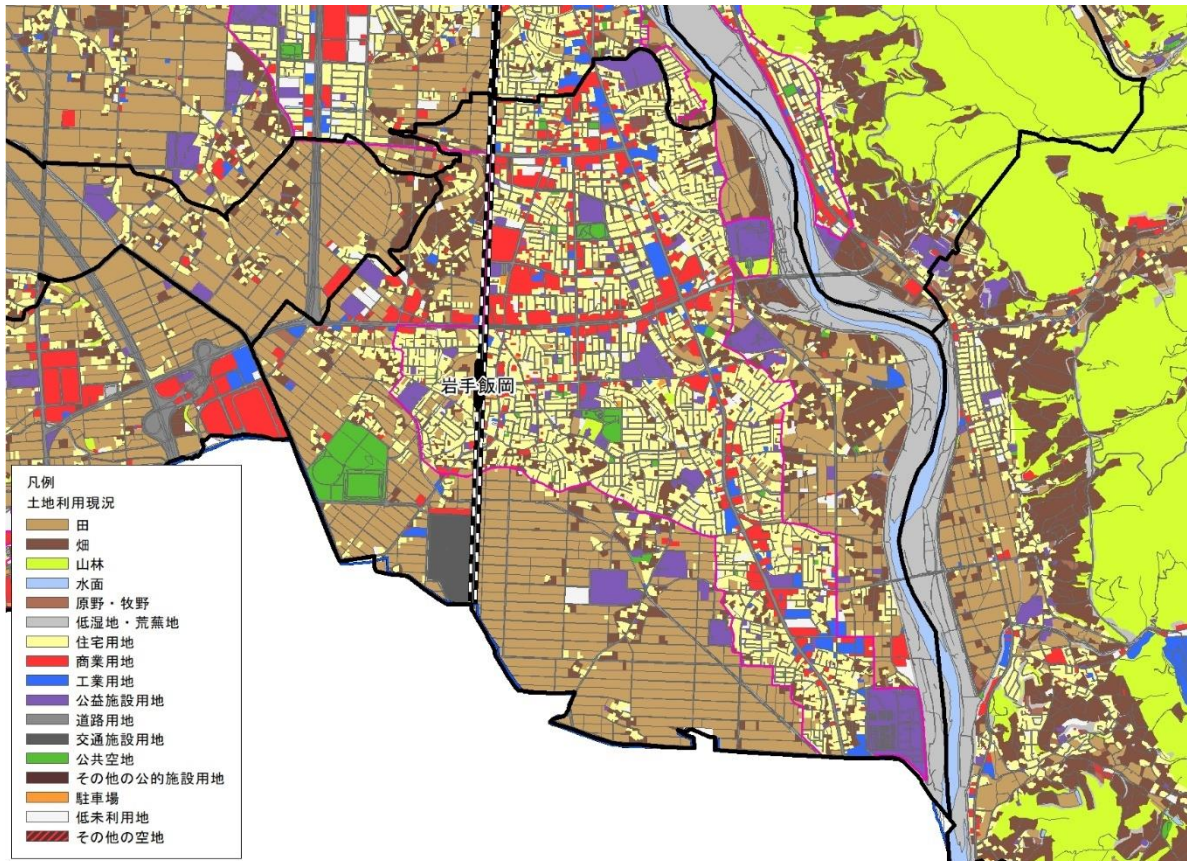
都市的土地利用は、住宅用地が最も多く、次いで、交通施設用地、商業用地、公益施設用地が多くなっています。

自然的土地利用は、農地が多くを占めています。



(地域の土地利用の割合が 1%未満のものは、表記を割愛しました。)

土地利用現況図 資料:平成 27 年都市計画基礎調査

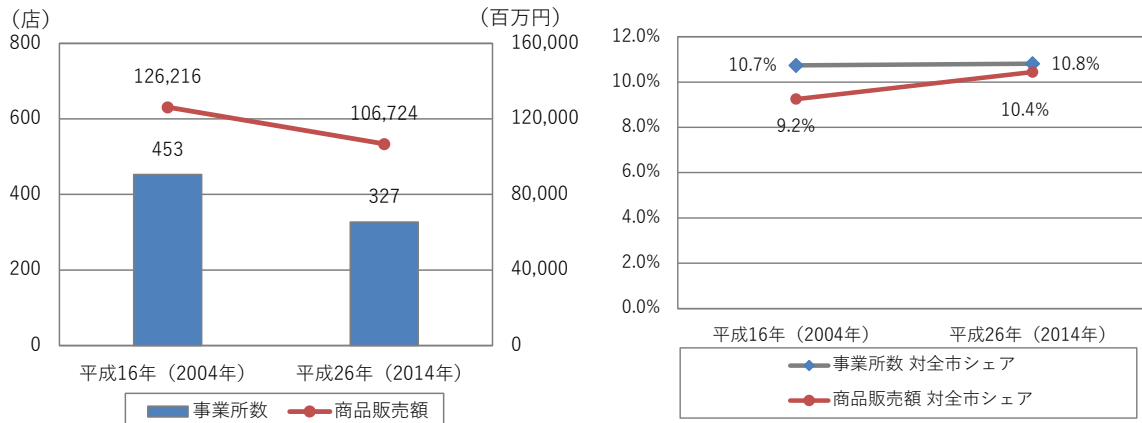


v) 商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも減少傾向にあります。その対全市シェアは、概ね維持されています。

平成26年の地域内の事業所数の対全市シェアは約11%、商品販売額の対全市シェアは約10%となっています。

産業関連指標と対全市シェア 資料:商業統計

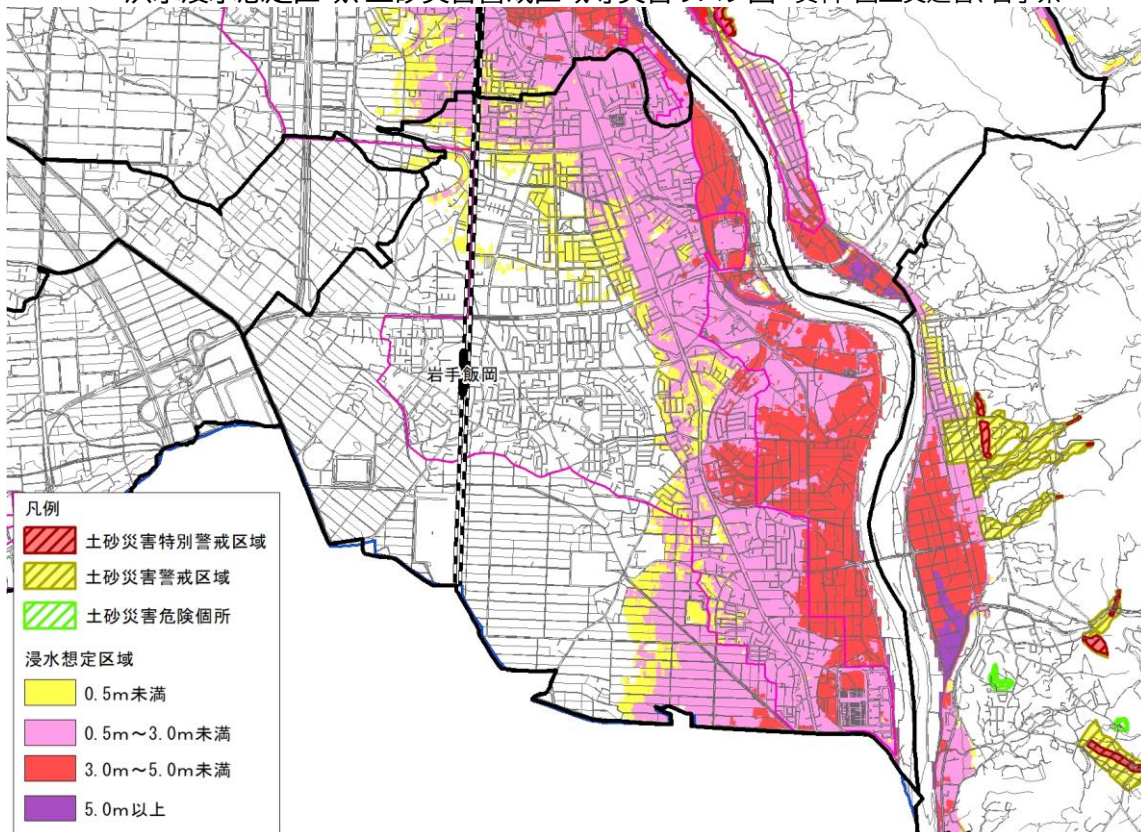


vi) 災害リスクの分布状況

北上川沿いに洪水浸水想定区域が広く分布しており、浸水深が3.0m~5.0m未滿となる範囲が多くなっています。また、一部には浸水深が5.0m以上となる範囲もあります。

土砂災害警戒区域等は分布していません。

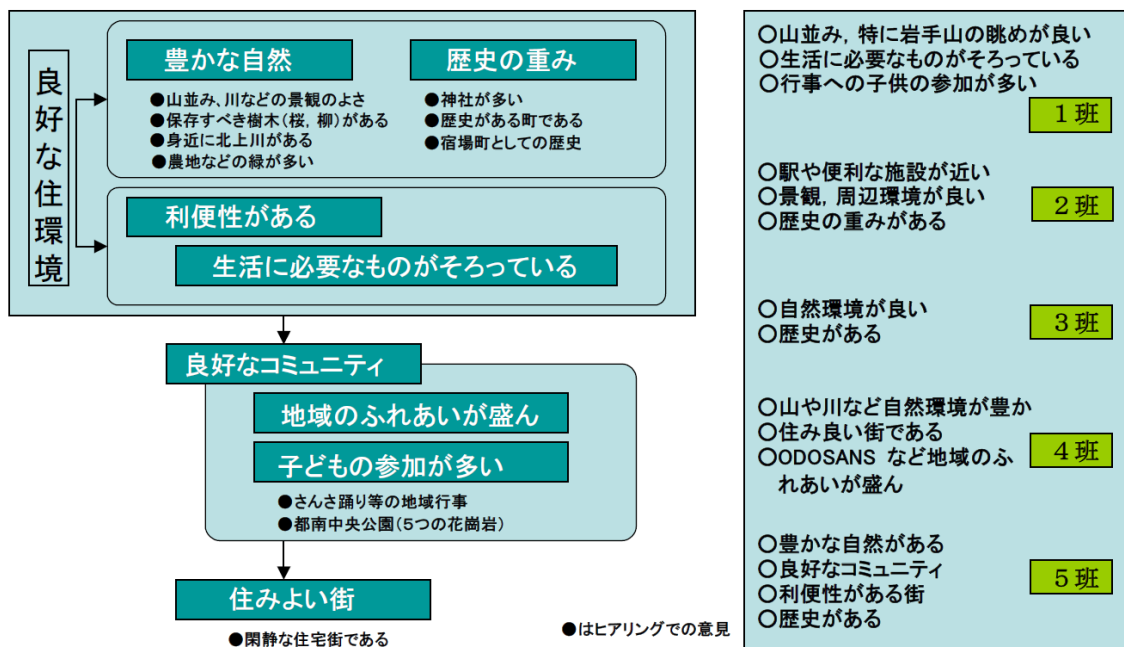
洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図 資料:国土交通省、岩手県



②市民意見

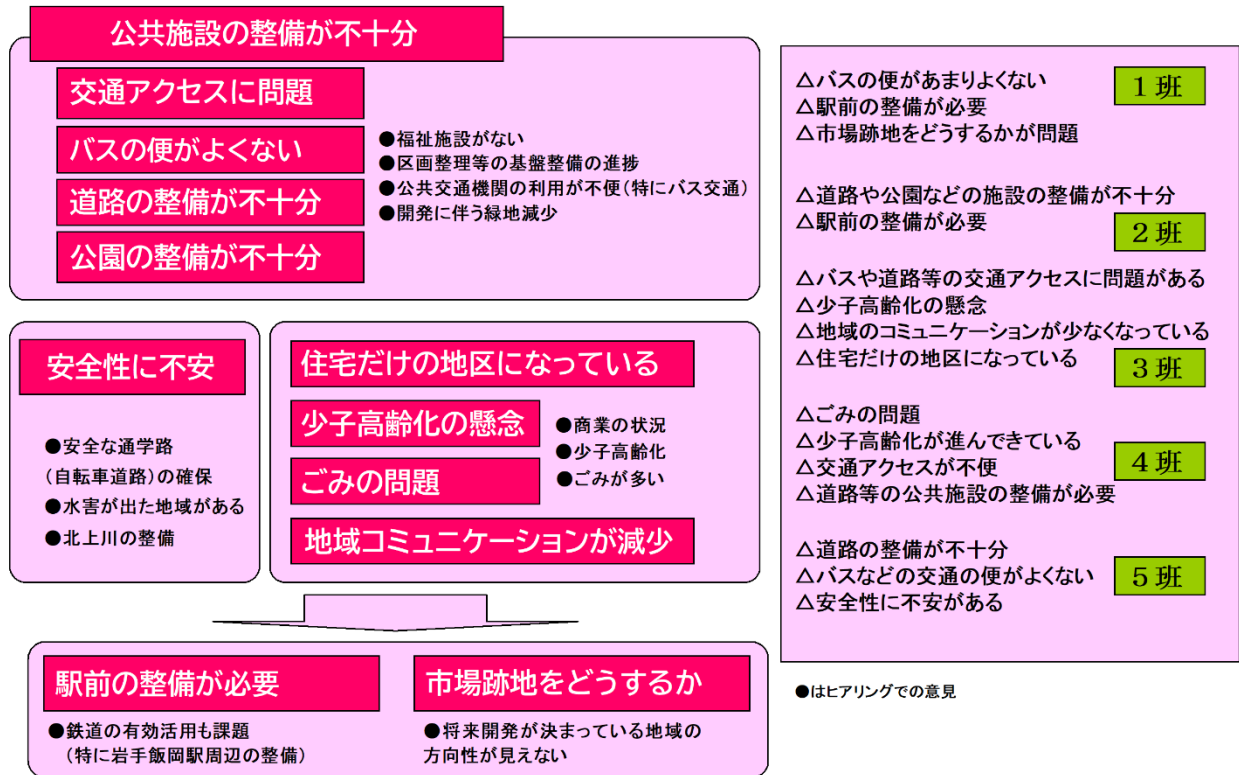
i)地域の良いところ

平成 13 年度に策定した地域別構想（見前・永井地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



ii)地域の課題となっているところ

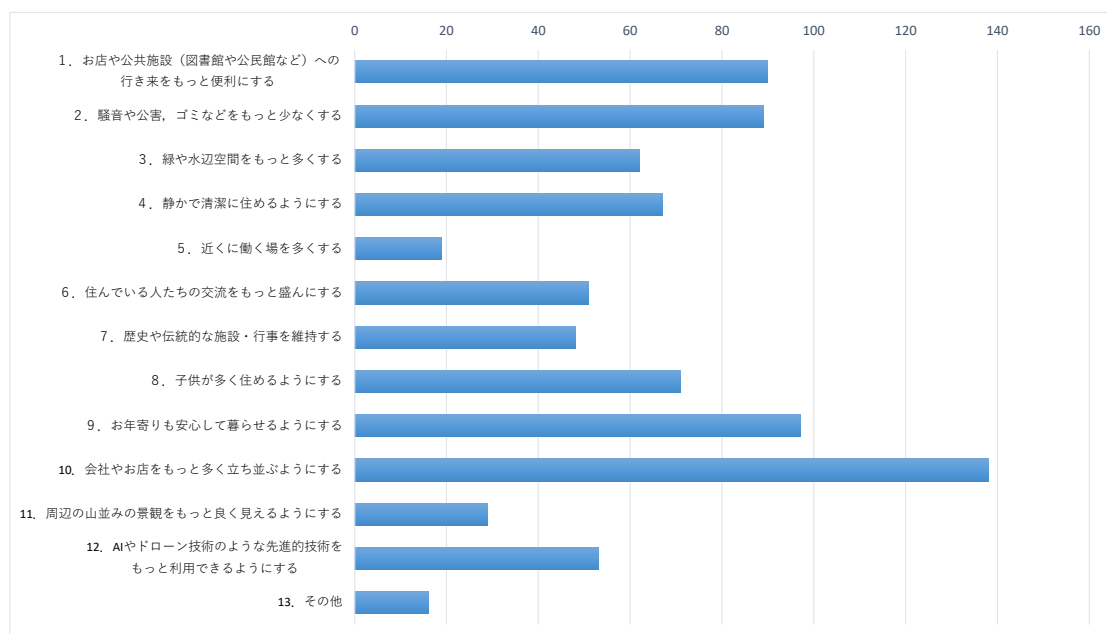
平成 13 年度に策定した地域別構想（見前・永井地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



iii)中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（見前・永井地域）の見直しにあたり、約20年後のまちづくりを担う世代である見前・永井地域の市立中学校2学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（見前・永井地域の315人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「騒音やゴミなどをもっと少なくする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、道路整備に関する意見（舗装等の修繕、道路の拡幅、信号機設置など）、公共施設の整備に関する意見（新たな施設の整備など）が多くありました。

iv)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（見前・永井地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、見前・永井地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔28 町内会・自治会のうち 17 団体（61%）から回答〕
主な意見は次のとおりです。

【資源】

- 都南中央公園、キャラホール、プール、図書館など社会インフラが整備されており快適である。
- 自然に恵まれた環境がよく、人と人の混み合いがなく、日常の生活用品等の購入に困らないように店が点在し、住むには最高の地域である。
- 岩手山が眺められ山、川の自然環境に恵まれた心が癒せる地である。

【課題】

- 岩手医科大の矢巾町移転で、地域の小学校の通学路の交通量が大幅に増えた。
- 北上川や見前川の水害対策。
- 高齢化に伴う施設入所や死亡等で空き家が多くなっている。
- 盛岡南公園周辺の道路の整備が必要である。

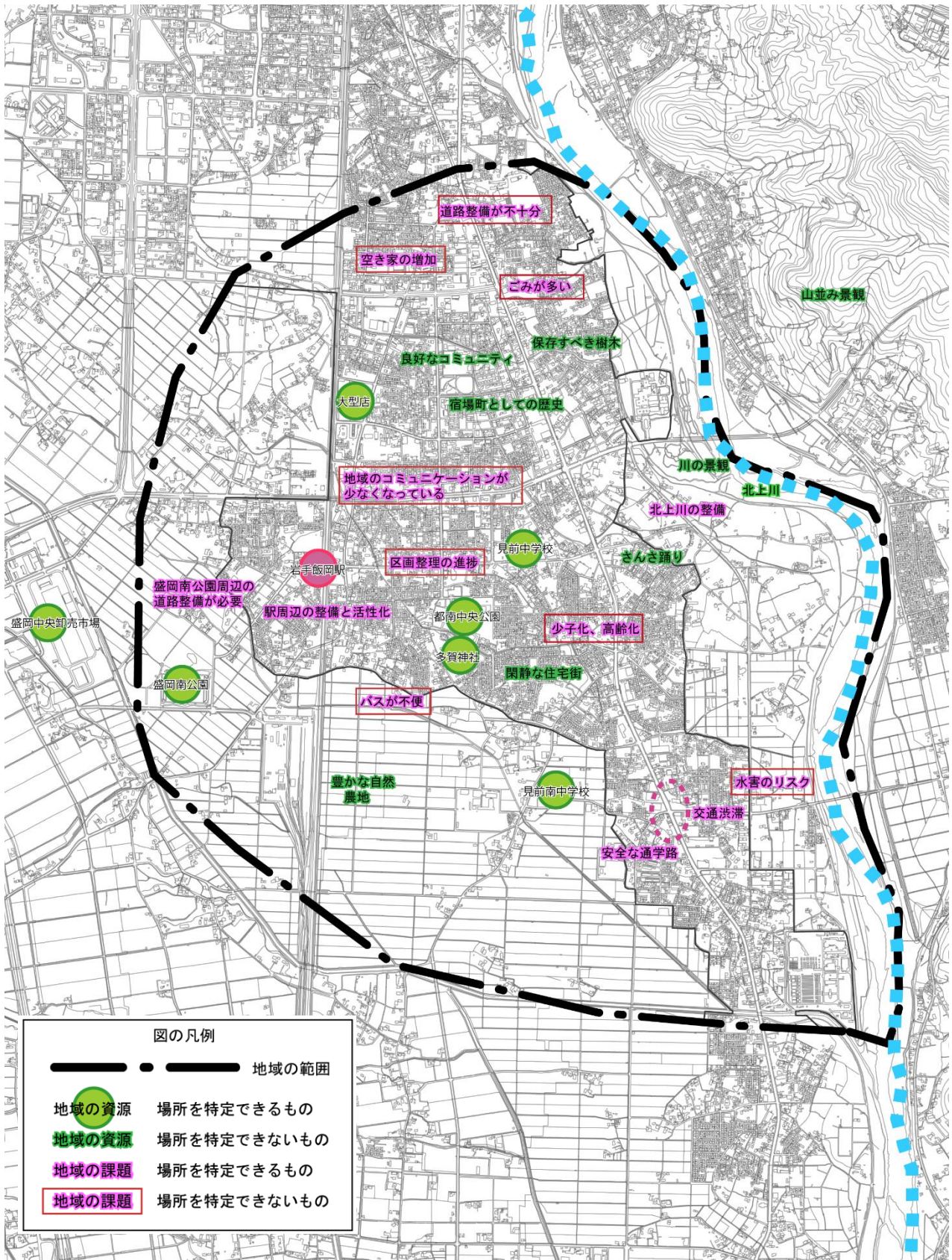
v)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（見前・永井地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、見前・永井地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔28 町内会・自治会のうち 17 団体（61%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

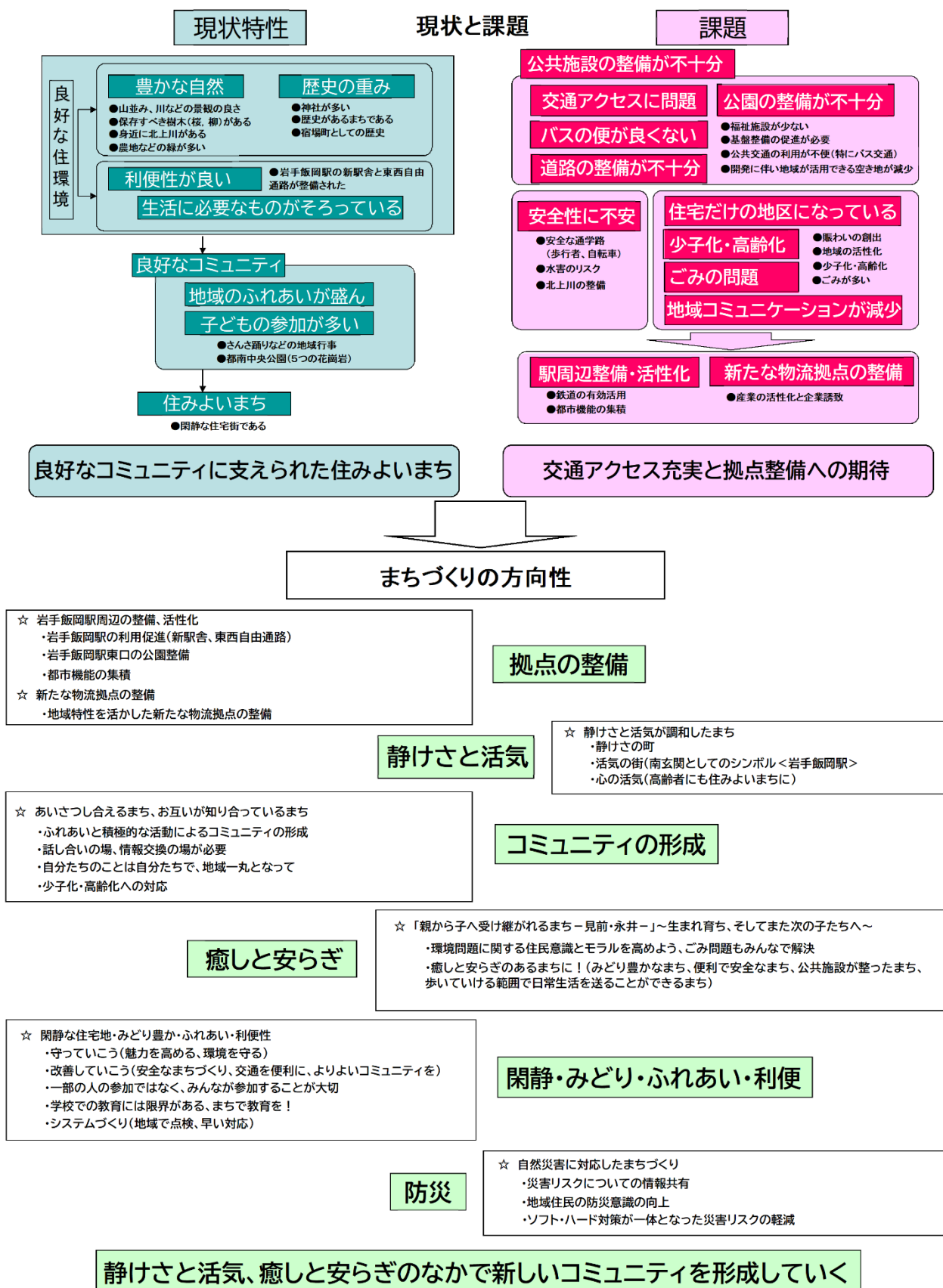
- 高齢化の進展等に配慮した交通弱者が可能な限り長く自立して生活できる環境の整備も重要なテーマであると思う。
- 交流の促進・活発化による地域コミュニケーションの向上。
- 既存地域の文化維持と新興地域の交流促進による充足感の持てる地域づくり。
- 地域内の世代間交流と共助の促進による心の豊かさを持てる地域づくり。
- 都南地域のメイン道路である都市計画道路岩手飯岡駅三本柳線（岩手飯岡駅～国道4号岩手飯岡駅入口交差点）の沿道の新たな賑わいの創出が必要。
- 国道4号東側、主要地方道上米内湯沢線北側の地域の道路環境の改善が必要である。

地域の資源・課題マップ



(2)まちづくりの方向性

平成 13 年度に策定した地域別構想（見前・永井地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。



(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『静けさと活気、癒しと安らぎの中で 新しいコミュニティを形成していくまち』

②基本方針

i)地域の拠点、賑わいの中心整備による見前・永井地域の活気づくり

見前・永井地域は、神社や福祉施設などの施設をはじめ、地域の玄関口としてのJR岩手飯岡駅や幹線道路沿いの商業地のほか、盛岡南公園球技場やいわて盛岡ボールパーク（新野球場）などの施設を有する盛岡南公園も、地域のシンボルや活気づくりの一つとなっています。このシンボル性を高め、地域の賑わいの核となる拠点を形成するよう、JR岩手飯岡駅周辺の整備を進めるとともに、JR岩手飯岡駅東側幹線道路の沿道に都市機能の集積を図ります。

さらに、見前・永井地域と中心市街地の結びつきを充実させるため、JR岩手飯岡駅の利用促進や地域内のバス利便性の向上などを図ります。

また、広域交通の利便が高い地域の特性を生かし、市の産業全般のさらなる活性化と企業誘致を推進し、新たな雇用創出と地域の活性化を図るため、JR貨物駅やインターチェンジ周辺である地域特性を活かした新たな物流拠点の整備に取り組みます。

ii)静けさと安らぎにつつまれた住みよい環境づくり

見前・永井地域は、地域内に田園風景もあり、周辺の山並みや豊富な緑など、自然環境に恵まれています。また、神社などの歴史的な資産も多くあり、癒しと安らぎのなかの快適な住宅地の形成に向けて、良好な既存コミュニティの継続に配慮した道路などの基盤整備を進めながら緑地の保全と創出、景観に配慮したまちづくりを推進します。

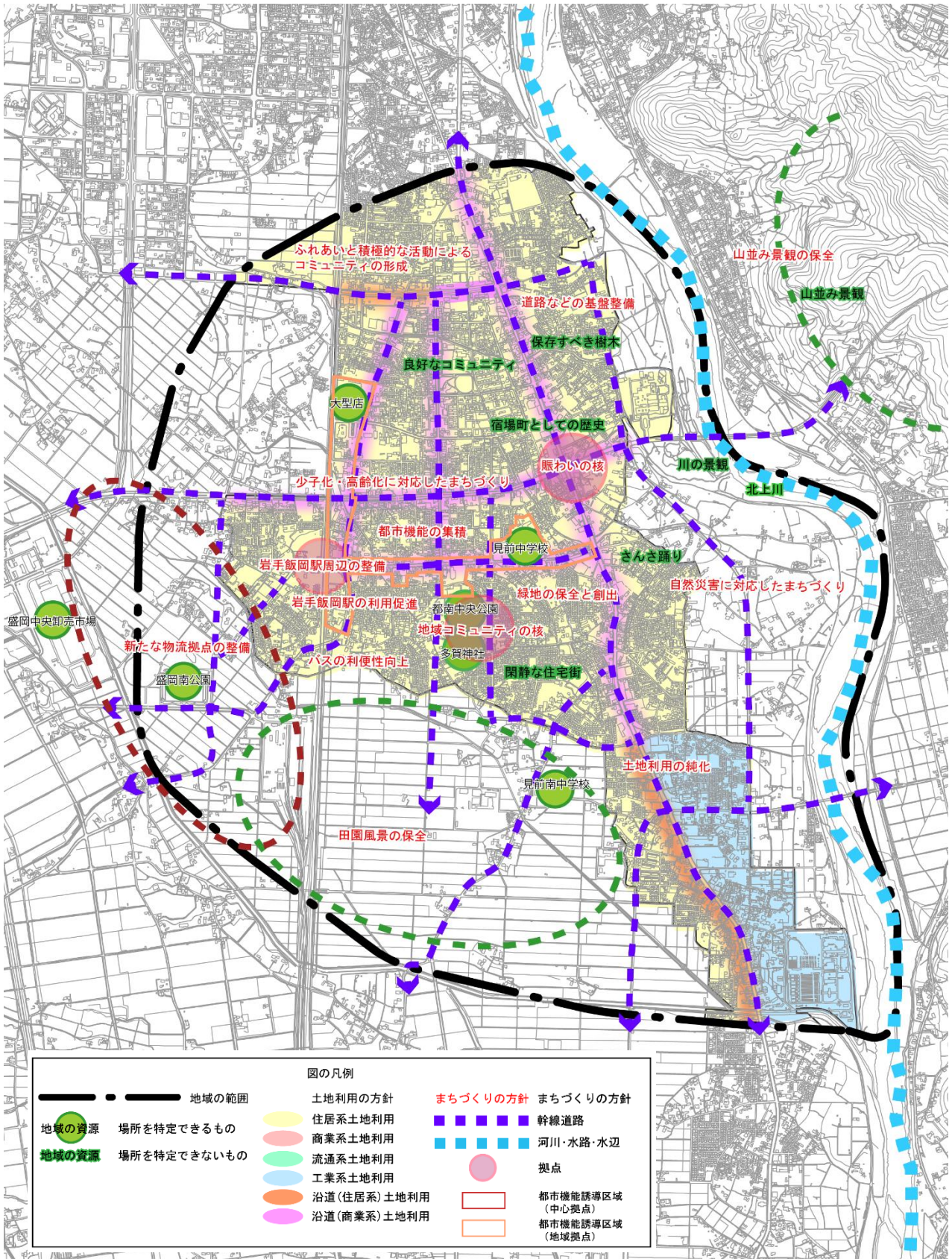
防災面では、地域東側を流れる北上川沿いが、洪水浸水想定区域に含まれています。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

iii)活気と安らぎを支える新しいコミュニティづくり

見前・永井地域は、旧都南村時代から脈々と培われてきた良好なコミュニティがあります。しかし、最近では、少子化・高齢化やアパートの建築により地域のコミュニケーションが少なくなってきたという意見もあります。

今はまだ比較的若い年齢構成の地域ですが、今後高齢化が進行することが予想されます。誰もが安全で安心して活動できるよう施設の整備も進めながら、地域の人々のふれあいと積極的な活動によるコミュニティの形成と、それに支えられるまちづくりを推進します。

まちづくりの方針マップ



11)乙部地域

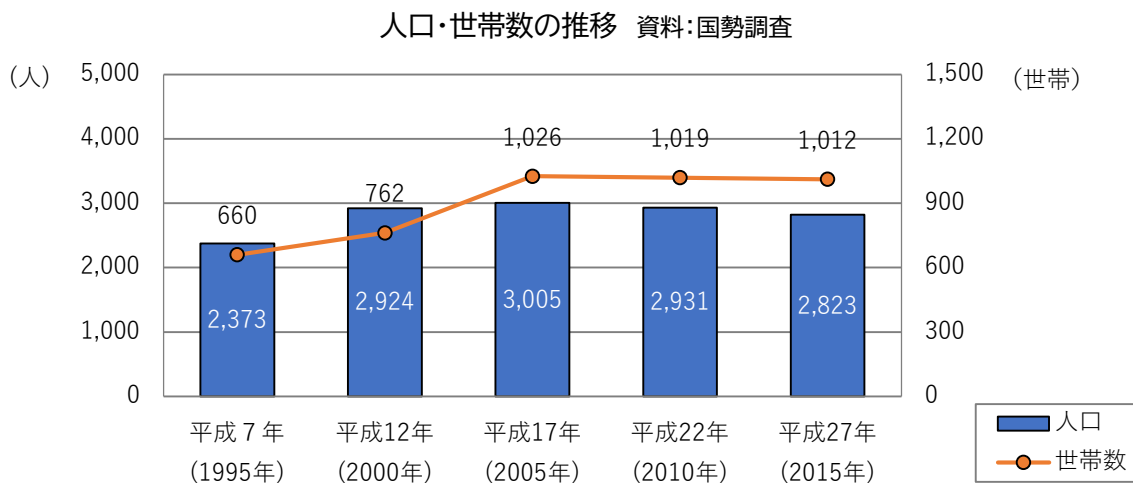
乙部地域の平成 15 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

(1)地域の現況

①地域データ

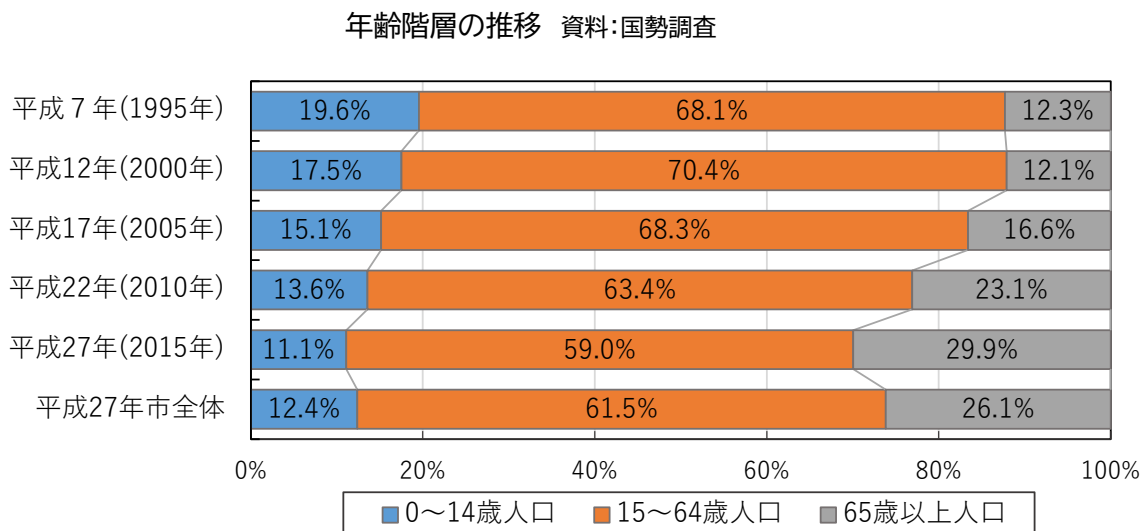
i)人口・世帯数

乙部地域の人口と世帯数は増加から減少傾向に転じています。



ii)年齢階層別人口割合

乙部地域は、高齢化の傾向にあり、市全体に比べて、0～14 歳人口の割合はやや低く、また 65 歳以上人口の割合は高くなっています。

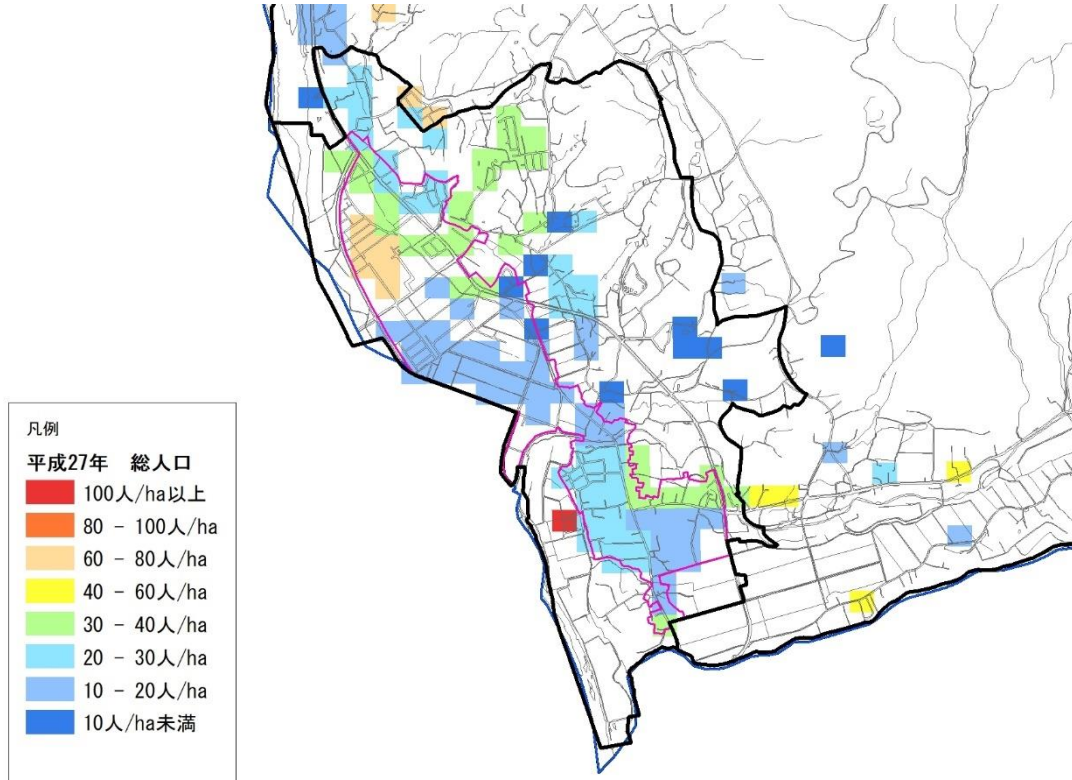


iii)人口の分布状況

地域の人口密度は全体的に低い状況にあり、将来的に多くのエリアにおいて人口減少が見込まれます。

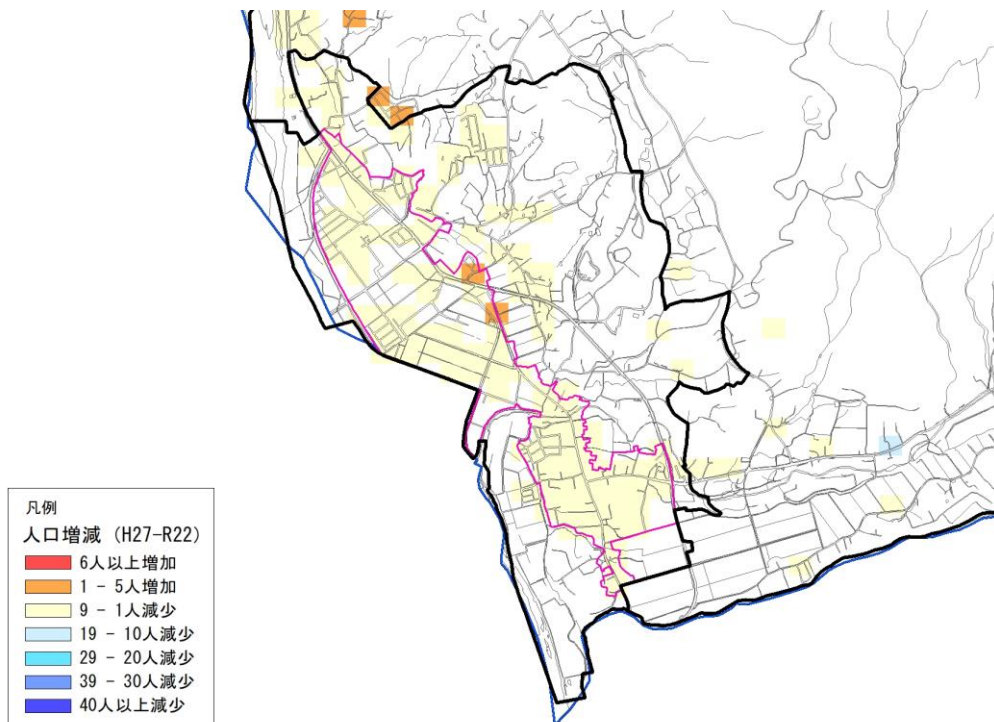
65歳以上人口割合が30%以上の範囲は全域に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図 資料:平成27年国勢調査結果

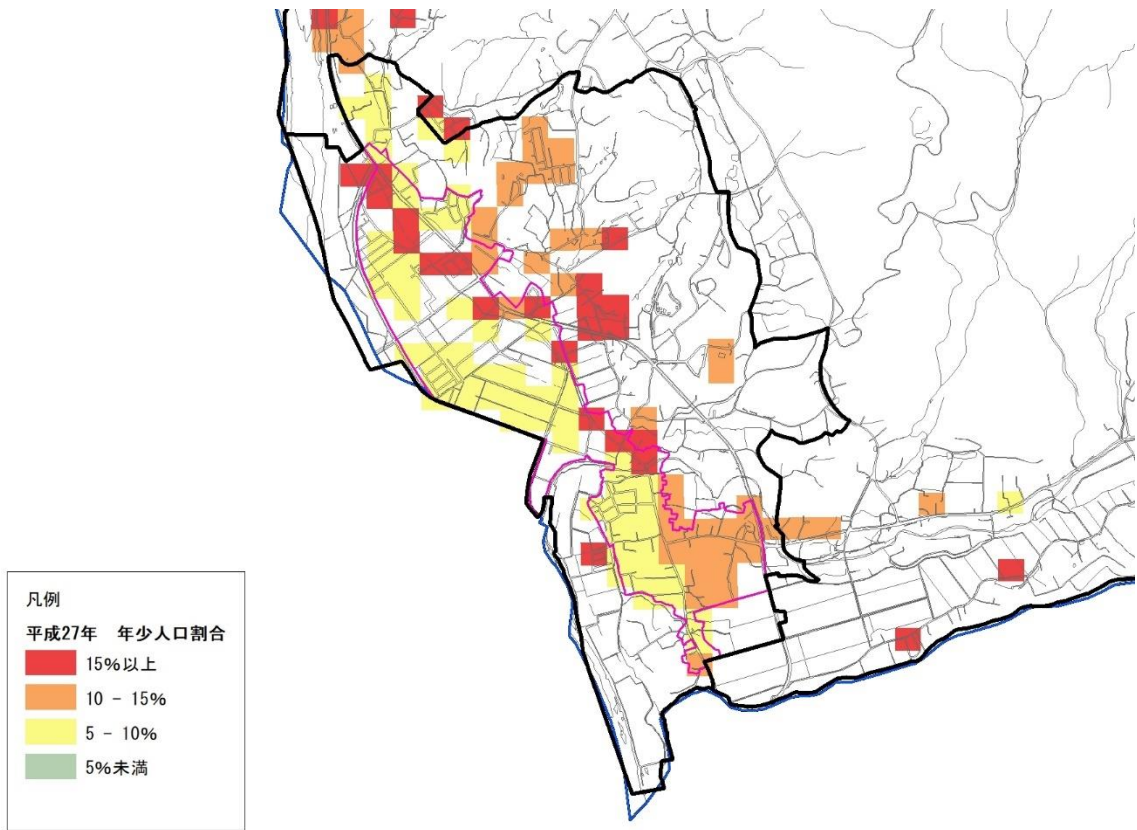


人口増減予測図(平成27年~令和22年)

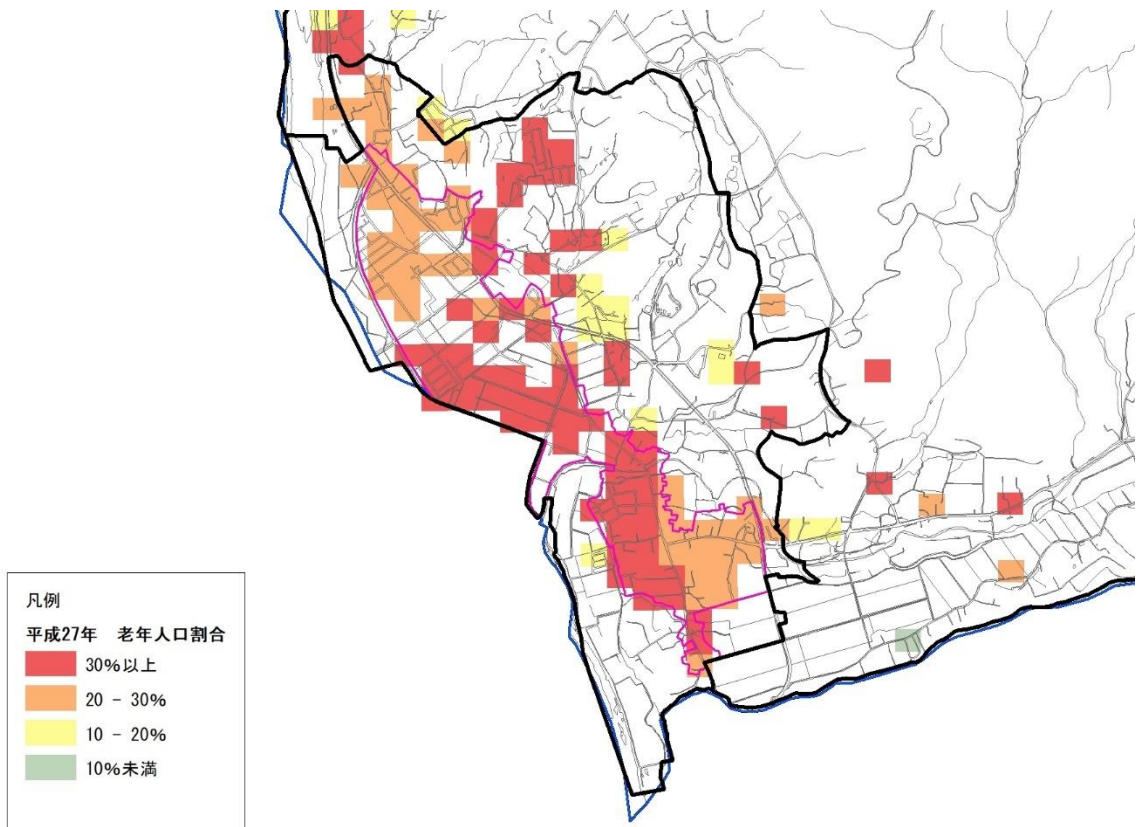
資料:平成27年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



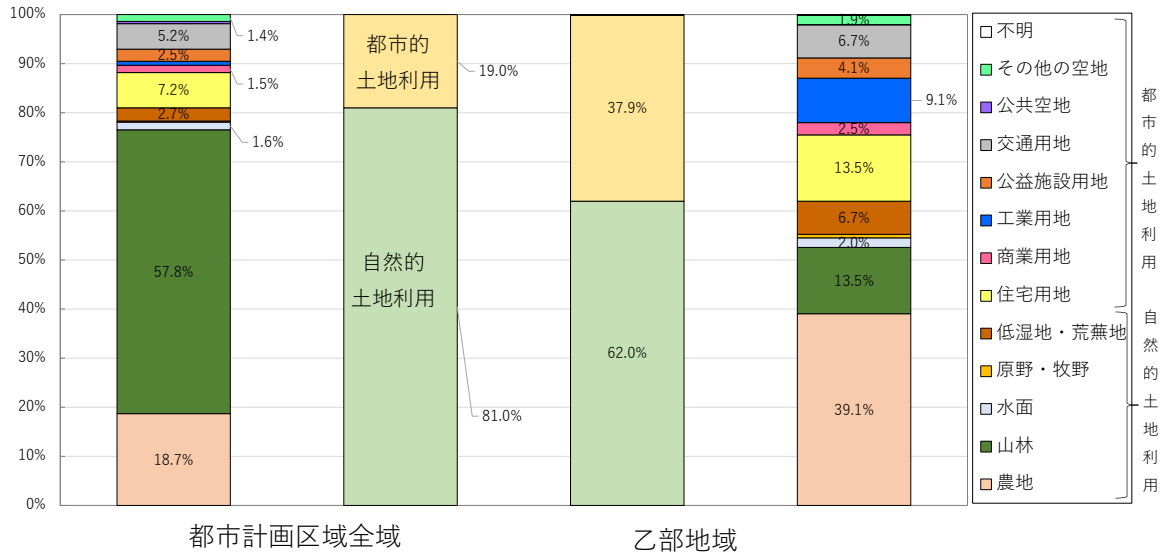
iv) 土地利用の状況

乙部地域の土地利用は、自然的土地利用が約 62%と、都市的土地利用の約 38%を大きく上まわっています。

自然的土地利用においては、農地が最も多く、平坦地の田と丘陵地のリンゴなどの果樹園の広がり地域の特徴となっています。

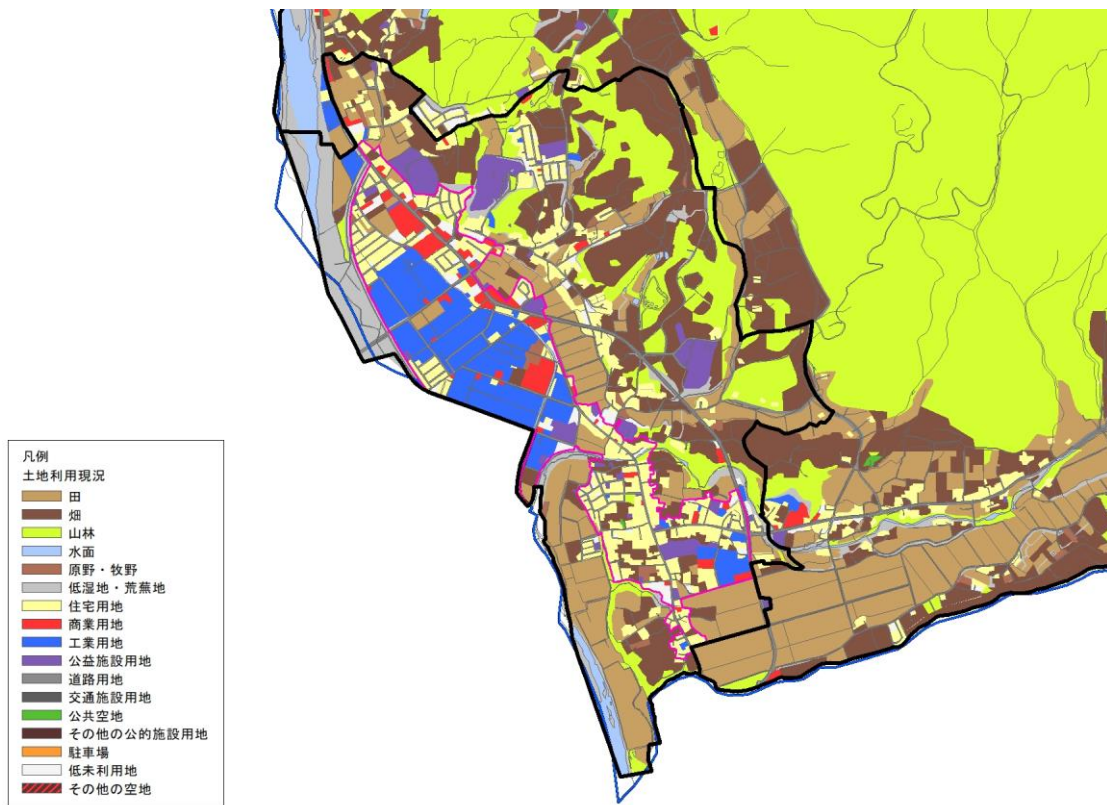
都市的土地利用については、住宅地と工業用地が大きな割合を占めています。

地域の土地利用構成と全地域との比較 資料:平成 27 年都市計画基礎調査



(地域の土地利用の割合が1%未満のものは、表記を割愛しました。)

土地利用現況図 資料:平成 27 年都市計画基礎調査

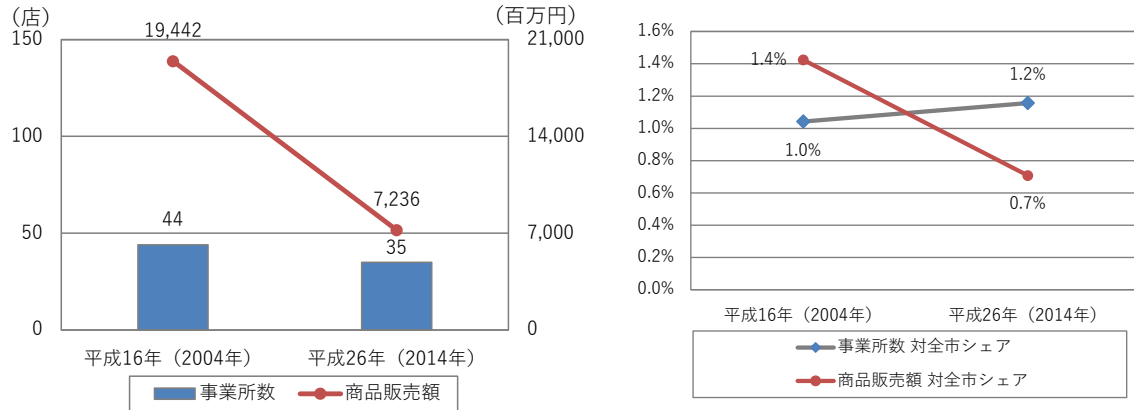


v) 商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも減少傾向にあります。

平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは 1.2%、商品販売額の対全市シェアは 0.7%となっています。

産業関連指標と対全市シェア 資料:商業統計

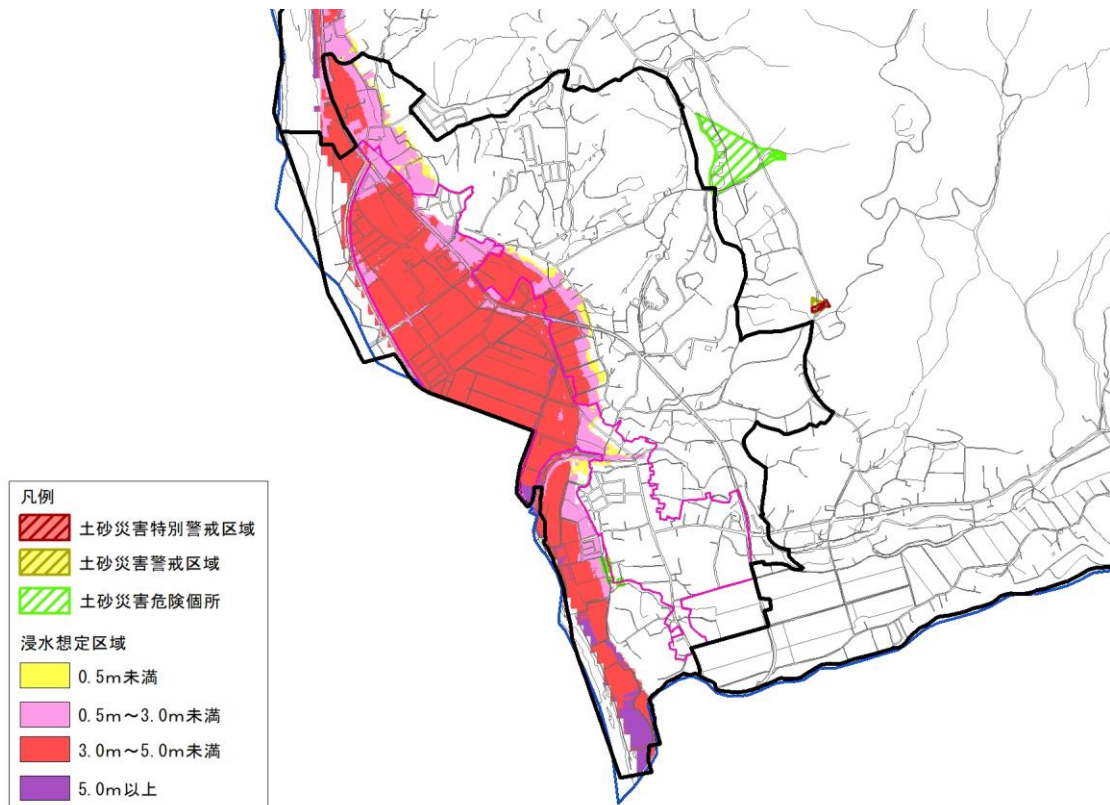


vi) 災害リスクの分布状況

北上川沿いに洪水浸水想定区域が広く分布しており、浸水深が 3.0m～5.0m 未満の範囲が多くなっています。また、一部には浸水深が 5.0m以上となる範囲もあります。

西側の丘陵地には、土砂災害危険箇所が分布しています。

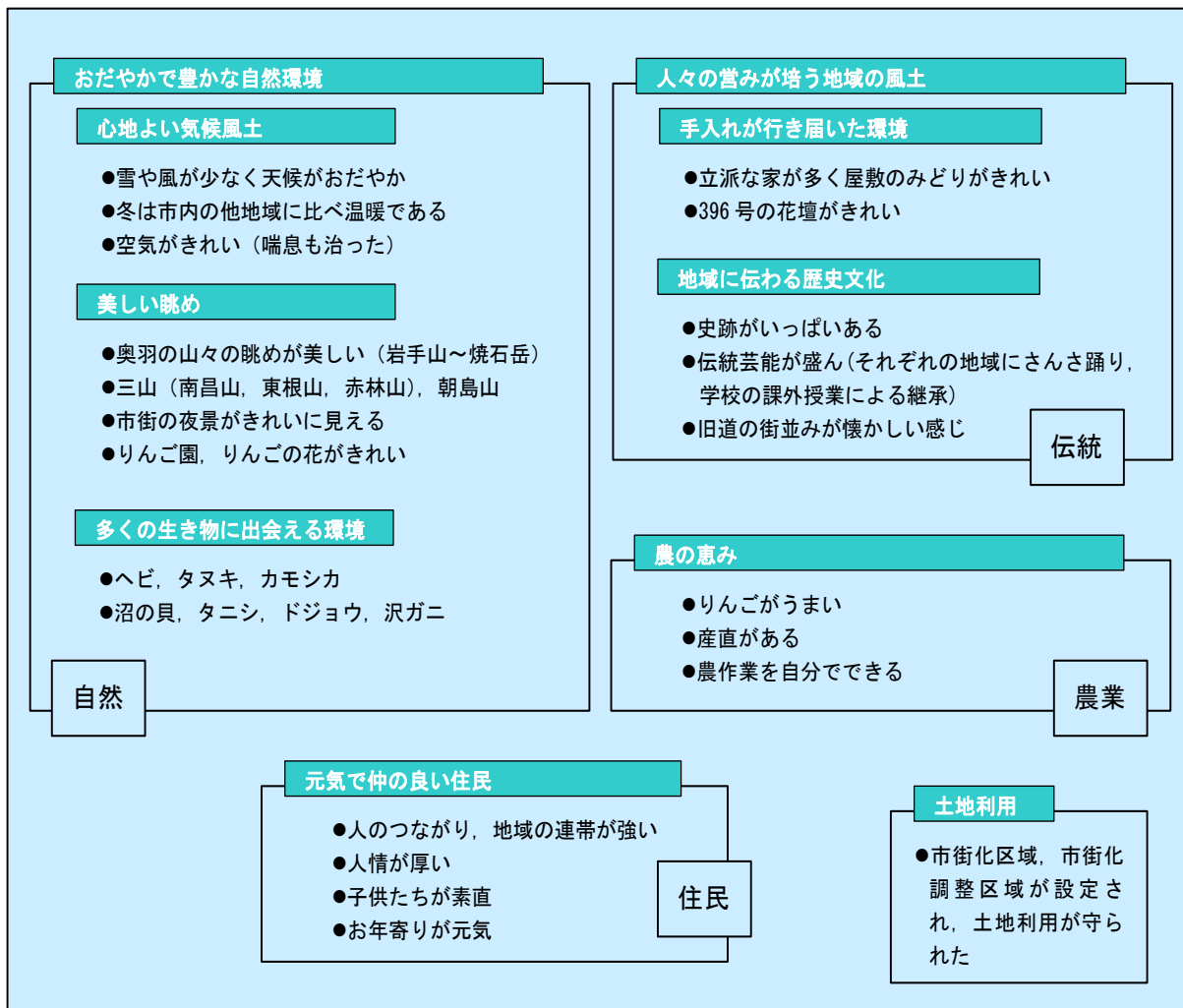
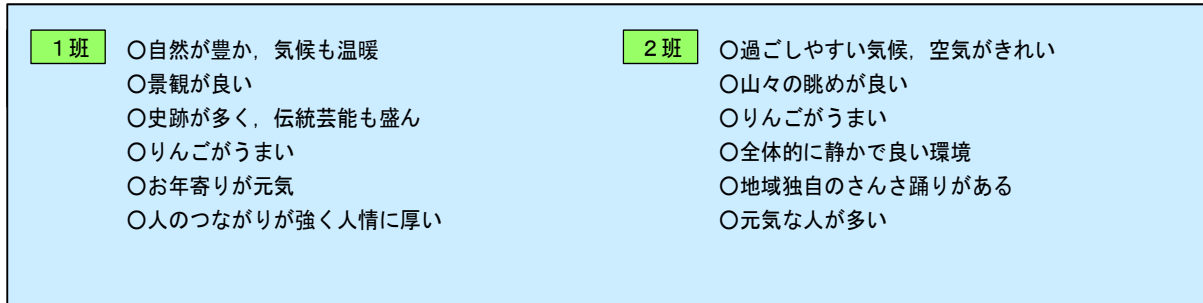
洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図 資料:国土交通省、岩手県



②市民意見

i) 地域の良いところ

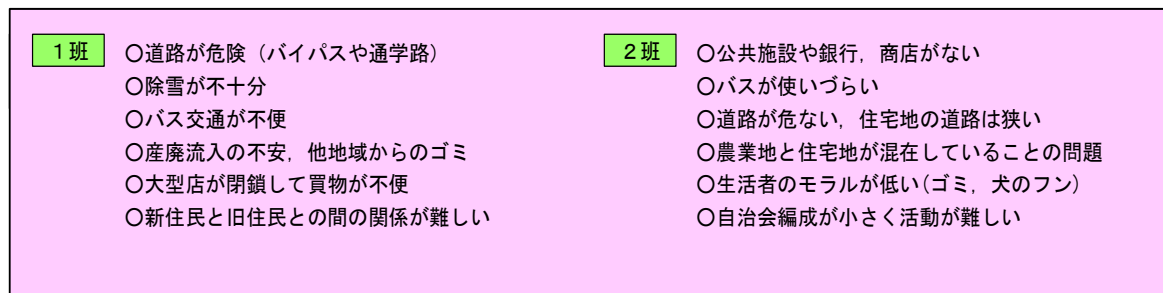
平成 15 年度に策定した地域別構想（乙部地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



農業の恵みと豊かな緑、おだやかな気候に包まれた暮らしやすいまち

ii)地域の課題

平成 15 年度に策定した地域別構想（乙部地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

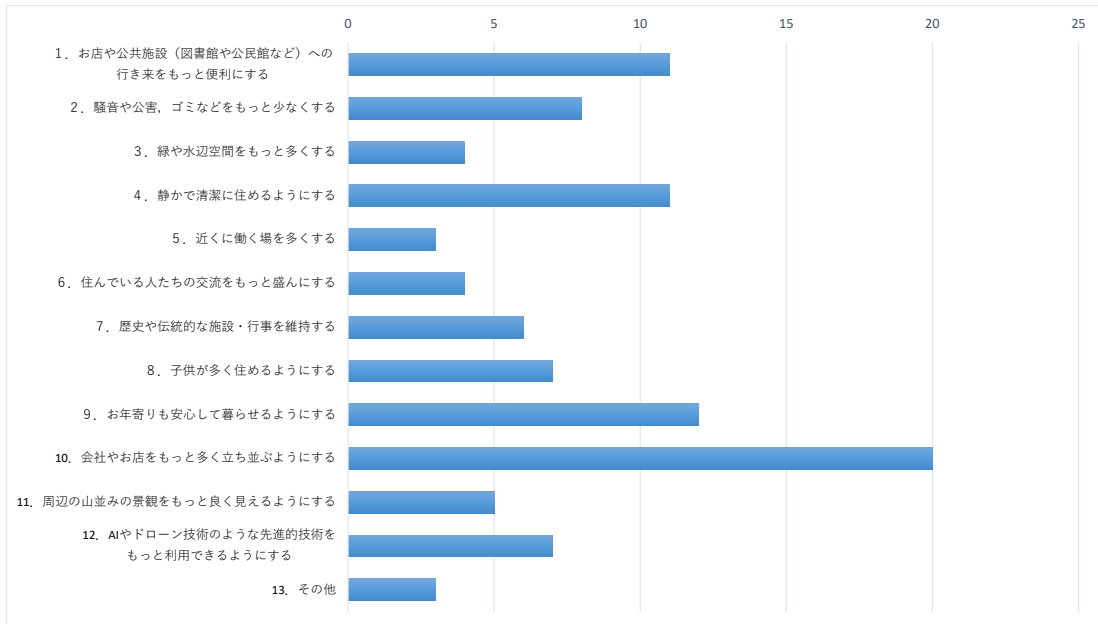


地域コミュニティの育成と安全で暮らしやすい計画的なまちづくり

iii)中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（乙部地域）の見直しにあたり、約20年後のまちづくりを担う世代である乙部地域の市立中学校2学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（乙部地域の39人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「静かで清潔に住めるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、公園整備に関する意見（新たな公園の整備など）、道路整備に関する意見（舗装の修繕、高齢者への対応など）が多くありました。

iv)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（乙部地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、乙部地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔18 町内会・自治会のうち 10 団体（56%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

- 自然に恵まれ山並みがきれい。
- 乙部川をはじめ小さな川にも鮭が上り心豊かになる。
- 散策する場所が多い。
- 全体的に静かで落ち着いた環境である。
- 小学校、中学校と地域のつながりが深い。

【課題】

- 高齢化により自治会の継続に課題がある。
- 空き家対策が必要。
- 公共交通の便が悪く、車がないと生活が不便。
- 公共施設、病院、商店が少ない。

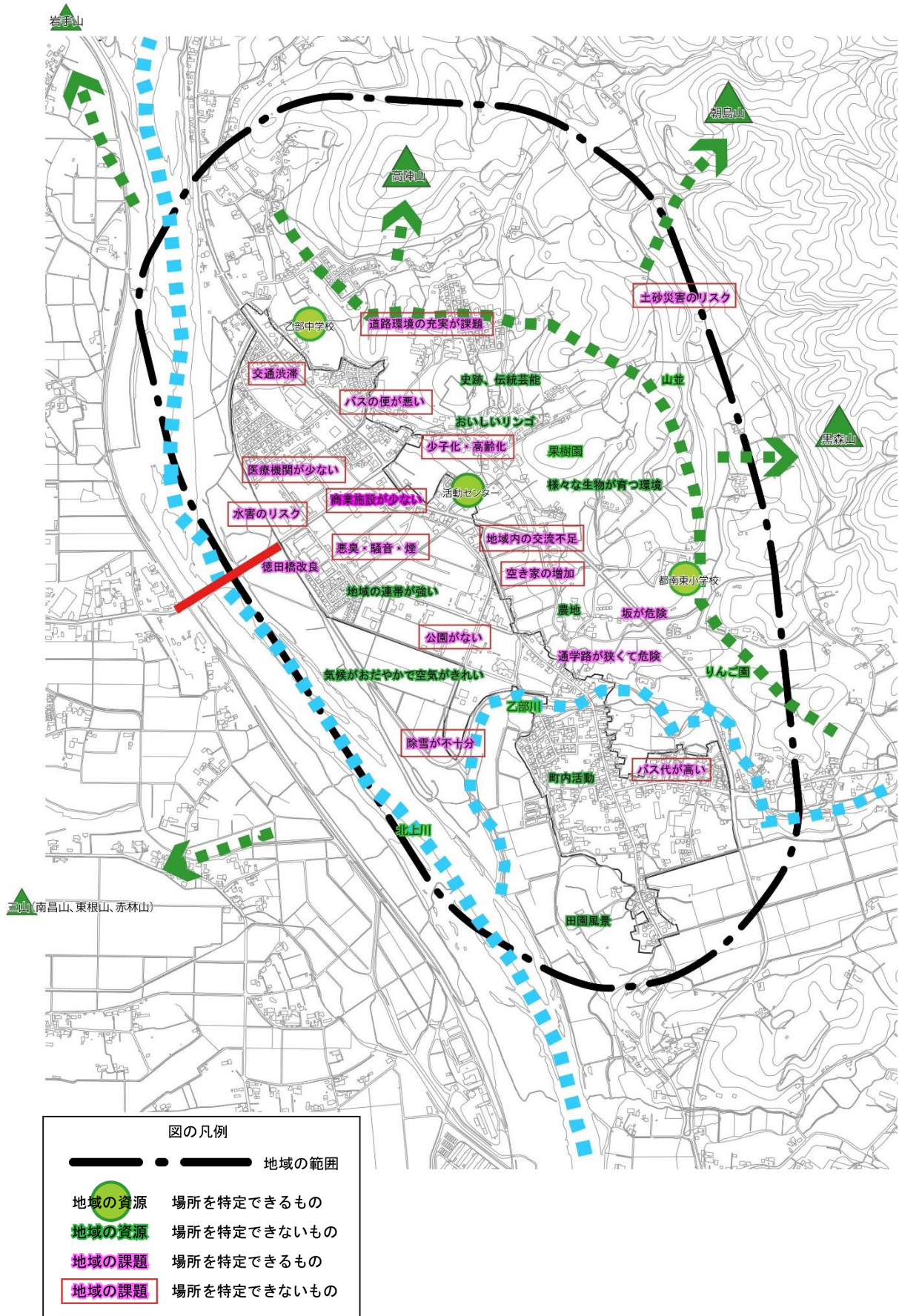
v)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（乙部地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、乙部地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔18 町内会・自治会のうち 7 団体（39%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

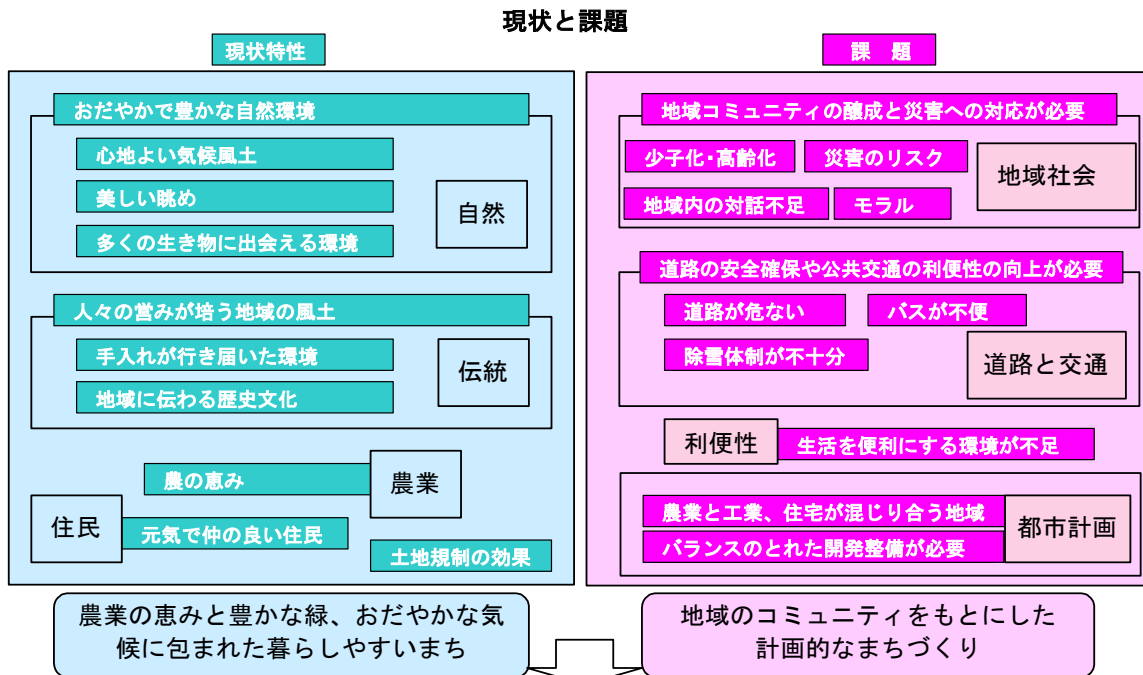
- 農業者（旧住民）と新住民の相互理解のためのコミュニティづくり。
- まちづくりの方向性は、現在の地域別構想に書かれていることを進めれば良いと思う。その中でも、まずは身近なバスの利便性向上だと思う。
- 自然災害で生活環境が大きく変わる。増やすのではなく現在をしっかりとしたものにしてほしい。
- 地域として顕著な変化がみられないため、現在の地域別構想のままで結構ではないか。
- 自然と農業、コミュニティだけでは活性化が難しいと思う。地域に核をつくる必要性、共通認識、情報の周知が必要。

地域の資源・課題マップ

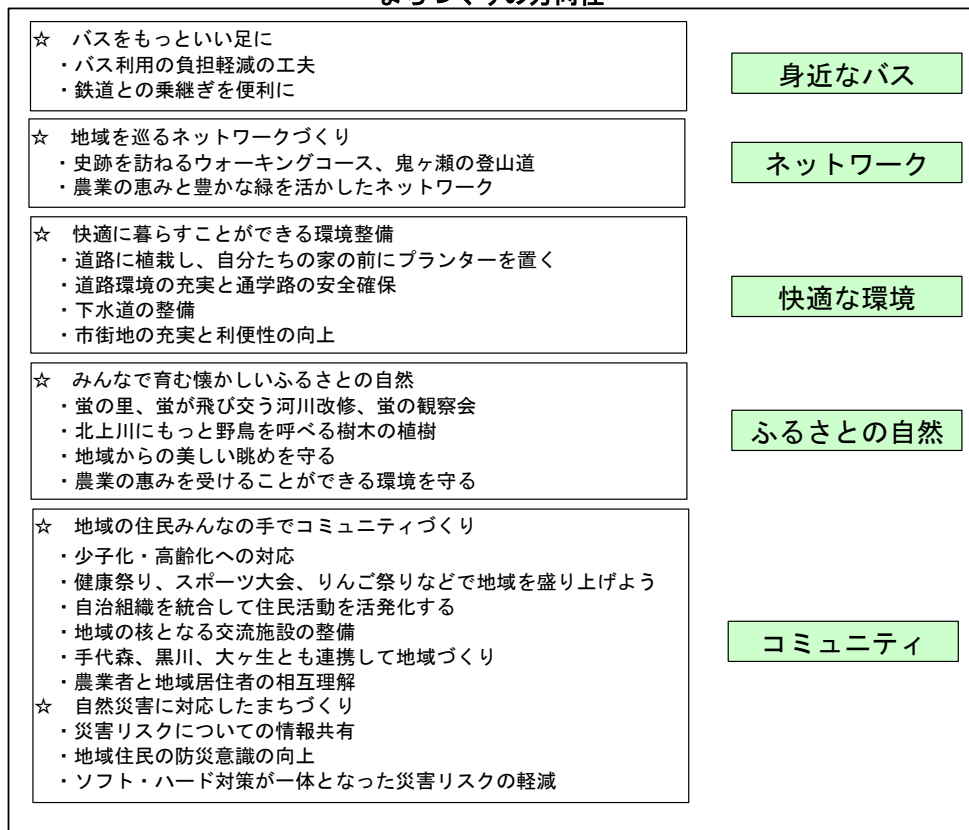


(2)まちづくりの方向性

平成 15 年度に策定した地域別構想（乙部地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。



まちづくりの方向性



自然と生活の豊かさの調和がとれたやすらぎの郷

(3)まちづくりの目標と基本方針**①目標****『自然と生活の豊かさが
調和したやすらぎの郷』****②基本方針****i)自然環境と利便性が調和したまちづくり**

乙部地域は、気候に恵まれ、おいしい空気と美しい景観に包まれた住み心地のよい地域ですが、日常生活の面では、バスや買い物の利便性の向上や道路環境の充実が課題となっています。

より豊かな生活環境をつくるため、日常生活を支える道路整備など公共施設の充実を図るとともに、バス運行の工夫などにより、誰もが活用できるよう利便性の向上を図ります。

また、懐かしいふるさとの自然が息づくやすらぎのある郷を目指し、蛍をはじめ、様々な生物が育つ環境を守り続けていくとともに、北上川、周辺の山々、田園風景、りんご園などの自然環境と調和したまちづくりを推進します。

ii)周辺地域の核となるまちづくり

乙部地域は、手代森、黒川及び大ヶ生などの周辺地域の中心的な役割を担っています。これからも、各地域との交流連携を深めるとともに、既存の施設を活用しながら、地域コミュニティの核としてのまちづくりを推進します。

また、周辺地域を含めて、郷土の歴史資源や自然環境を再発見する活動を行いながら、これらの資源を活かした地域めぐりのルートを形成するなど、活力のあるまちづくりを推進します。

iii)コミュニティを育て安心して暮らせるまちづくり

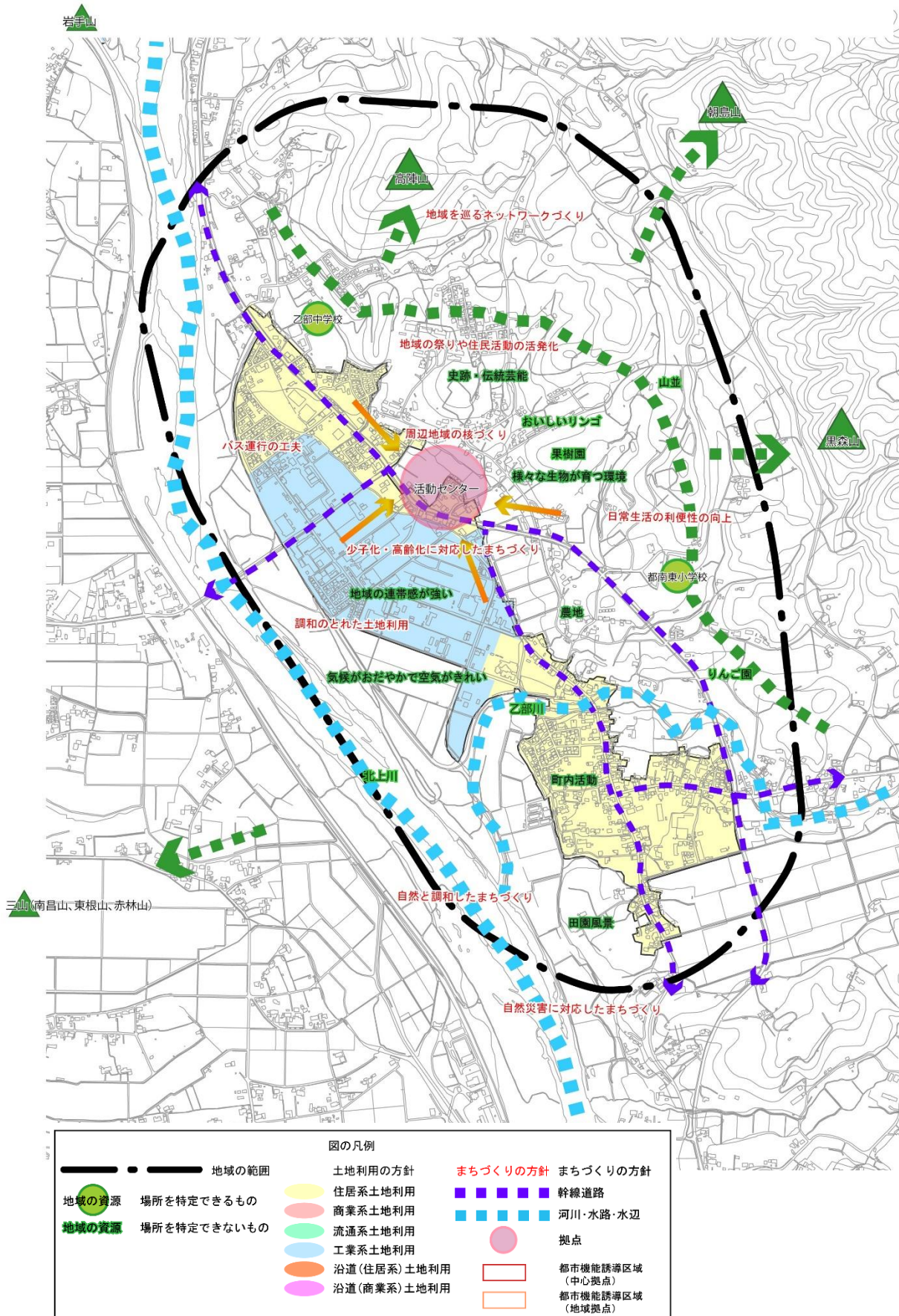
乙部地域は、長く続いてきた農村地域に都市化による新たな住宅地などが形成されてきた地域ですが、少子化・高齢化の進行や空き家の増加などの問題が顕在化しています。

農業地帯の生産環境を保全しながら、商工業や住宅地としての利用を計画的に進め、調和のとれた土地利用を図ります。また、地域を代表するりんごを中心とした祭りや自治活動を活発に行うなどして、住民のふれあい交流を深め、コミュニティの醸成を図ります。

さらに、今後の社会情勢などの変化に対応した施設整備やまちづくりなどにより、誰もが安心して暮らせる住環境づくりを推進します。

防災面では、地域西側を流れる北上川沿いが、洪水浸水想定区域に、また、丘陵地の一部が土砂災害警戒区域などに含まれています。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

まちづくりの方針マップ



12) 飯岡・湯沢地域

飯岡・湯沢地域の平成14年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

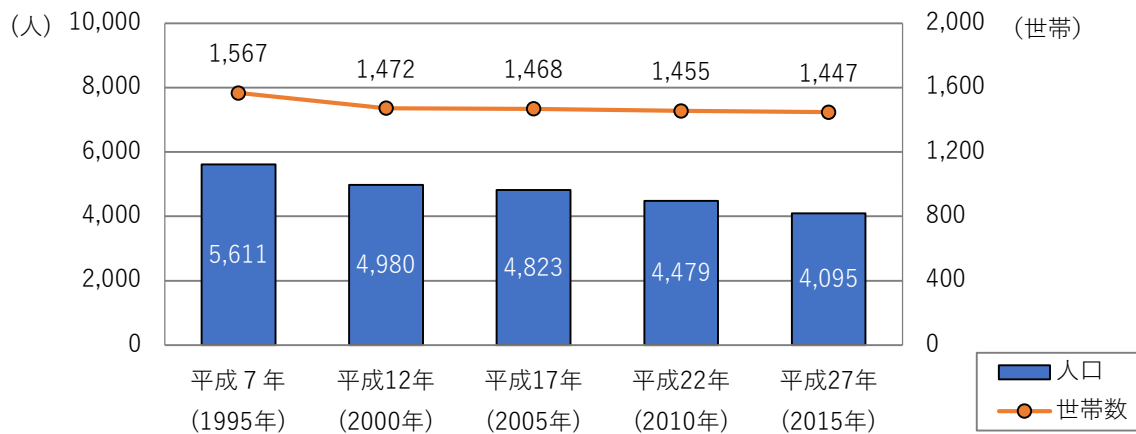
(1) 地域の現況

① 地域データ

i) 人口・世帯数

飯岡・湯沢地域の人口は減少傾向、世帯数は微減傾向にあります。

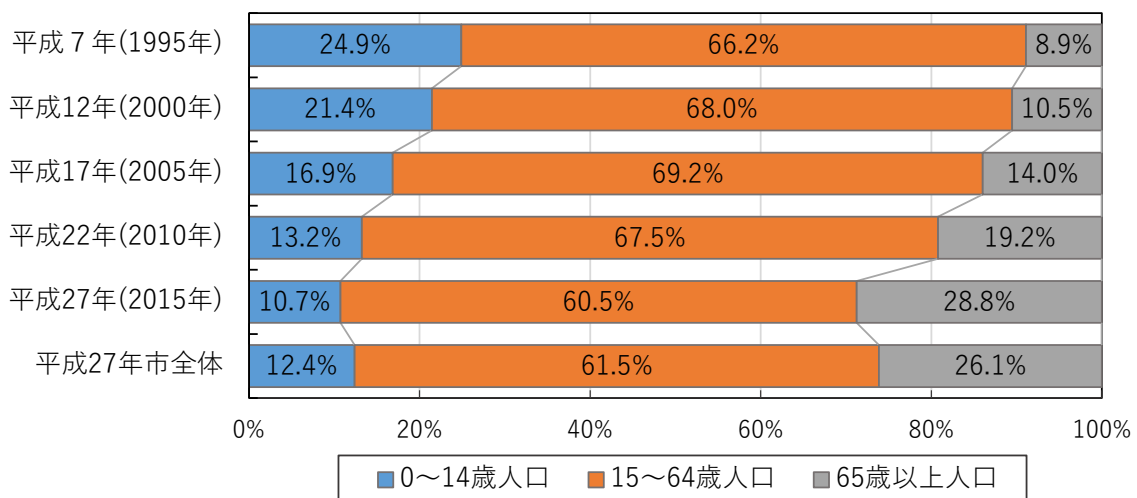
人口・世帯数の推移 資料:国勢調査



ii) 年齢階層別人口割合

飯岡・湯沢地域は、少子化・高齢化の傾向にあり、市全体に比べても65歳以上の割合が多くなっています。

年齢階層の推移 資料:国勢調査

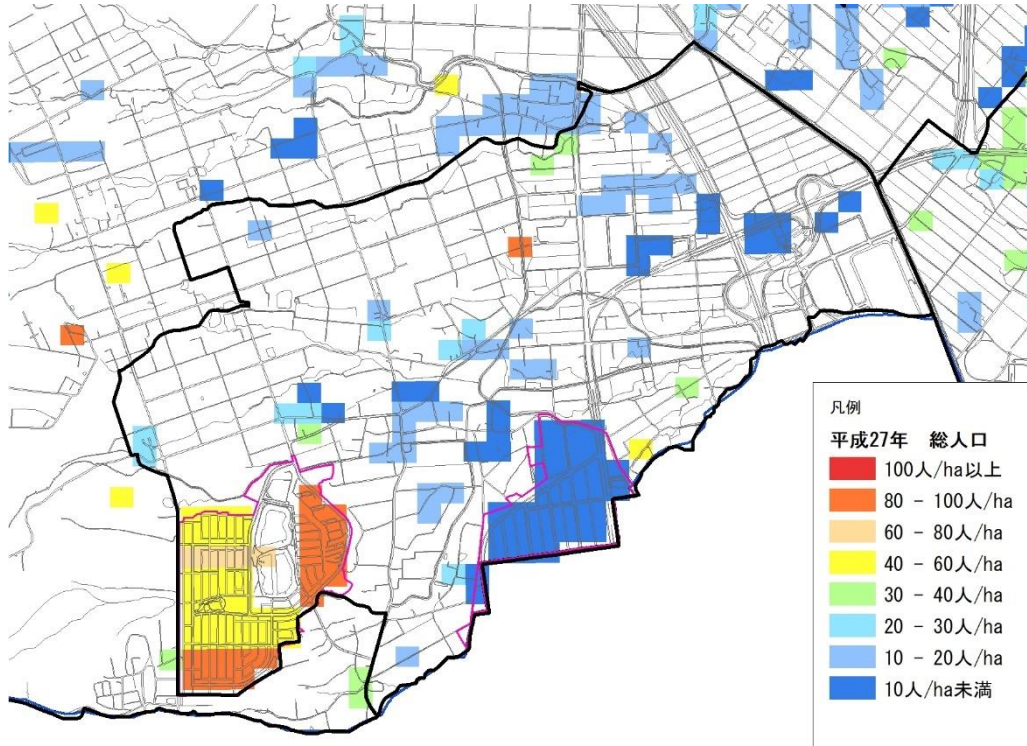


iii)人口の分布状況

湯沢団地など 80 人/ha 以上の人口が集積しているエリアがみられますが、地域全域について、将来的に人口の減少が見込まれます。

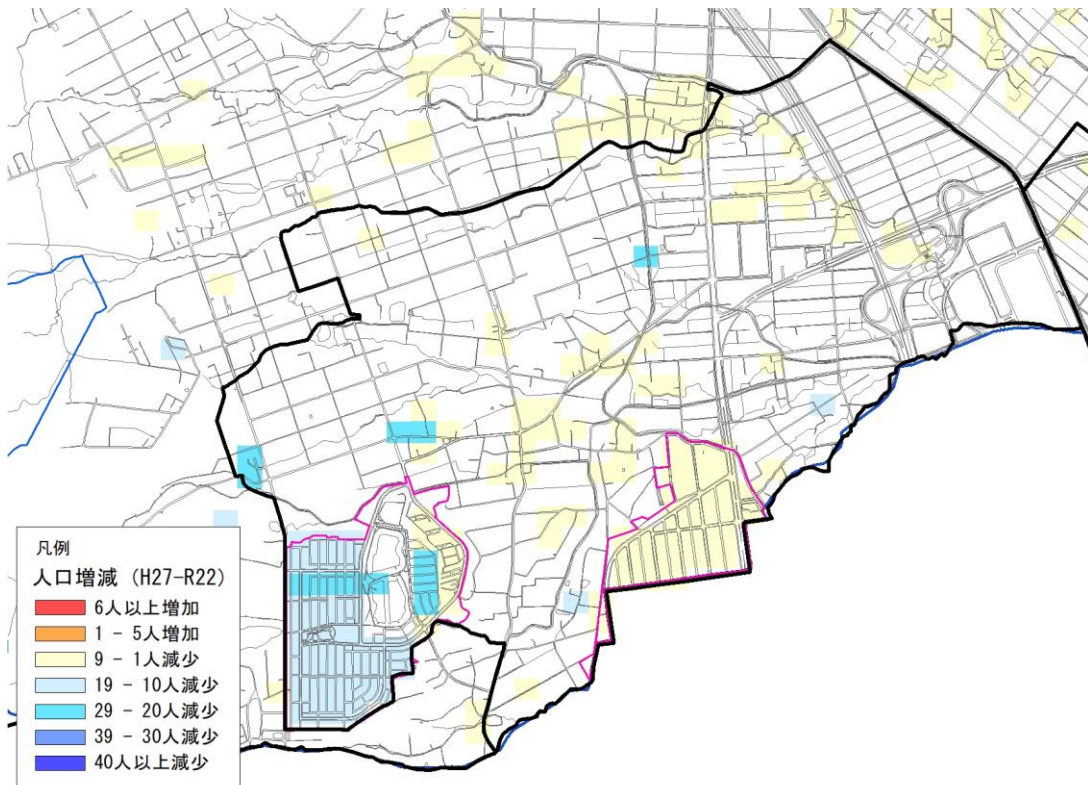
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲は湯沢団地北側に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図 資料:平成 27 年国勢調査結果

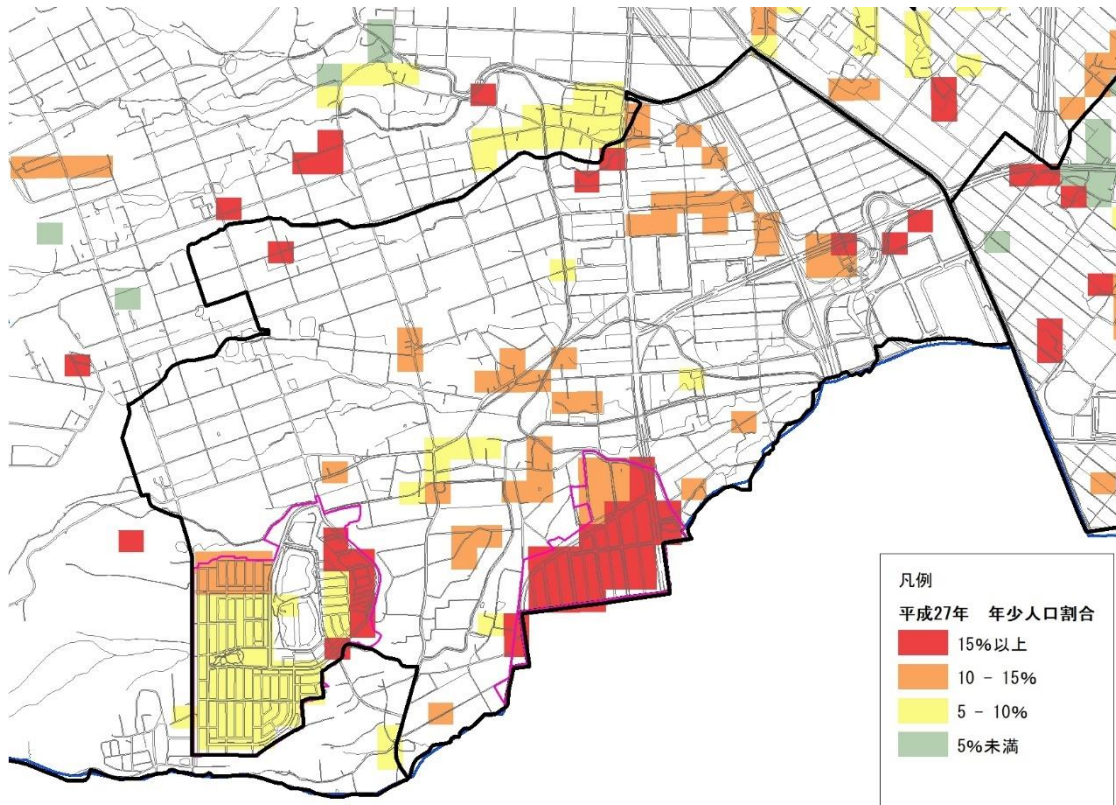


人口増減予測図(平成 27 年～令和 22 年)

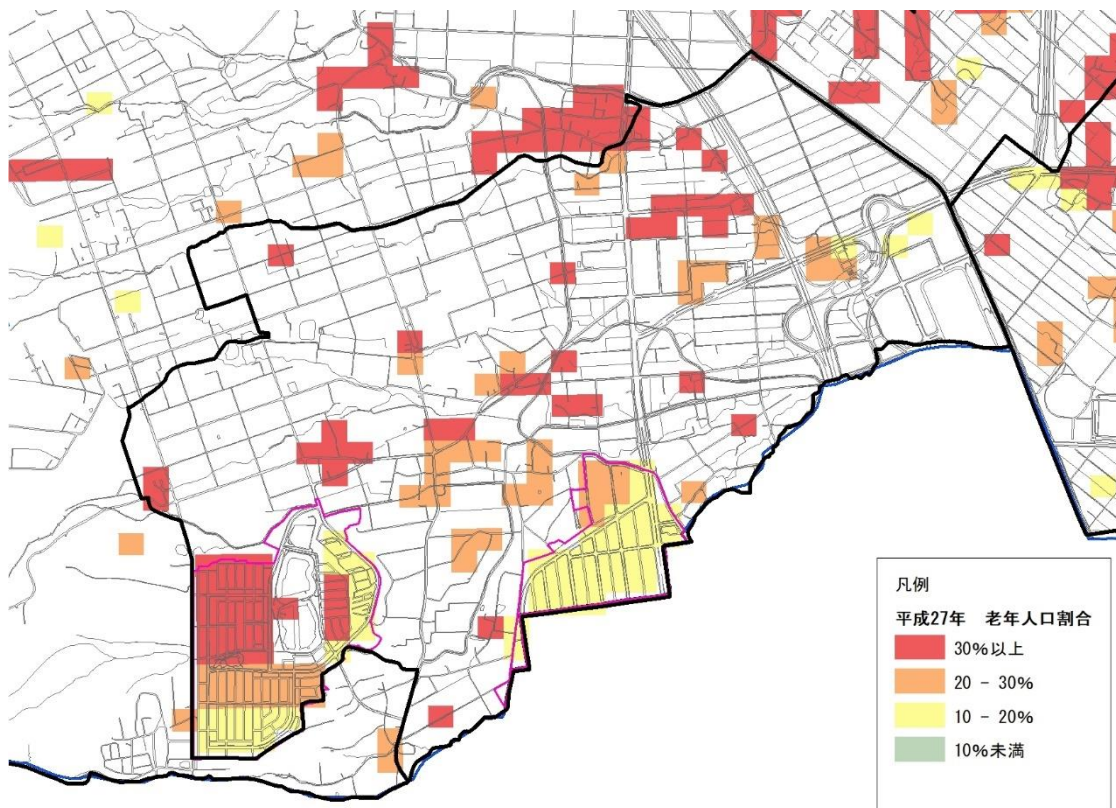
資料:平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



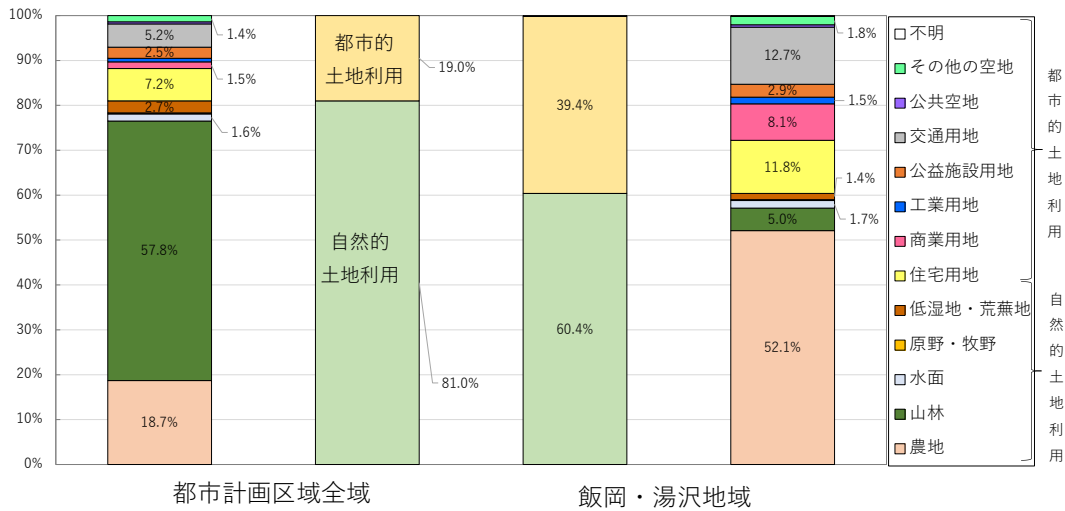
iv)土地利用の状況

飯岡・湯沢地域の土地利用は、自然的土地利用が約60%と、都市的土地利用の約40%を大きく上まわっています。

都市的土地利用においては、盛岡南ICなどがあることから交通施設用地が最も多く、次いで、住宅用地、そして盛岡市中央卸売市場や岩手流通センターなどがあることから商業用地が多くなっています。

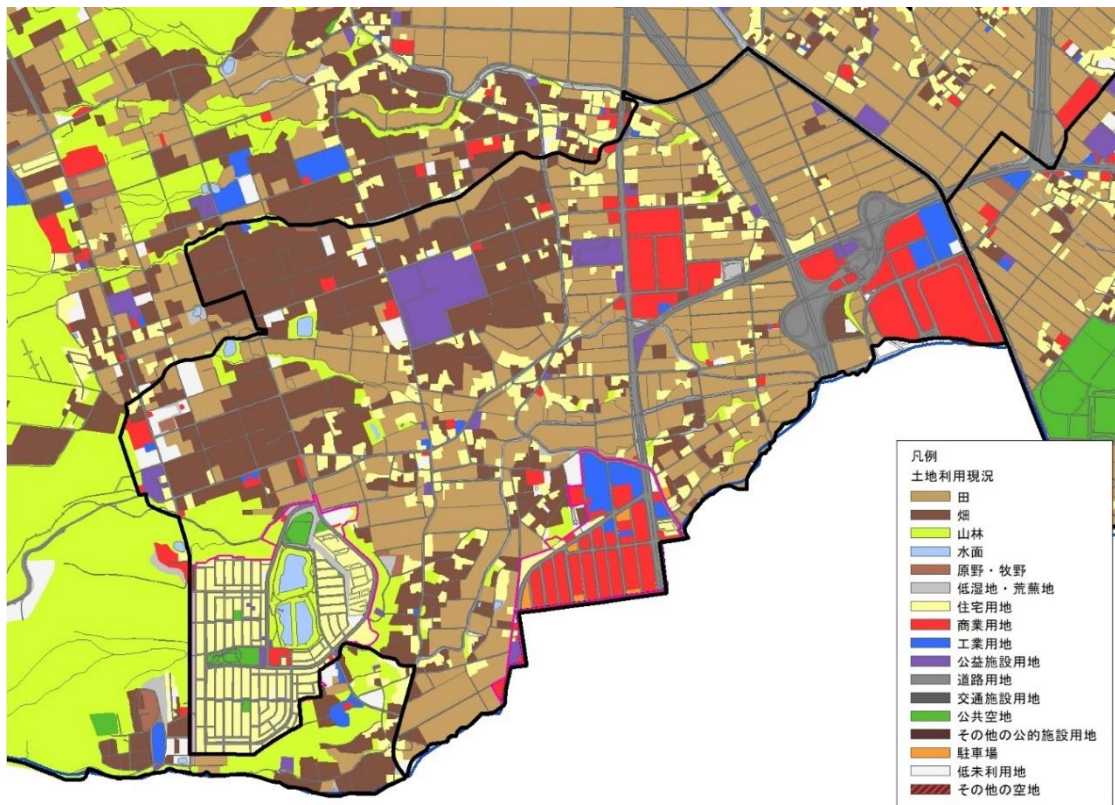
自然的土地利用については農地が最も多く、平坦地には田が、西側の丘陵地には果樹園などの畑が広がっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較 資料:平成27年都市計画基礎調査



(地域の土地利用の割合が1%未満のものは、表記を割愛しました。)

土地利用現況図 資料:平成27年都市計画基礎調査

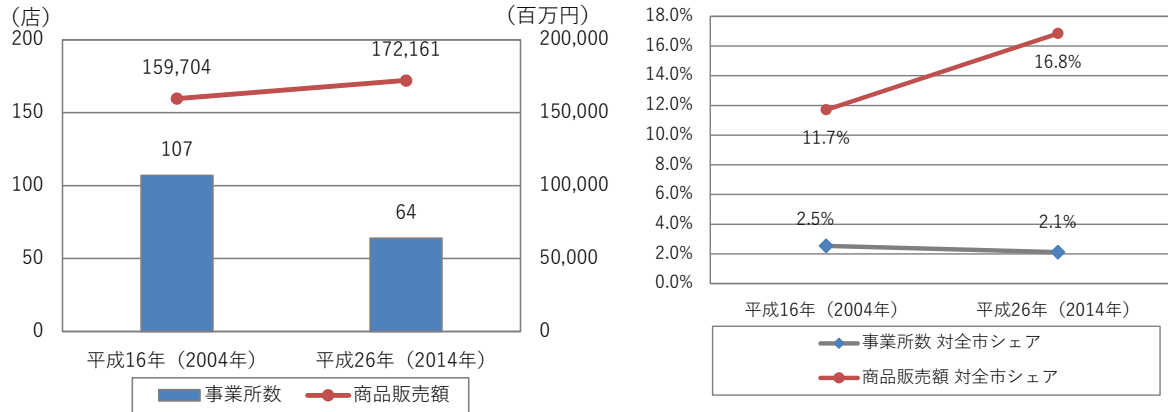


v) 商業の状況

地域内の事業所数は減少傾向にあります。商品販売額は増加傾向にあり、その対全市シェアも増加傾向にあります。

平成26年の地域内の事業所数の対全市シェアは約2%、商品販売額の対全市シェアは約17%となっています。

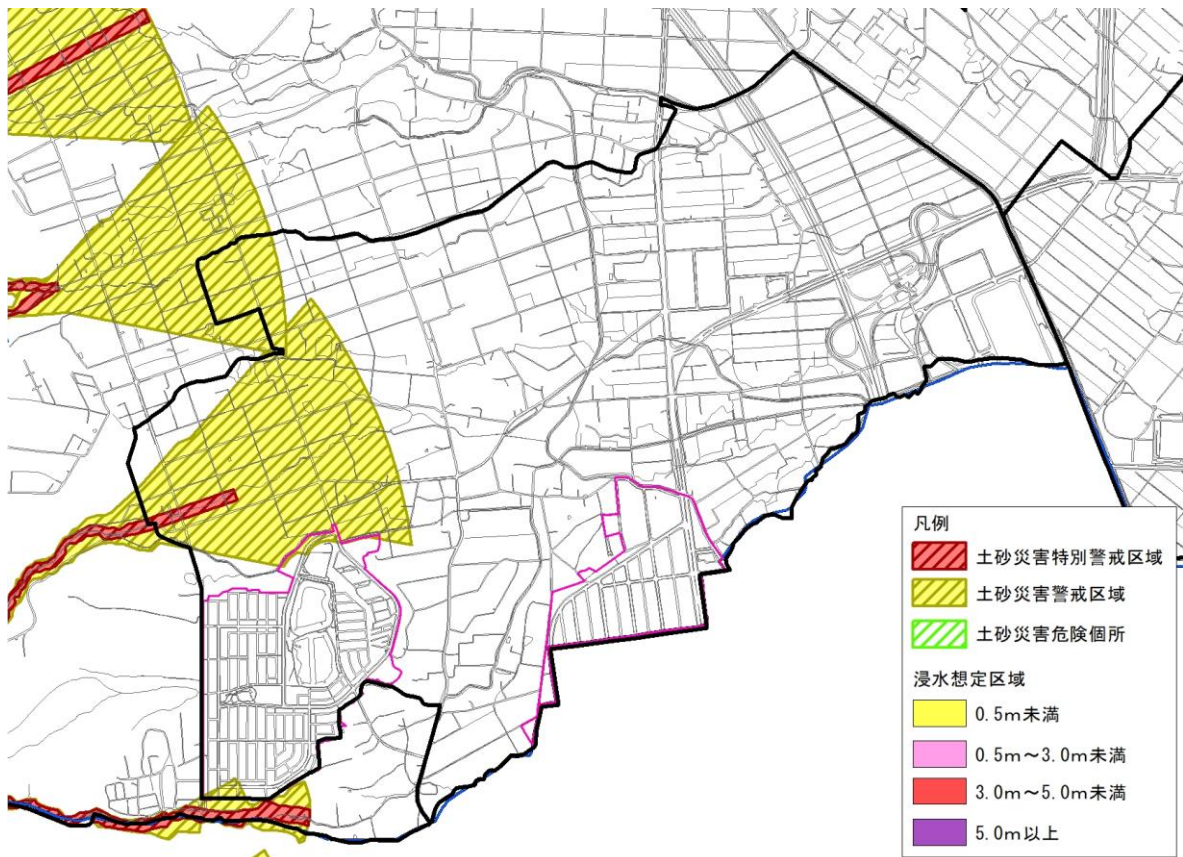
産業関連指標と対全市シェア 資料:商業統計



vi) 災害リスクの分布状況

地域の西側に土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域が分布しています。洪水浸水想定区域は分布していません。

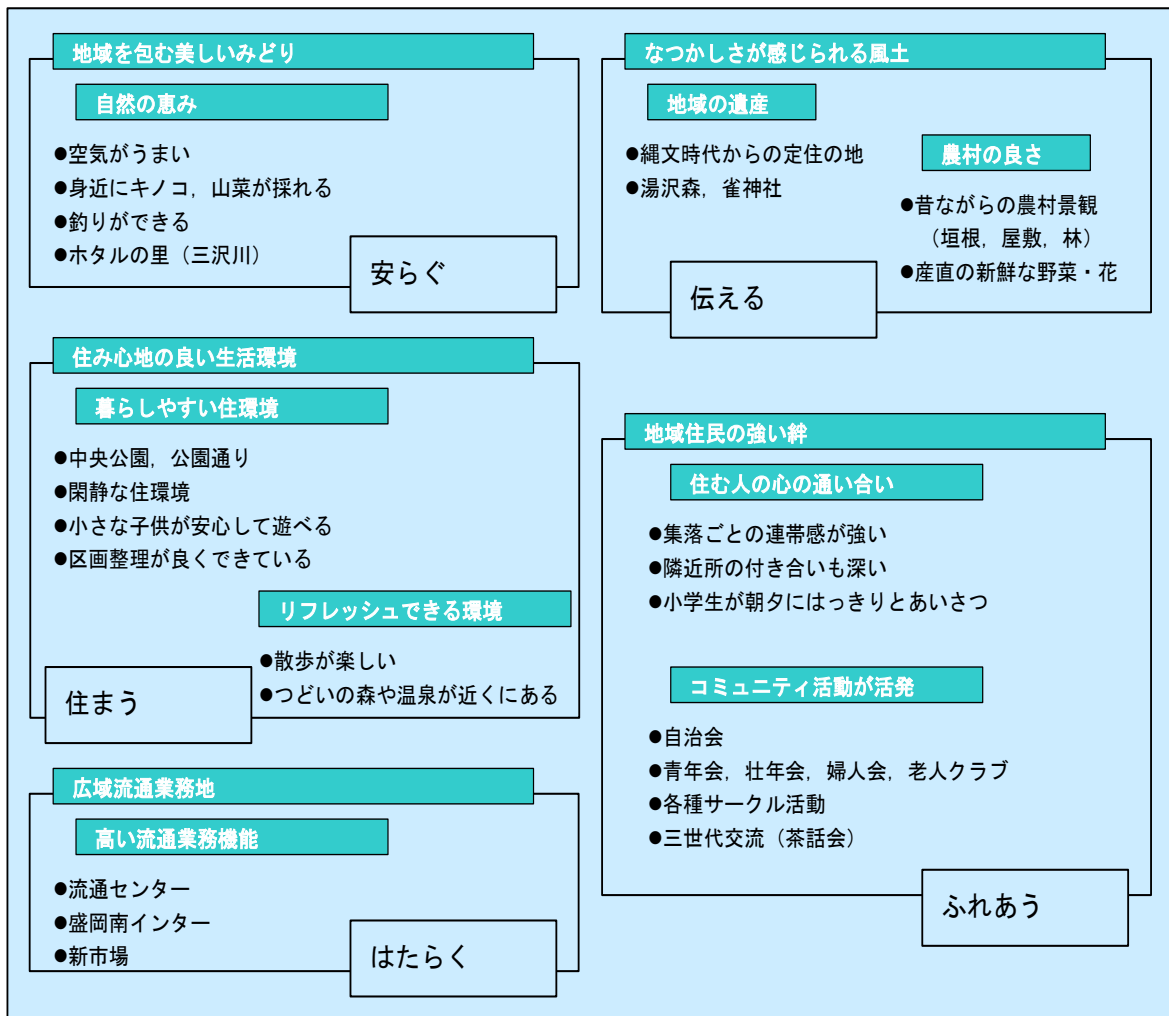
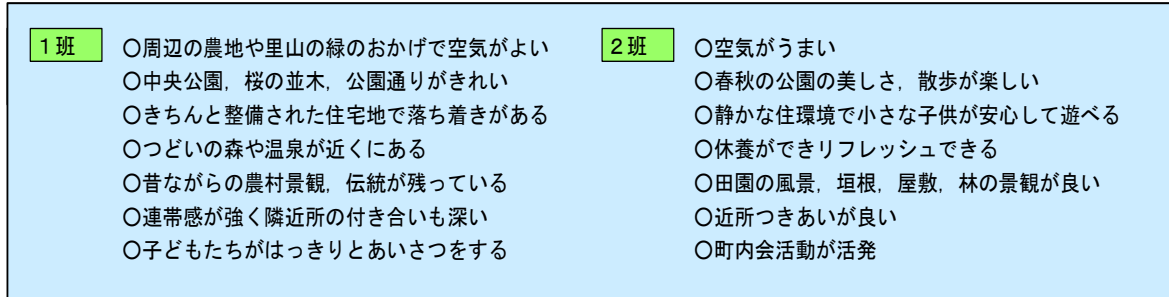
洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図 資料:国土交通省、岩手県



②市民意見

i)地域の良いところ

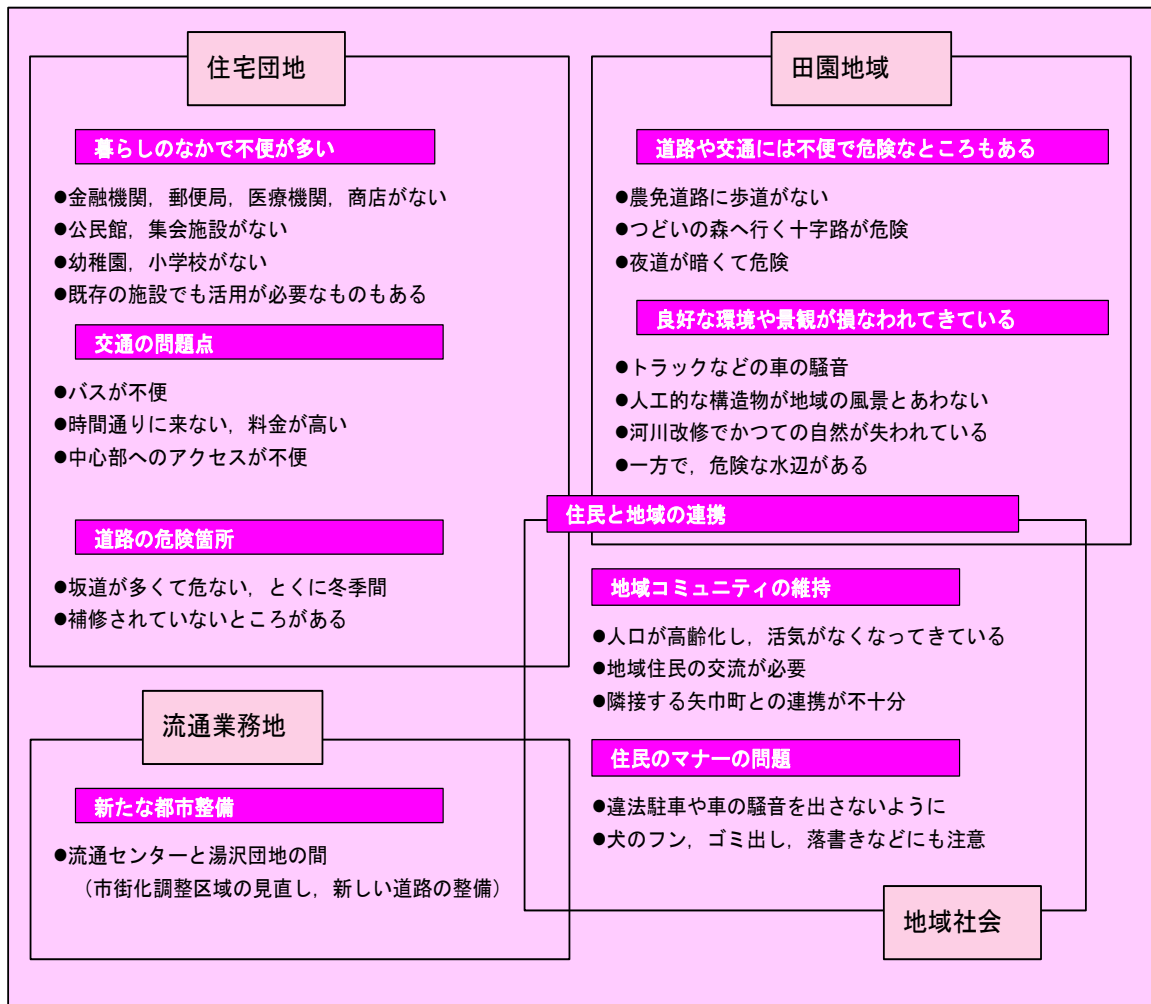
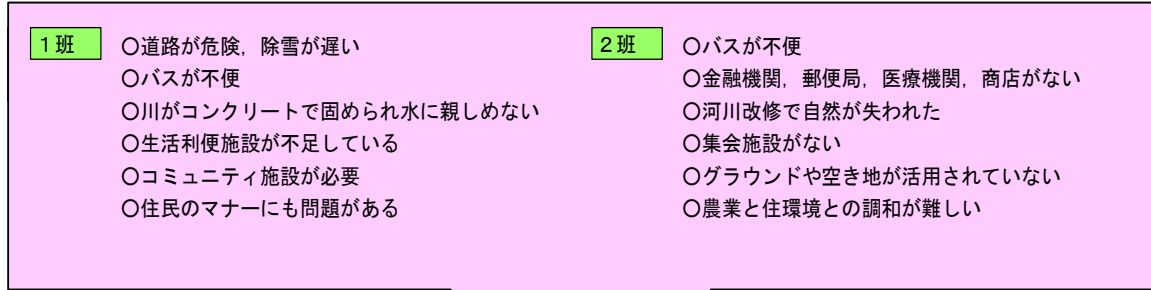
平成 14 年度に策定した地域別構想（飯岡・湯沢地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



自然に恵まれた地域の絆が強い住み心地のよいまち

ii)地域の課題

平成 14 年度に策定した地域別構想（飯岡・湯沢地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

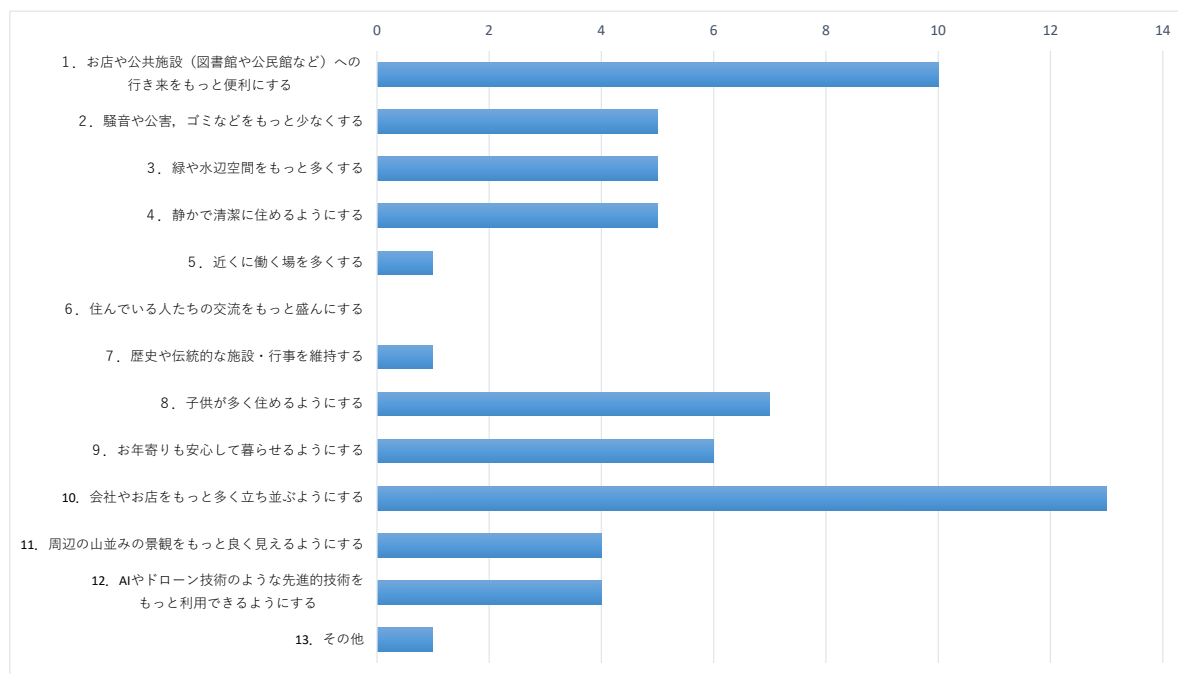


暮らしの利便性を高め、住民みんなで活気と連携のあるまちづくり

iii)中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（飯岡・湯沢地域）の見直しにあたり、約20年後のまちづくりを担う世代である飯岡・湯沢地域の市立中学校2学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（飯岡・湯沢地域の23人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「子どもが多く住めるようにする」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、遊び場に関する意見（遊び場の設置など）が多くありました。

iv)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（飯岡・湯沢地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、飯岡・湯沢地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔6町内会・自治会のうち3団体（50%）から回答〕
主な意見は次のとおりです。

【資源】

- 自然と農村が点在しており暮らしやすい地域。
- マイカー利用であれば、市中心部に出かけるのにちょうどよい。

【課題】

- 一人世帯が増えている。
- 空き家が出てきている。
- 少子化・高齢化などにより、地域のつながりにつなぐ行事など地域住民との付き合いが薄れてきている。
- バスの便が悪く、マイカーがないと生活に不便である。

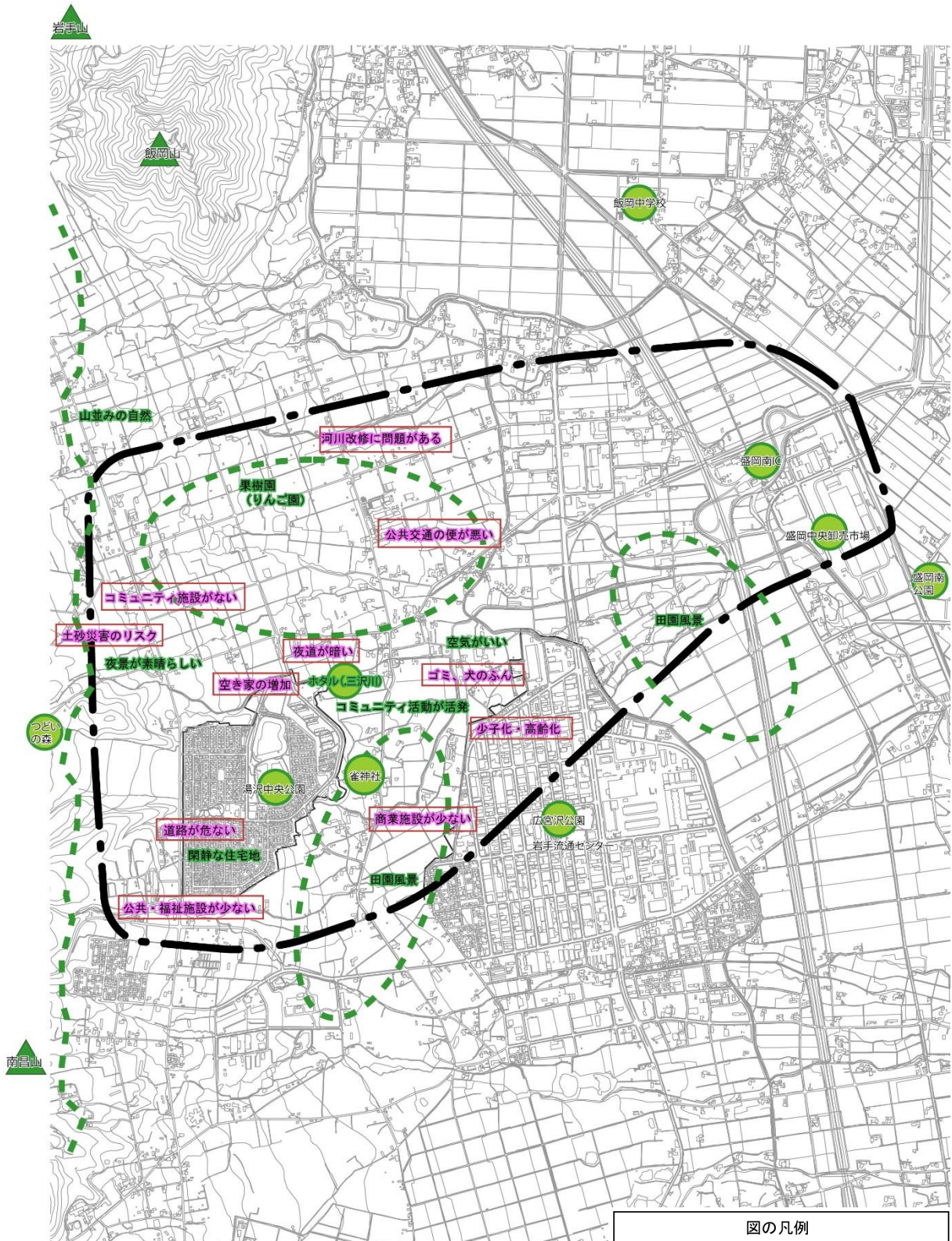
v)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（飯岡・湯沢地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、飯岡・湯沢地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔6町内会・自治会のうち2団体（33%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

- 農業との共存共栄。
- 農村の景観を生かし、住みよい環境をつくり健康なまちにする。
- 農業を中心とした安心・安全な地域社会をつくる。
- 道路の拡幅等、通勤・通学時に安心な道路の整備。

地域の資源・課題マップ

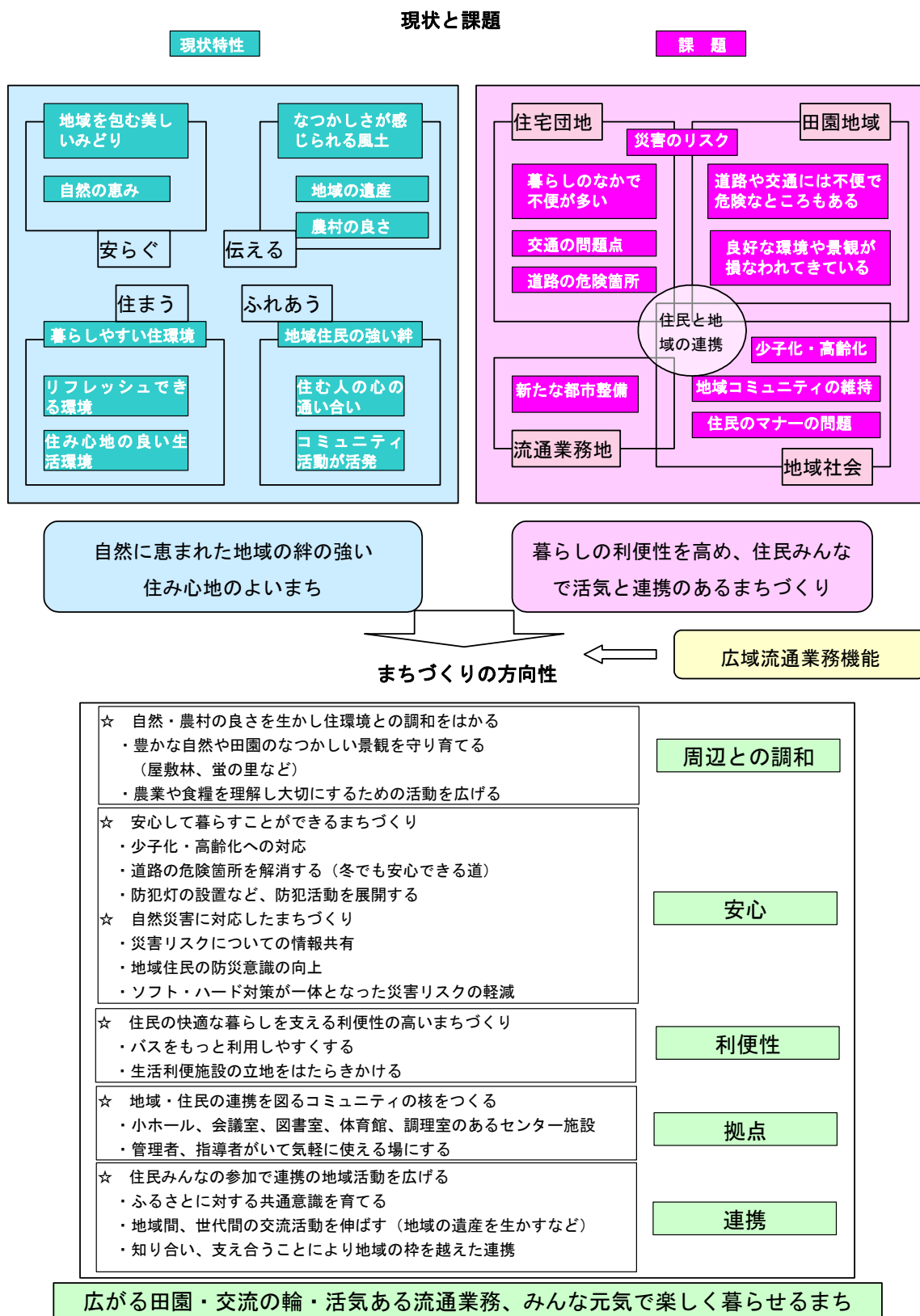


図の凡例

	地域の範囲
	地域の資源 場所を特定できるもの
	地域の資源 場所を特定できないもの
	地域の課題 場所を特定できるもの
	地域の課題 場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成 14 年度に策定した地域別構想（飯岡・湯沢地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。



(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『広がる田園・交流の輪・活気ある流通業務 みんな元気で楽しく暮らせるまち』

②基本方針

i)緑豊かな自然と田園地域の良さを生かしたまちづくり

飯岡・湯沢地域は、南昌山へと連なる山々のすそ野に広がる田園地帯にあり、縄文の古くから人々が生活していた自然豊かな住みやすい環境を備えています。

里山の緑は、四季折々の景観を織り成すとともに、山菜やきのこ採り、魚釣りなどの自然の恵みによる楽しい生活を生み出し、また、水田やりんごなどの果樹園が広がる風景は、懐かしさと安らぎをもたらしています。これらの緑と田園地帯に守られるように、閑静な住宅地としての湯沢団地と広域的な流通拠点機能を有する盛岡南インターチェンジ、盛岡市中央卸売市場、岩手流通センターが立地しています。今後とも、このような豊かな自然と屋敷林や蛍の里などの懐かしい環境を守り育てるほか、立地特性を生かした地域の農業振興に資する土地利用を図るなど、田園地域としての良さを生かしながら、農業の維持や改善に寄与し、地域コミュニティの維持や活性化、流通業務機能と調和したまちづくりを推進します。

ii)住民が安心して暮らせる便利で快適なまちづくり

湯沢団地は、道路や公園、街路樹などが計画的に整備され閑静な住宅地となっていますが、少子化・高齢化の進行や空き家の増加などの問題が顕在化しています。

また、身近な店舗や通勤・通学でのバスの便、公園内の湯沢過水溜池などのため池や道路の危険な箇所解消など利便性や安全性の向上が求められていることから、道路の改修や防犯灯の設置などの実施とともに、公園の活用方法なども考え、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

また、田園地域では、夜道の危険性のほか、河川改修に伴う自然の消失などが指摘されていることから、危険な箇所の解消に努めるとともに、田園風景に調和した道路や河川の整備を進めます。

バス交通は、地域と中心市街地を結ぶ交通手段として、あらゆる世代の利用者の視点を踏まえながら利便性の向上に努めます。

公共施設や医療福祉施設、日常の生活に密着したサービス施設については、施設への移動手段の確保が困難な高齢者の利用を考慮し、地域内の土地利用や既存の建物の活用などを地域協働により検討していきます。

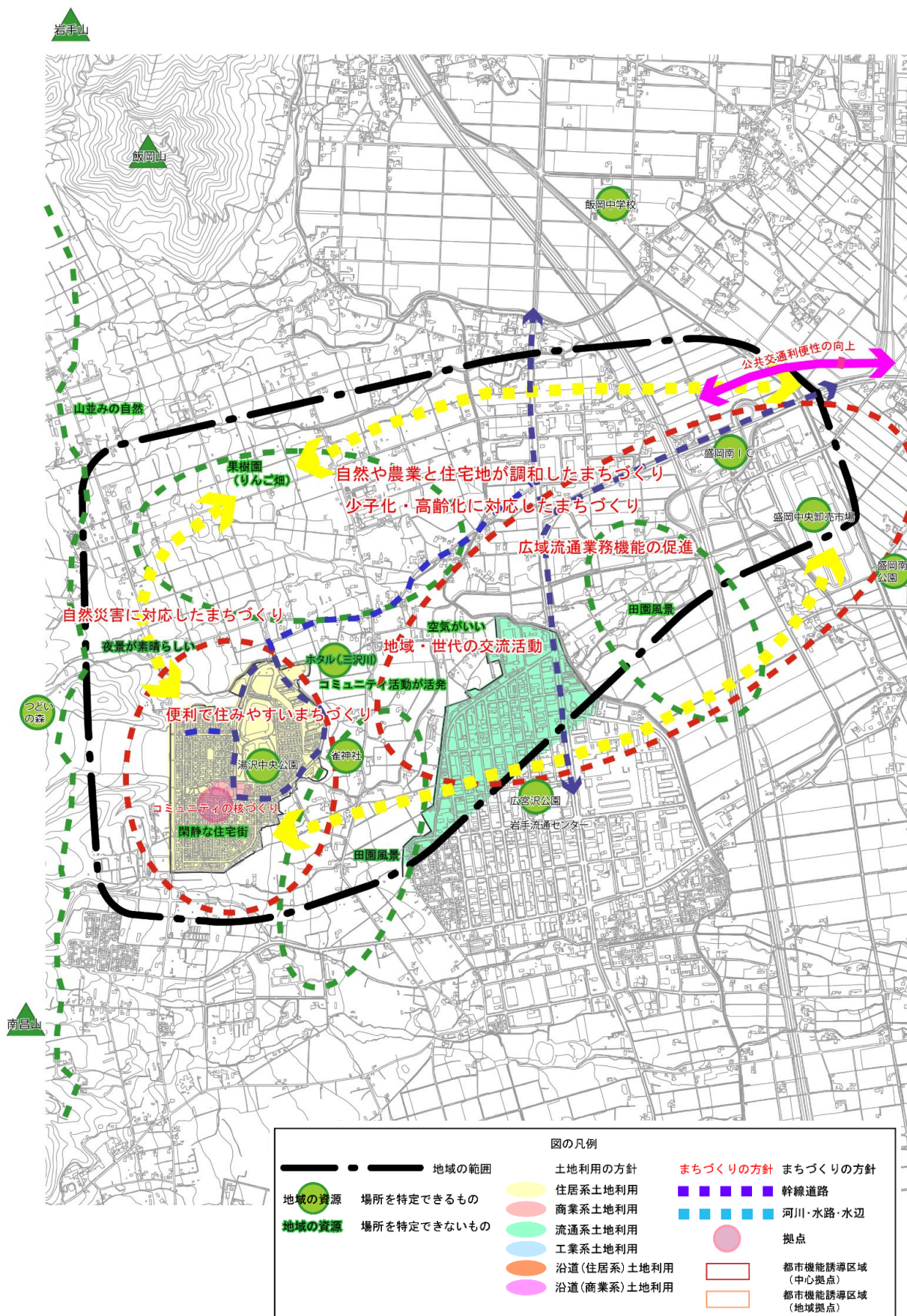
防災面では、湯沢団地周辺に、土砂災害警戒区域などに含まれるエリアが多くあります。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

iii) 連携と交流の輪を広げるみんなのまちづくり

湯沢団地は、通勤や銀行の利用など岩手流通センターと日常的なつながりを持っています。また、周辺の農家とは、産直による新鮮な農産物の提供や雀神社のお祭りなどによる交流が図られていますが、さらなる交流の深化が求められています。一方、団地内の住民間では茶話会などを通じ、高齢者と中学生の交流が活発に行われています。これら地域内や世代間の連携を強めることにより、地域全体の活気と潤いのあるまちづくりを進め、子どもたちをはじめ地域の誰もが、わが故郷に対する誇りと愛着を深めていくよう、さらに交流の輪を広げていきます。

また、湯沢団地と岩手流通センターの有機的な結びつきを強めるための交通環境の充実などについて検討を進めていきます。

まちづくりの方針マップ



13) つなぎ地域

つなぎ地域の平成17年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

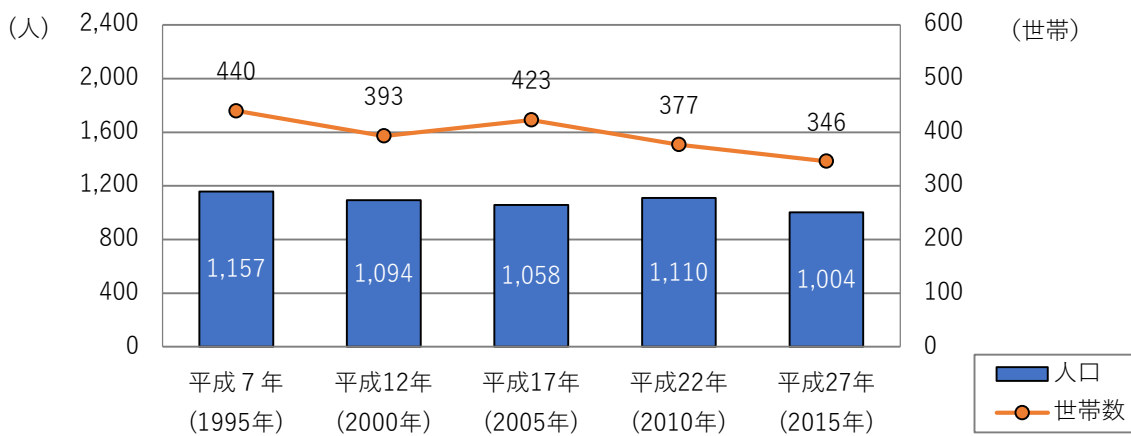
(1) 地域の現状

① 地域データ

i) 人口・世帯数

つなぎ地域の人口は概ね横ばい傾向、世帯数は減少傾向にあります。

人口・世帯数の推移 資料:国勢調査

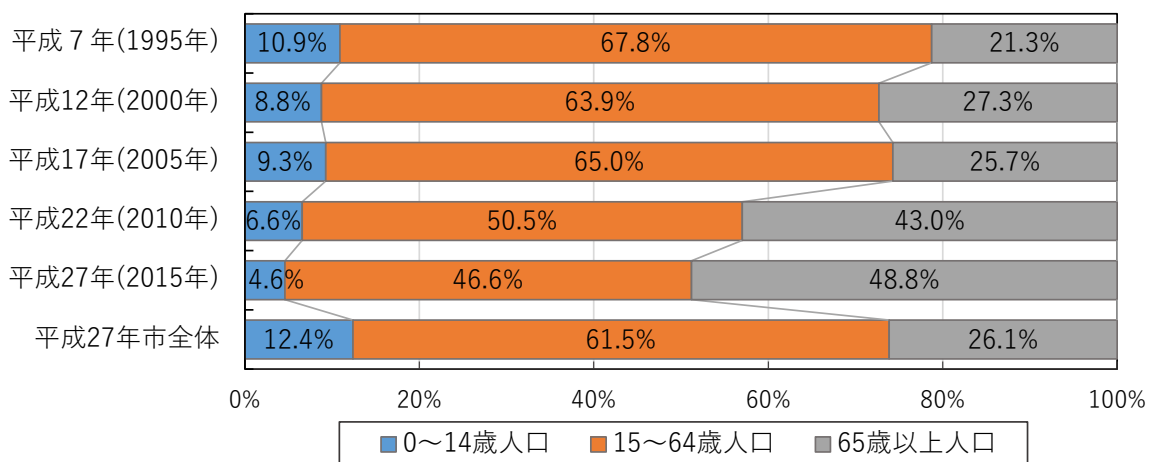


ii) 年齢階層別人口割合

つなぎ地域は、少子化・高齢化の傾向にあり、市全体に比べても65歳以上の割合が高くなっています。

65歳以上人口が48.8%と二人に一人が高齢者となっています。

年齢階層の推移 資料:国勢調査

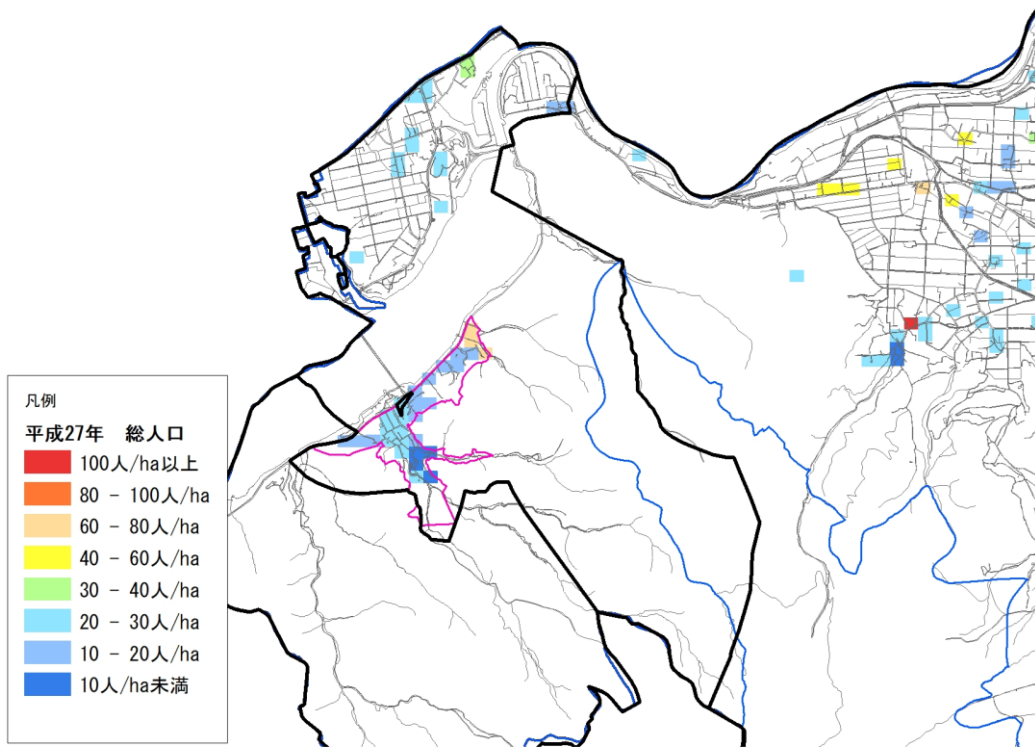


iii)人口の分布状況

地域の人口は、温泉街に集中していますが、将来的には、地域全域で人口の減少が見込まれます。

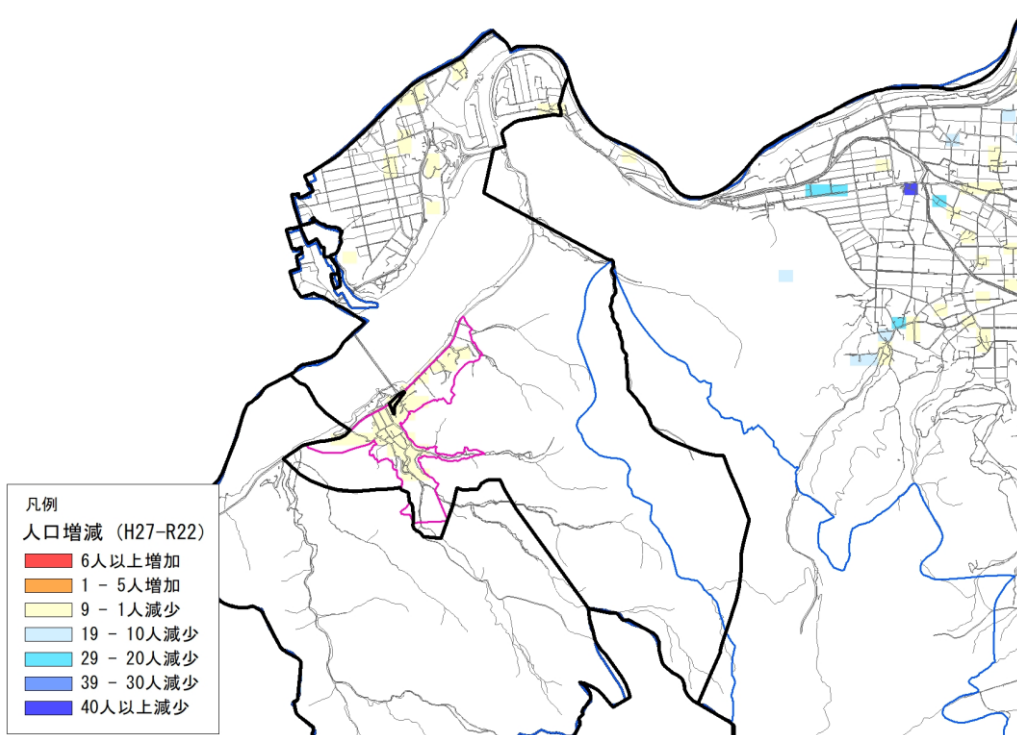
65歳以上人口割合が30%以上の範囲は全域に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図 資料:平成27年国勢調査結果

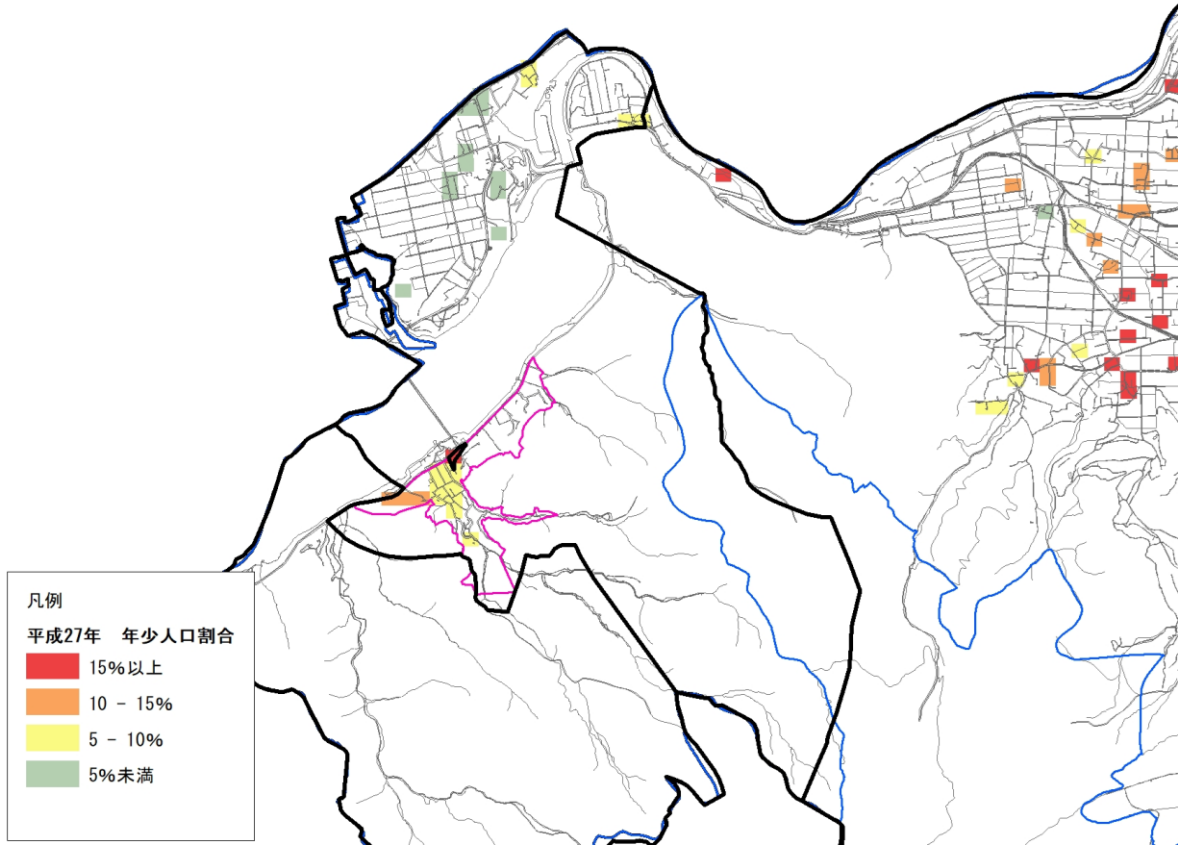


人口増減予測図(平成27年～令和22年)

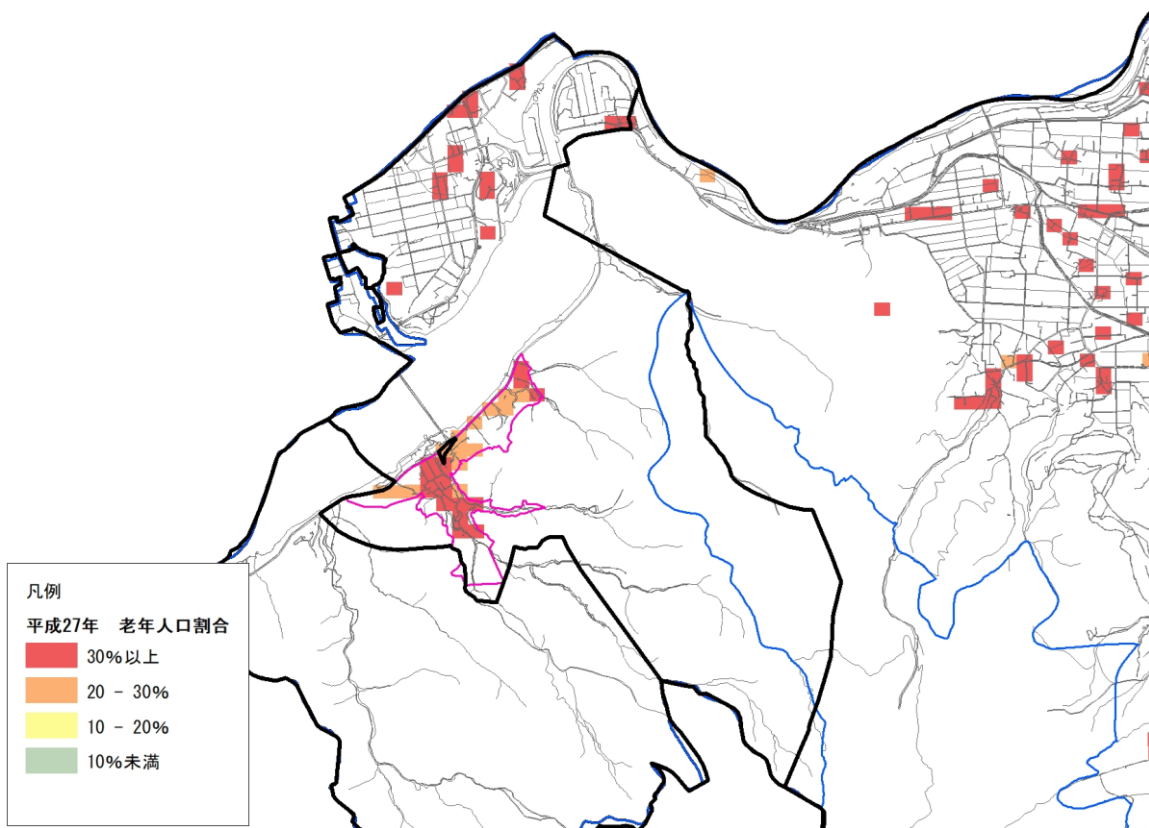
資料:平成27年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果

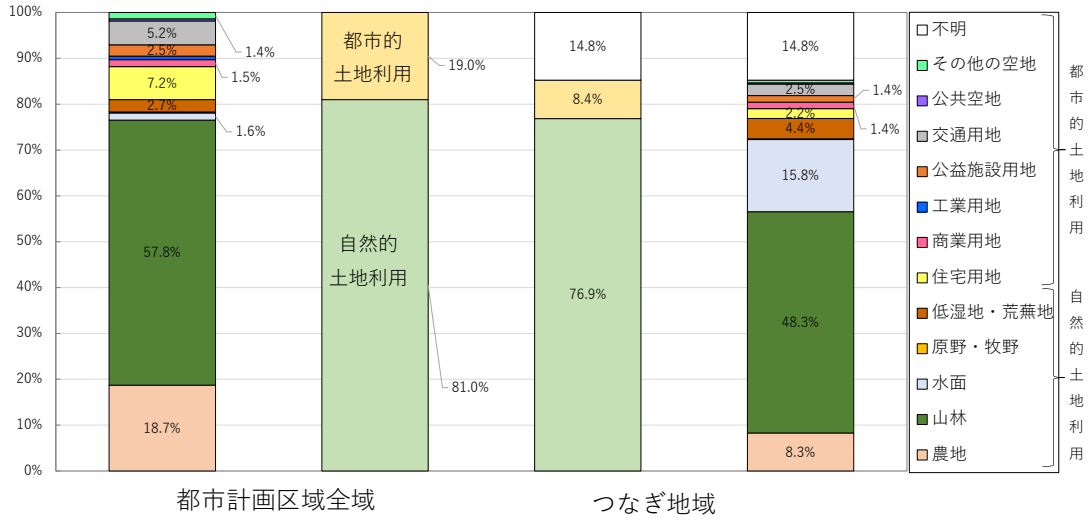


iv)土地利用の状況

つなぎ地域の土地利用は、自然的土地利用が約 77%を占め、その中で山林と水面の割合が高くなっています。

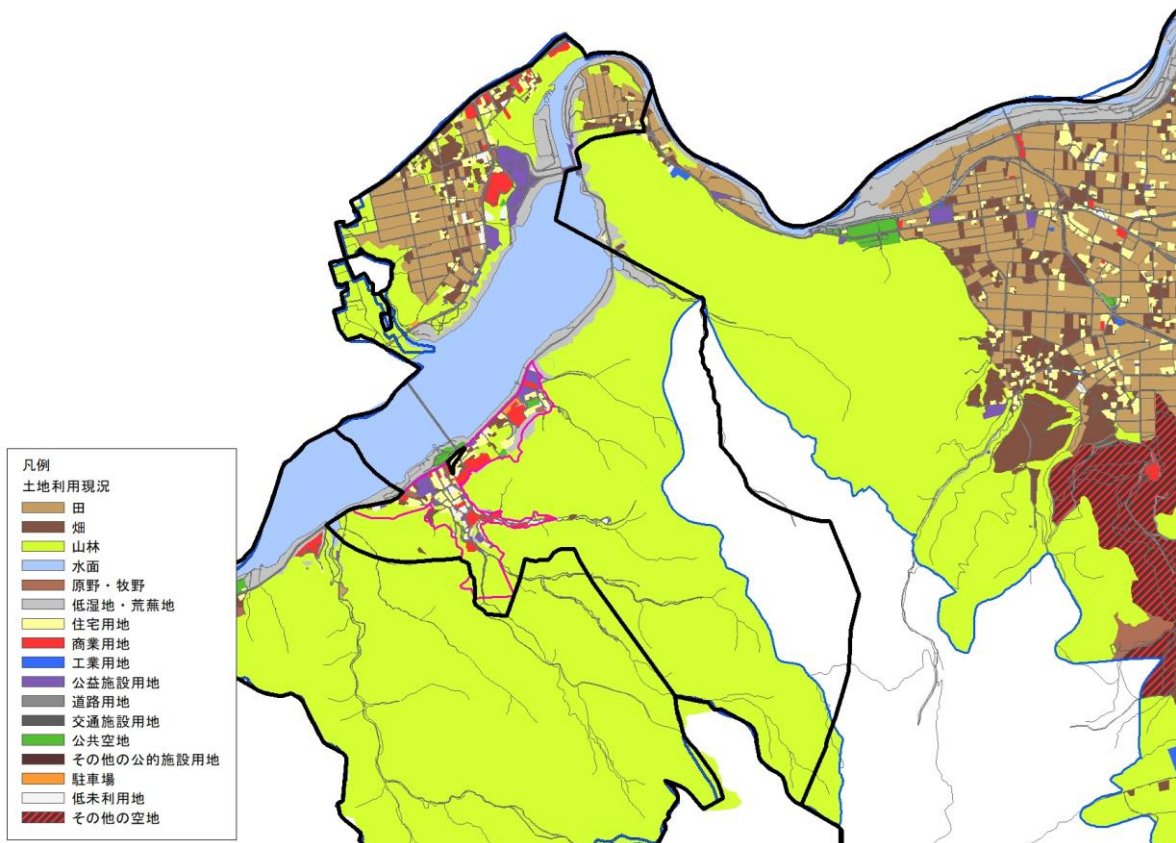
都市的土地利用においては、交通施設用地や住宅用地のほか、盛岡手づくり村やつなぎ温泉があることから商業用地が比較的多くなっており、御所湖を取り巻く自然環境の豊かさと、商業的な土地利用が地域の特色となっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較 資料:平成 27 年都市計画基礎調査



(地域の土地利用の割合が1%未満のものは、表記を割愛しました。)

土地利用現況図 資料:平成 27 年都市計画基礎調査

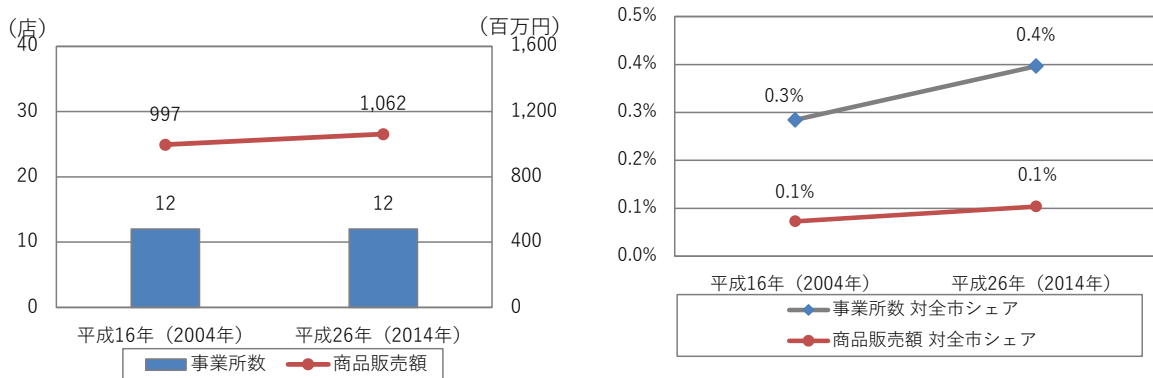


v) 商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも概ね横ばいとなっています。

平成26年の地域内の事業所数の対全市シェアは0.4%、商品販売額の対全市シェアは0.1%となっています。

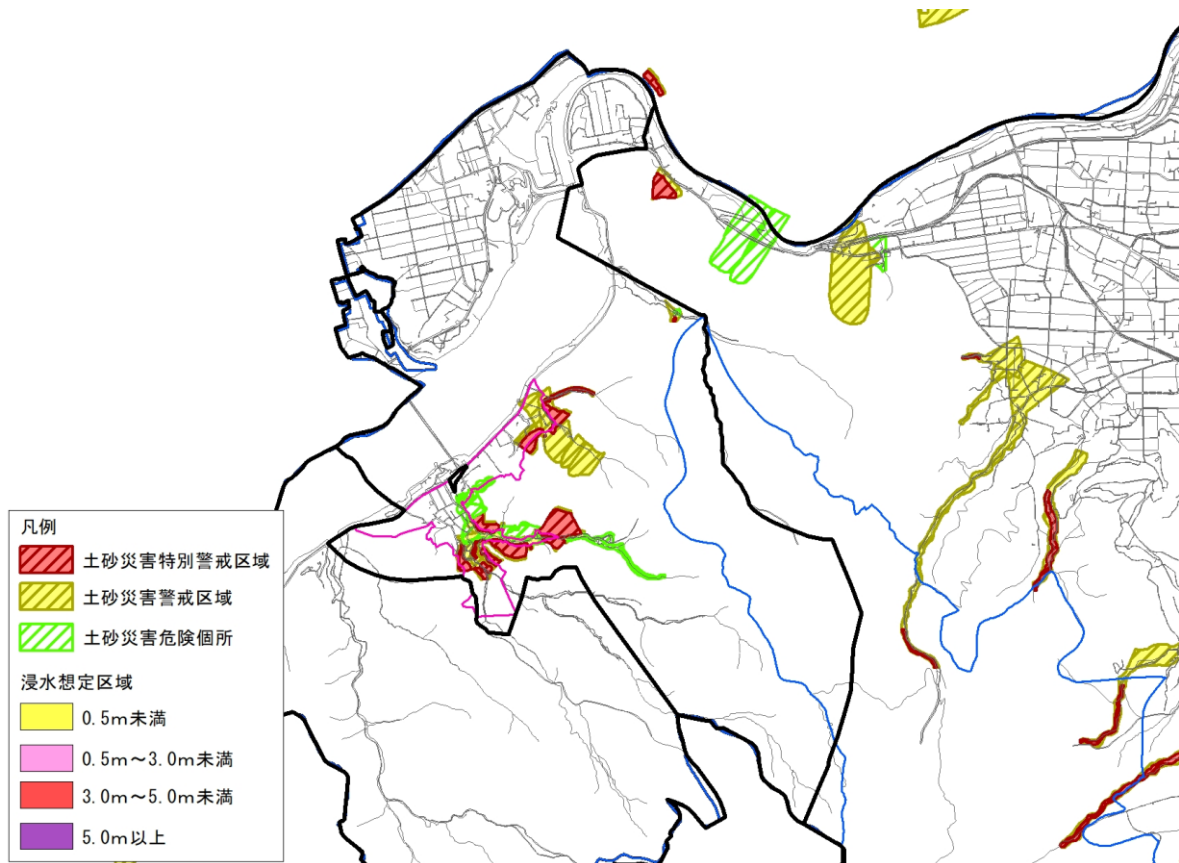
産業関連指標と対全市シェア 資料:商業統計



vi) 災害リスクの分布状況

地域の多くが山間の傾斜地であるため、温泉街周辺を含め、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所が分布しています。

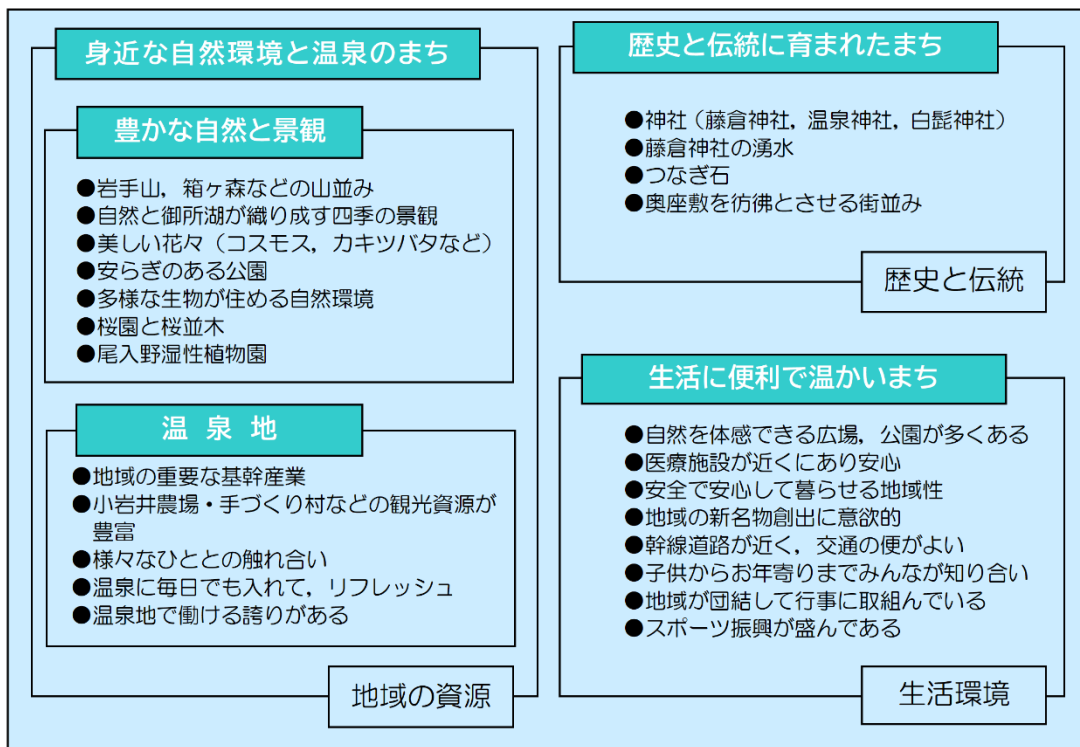
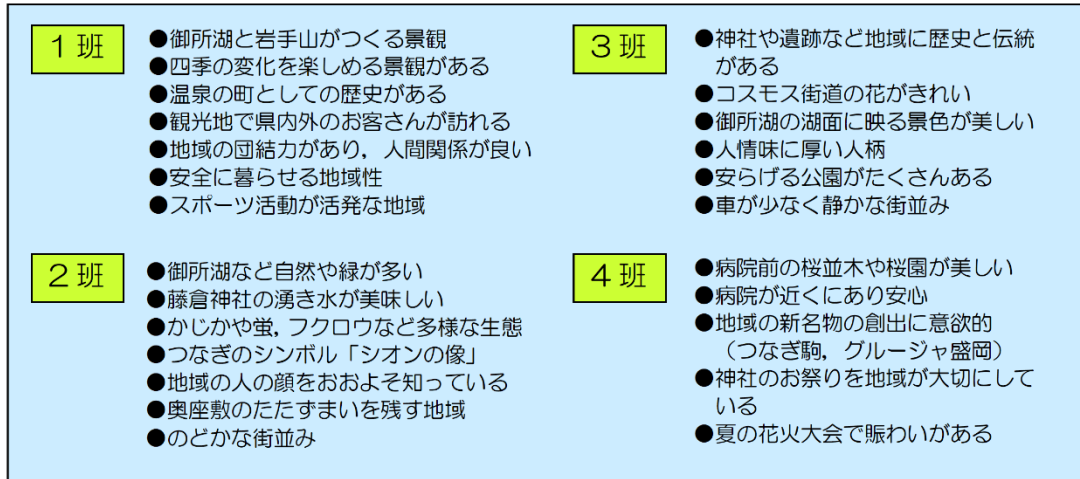
洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図 資料:国土交通省、岩手県



②市民意見

i)地区の良いところ

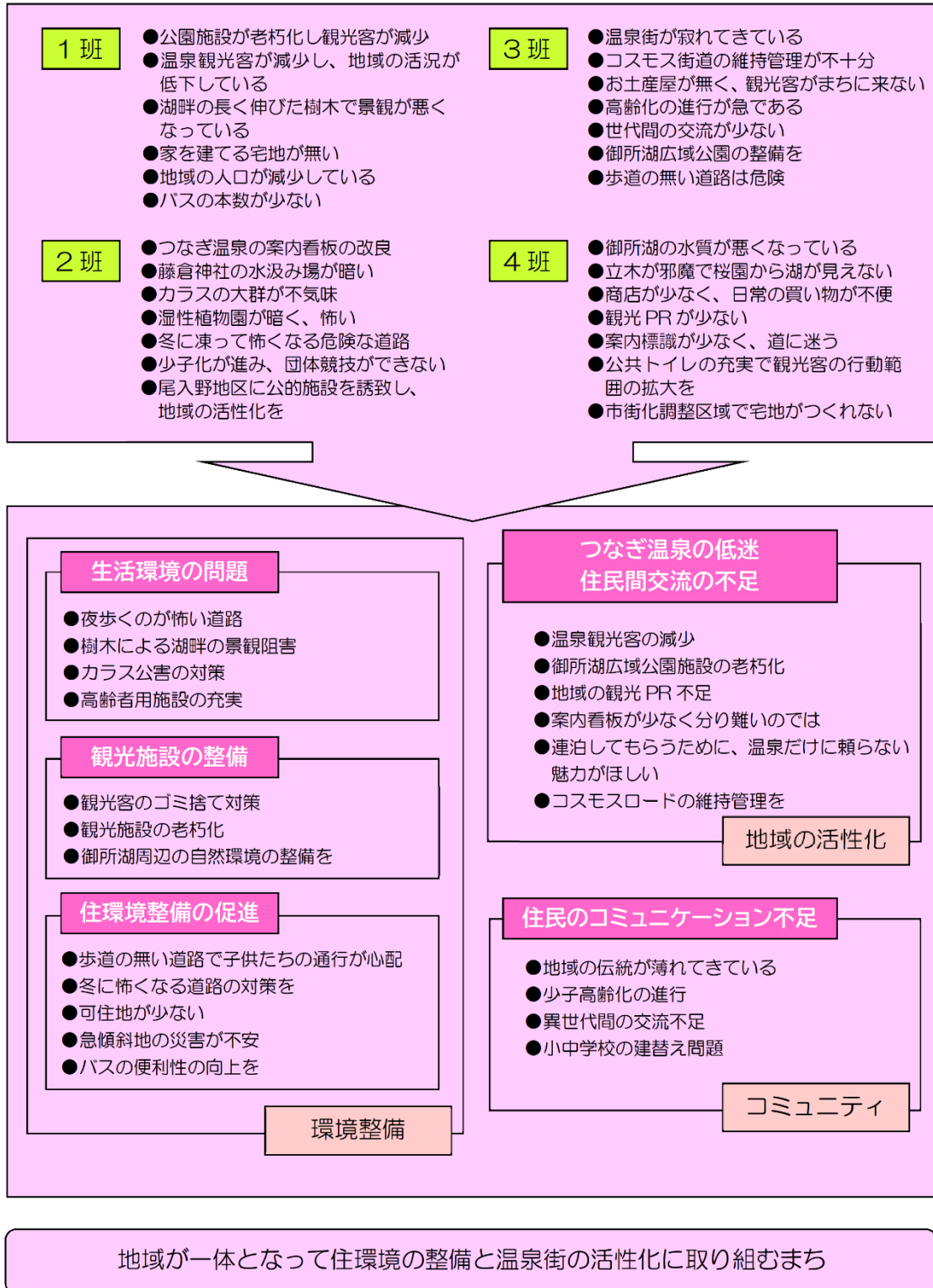
平成 17 年度に策定した地域別構想（つなぎ地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



身近な自然と温泉のように温かい人々が集うまち

ii)地区の課題

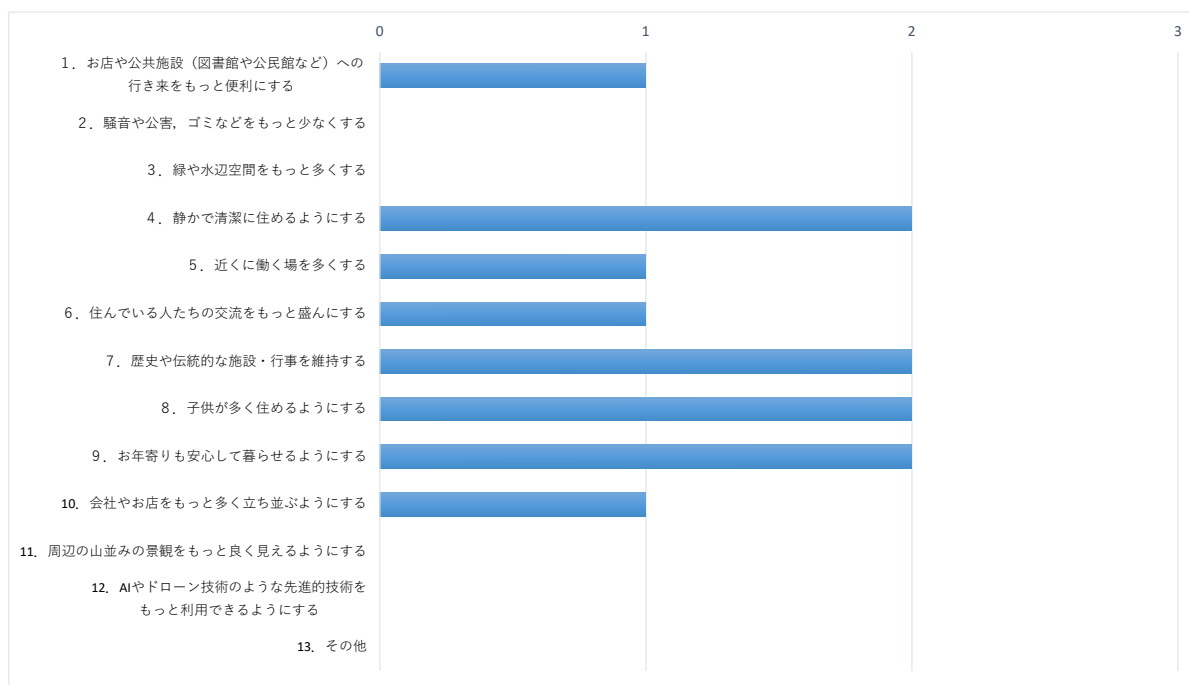
平成17年度に策定した地域別構想（つなぎ地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



iii)中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（つなぎ地域）の見直しにあたり、約20年後のまちづくりを担う世代であるつなぎ地域の市立中学校2学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（つなぎ地域の4人による複数回答を集計）

「静かで清潔に住めるようにする」、「歴史や伝統的な施設・行事を維持する」、「子どもが多く住めるようにする」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」という意見がありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地）意見がありました。

iv)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（つなぎ地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、つなぎ地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔2町内会・自治会のうち1団体（50％）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

- 御所湖の景観が素晴らしい。

【課題】

- 幼稚園、中学校が地域からなくなり、小学校も今年度いっぱいではなくなるため、子どもたちの元気な声が聞かれなくなって寂しくなる。
- つなぎ温泉に外国人客も来ていたが、今は閑散としている。
- 高齢者が多い。
- 盛岡手づくり村が寂れている。

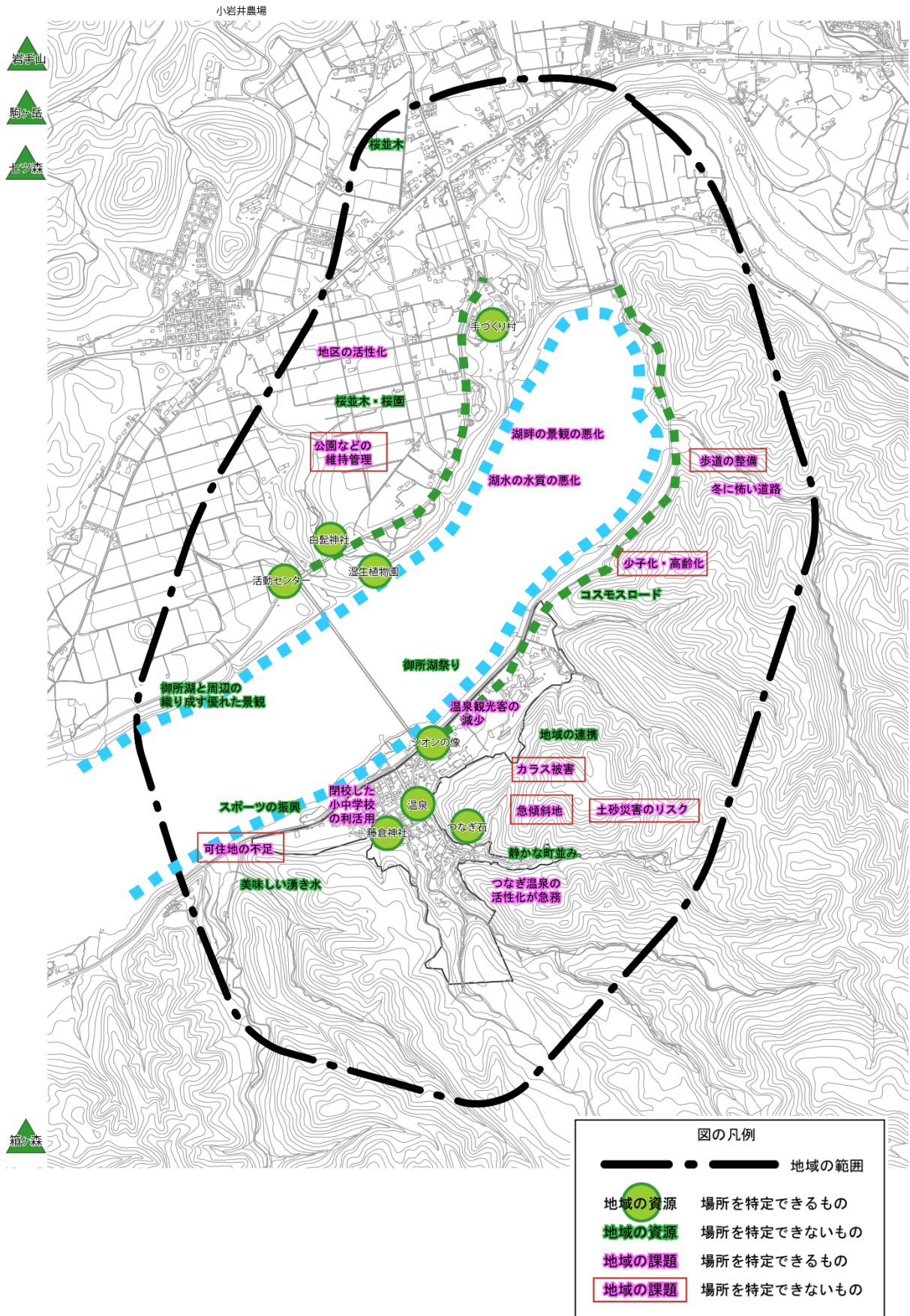
v)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（つなぎ地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、つなぎ地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔2町内会・自治会のうち1団体（50％）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

- 閉校する小学校の施設を地域の拠点として利用できれば良いと思う。

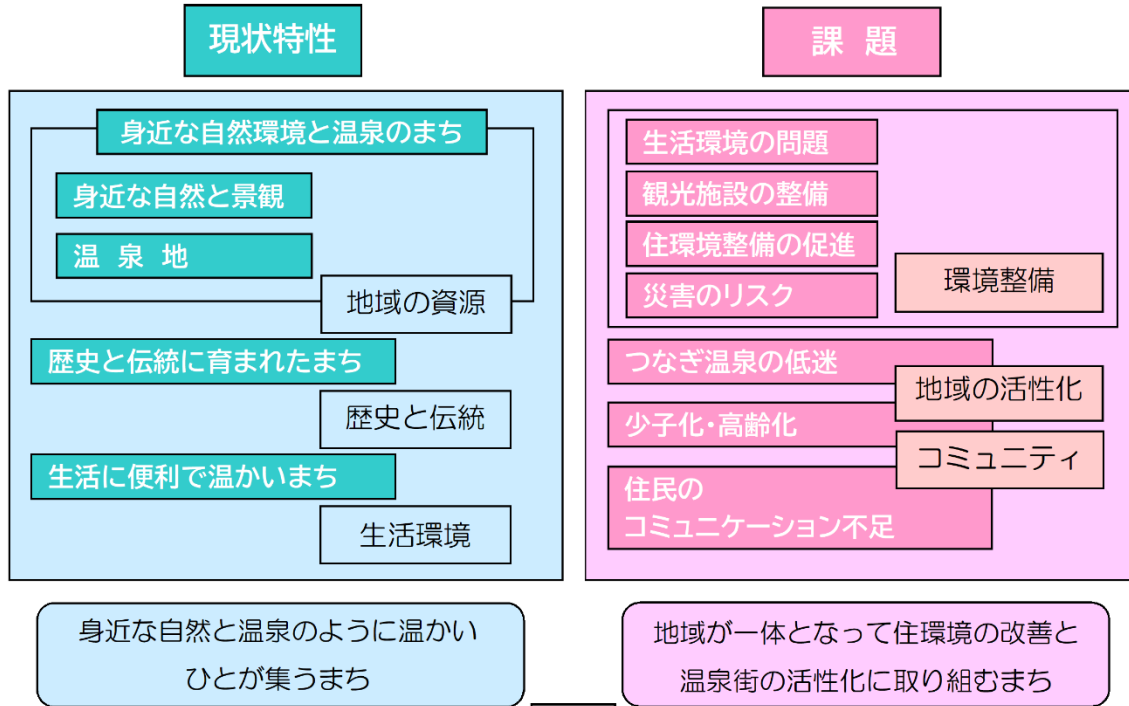
地域の資源・課題マップ



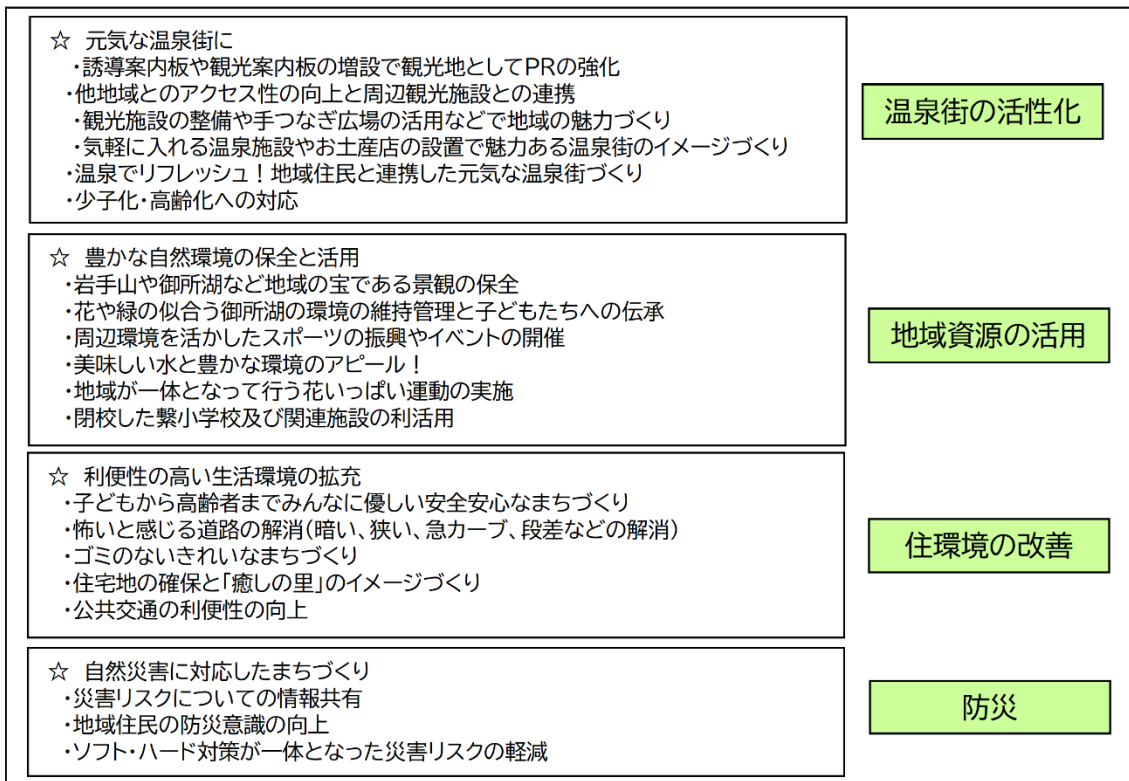
(2)まちづくりの方向性

平成 17 年度に策定した地域構想（つなぎ地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。

現状と課題



まちづくりの方向性



湯・湖・花・緑・スポーツ みんなで「つなぐ」温かなまち

(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

みず
『湯・湖・花・みどり・スポーツ

みんなであつたつなぐ温かなまち』

②基本方針

i)温かい湯のまちの活性化

つなぎ地域は、御所湖と周囲の山の豊かな緑に抱かれ、湖の波紋と四季折々に美しい姿を見せる自然、そして湖畔に咲く花々が織り成す景観が、この地を訪れる人々の旅情を誘う、とても大切な地域の宝物になっています。そして、地域を代表するつなぎ温泉は、盛岡の奥座敷として長い歴史を誇り、その美しい景観と相まって癒しの空間を醸し出しています。

近年、様々な社会情勢の変化に起因する観光客の減少傾向や、地区住民の少子化・高齢化の進行などにより、地域活力が低下していると言われていたますが、本地域へのアクセス性を高め、小岩井農場や手づくり村などの周辺施設との連携を推進することにより、さらなる魅力的な観光地の形成を図るとともに、豊かな自然環境の保全と積極的な活用による観光施設の整備を進め、地域資源を活かした新たな特色づくりによる、地域が一体となった元気で魅力ある温泉街の創出を目指します。

ii)みんなにやさしい温かいまち

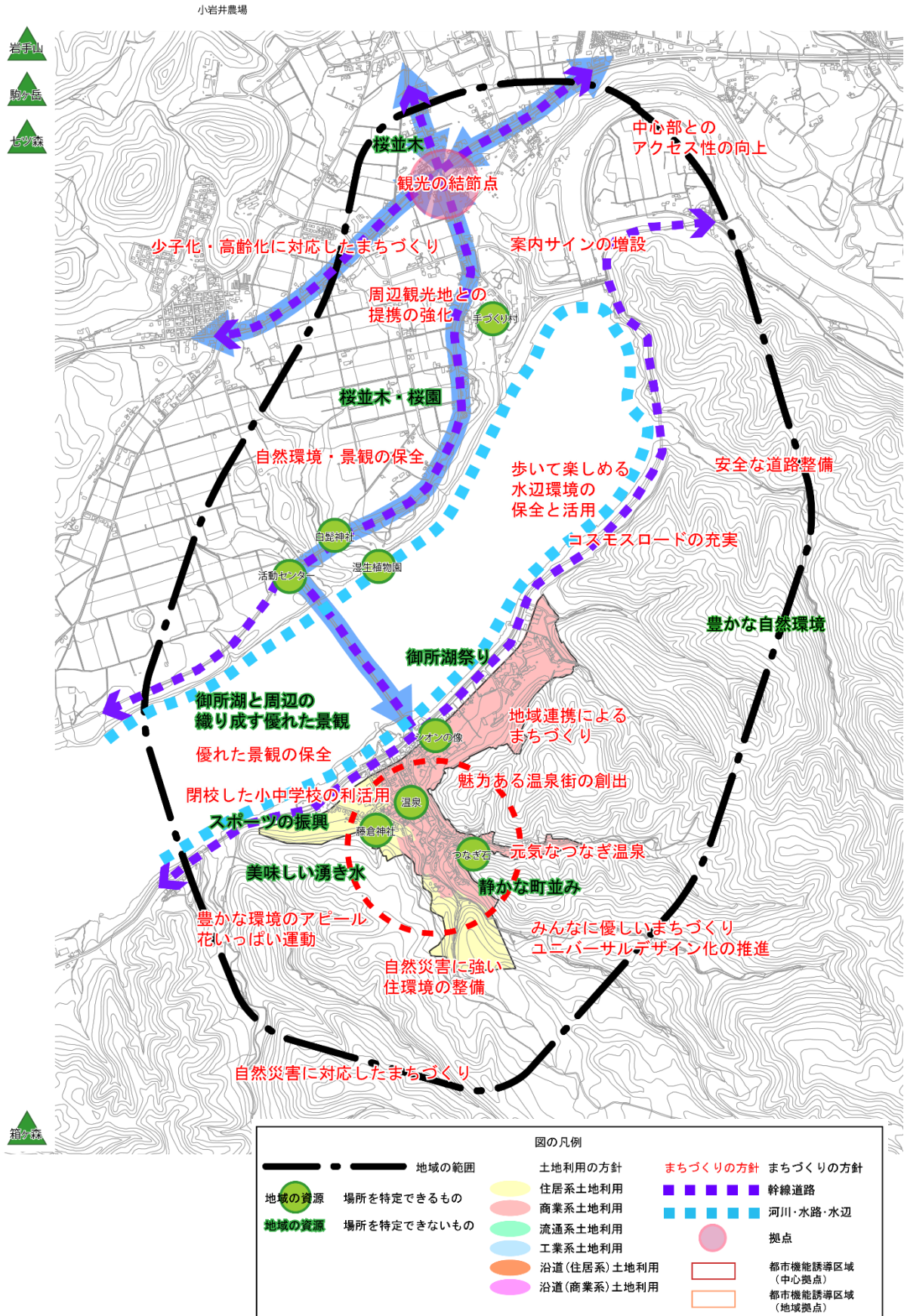
つなぎ地域は、史跡や各神社のお祭りなどの歴史と伝統があり、人々のつながりが強く、安全安心な住環境を育む地域コミュニティが息づいています。また、御所湖を拠点としたスポーツの振興が盛んな地域でもあります。

周囲を急峻な山々に囲まれ、坂道が多く歩道のない道路もあることから、危険と感じる道路の解消や急傾斜地対策により、自然災害に強いまちづくりを推進します。また、観光客や地域住民の高齢化を踏まえ、すべての人にやさしく、ゆっくりと地域を歩いて楽しめるまちづくりを進め、ユニバーサルデザイン化の推進に努めます。

さらに、活力ある地域の創出を目指して、美味しい清水が湧き出る豊かな環境のアピールや、次世代への歴史や伝統の継承、まちを彩る花いっぱい運動の実施など、地域が一体となって行うまちづくり活動により、地域資源を活用した「癒しの地」のブランド形成を図り、地域全体が潤い、そしてこの地に住まうことの豊かさをすべての人が享受できるまちづくりを推進します。

防災面では、地域の多くが山間の傾斜地であり、土砂災害警戒区域などに含まれています。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

まちづくりの方針マップ



14) 渋民地域

渋民地域の平成 18 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

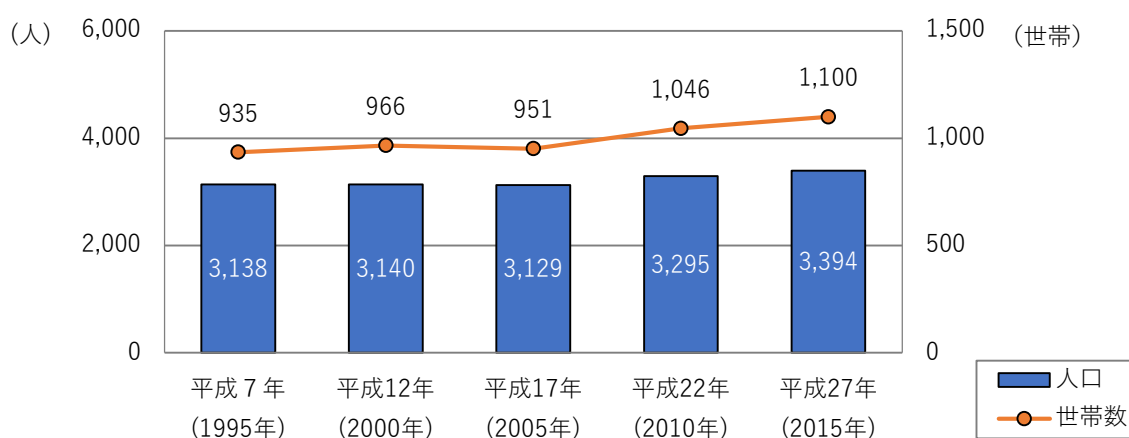
(1) 地域の現状

① 地域データ

i) 人口・世帯数

渋民地域の人口と世帯数は近年、微増傾向にあります。

人口・世帯数の推移 資料:国勢調査

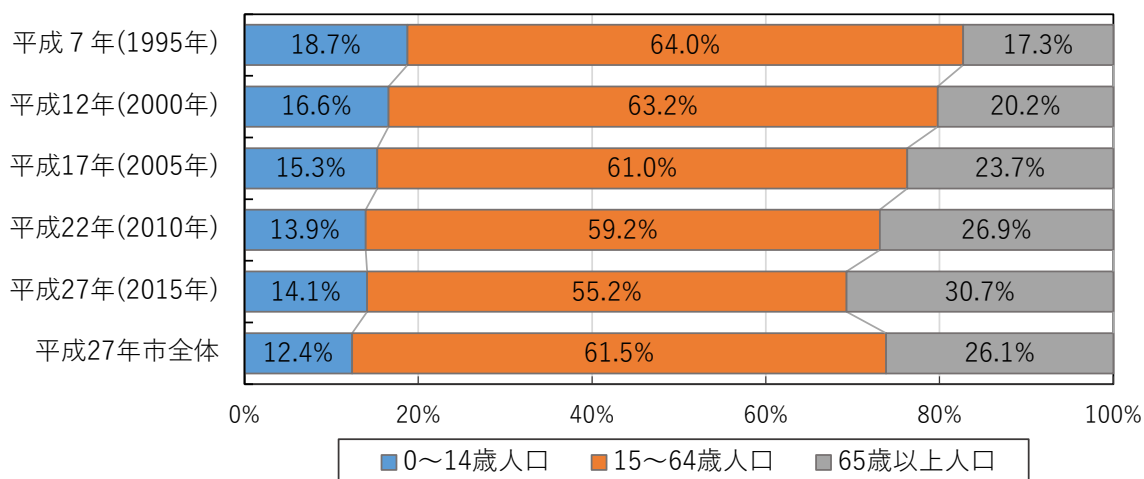


ii) 年齢階層別人口割合

渋民地域は、少子化・高齢化の傾向にあり、市全体に比べ、65歳以上人口の割合が高くなっています。

また、0～14歳人口の割合が高い地域となっています。

年齢階層の推移 資料:国勢調査

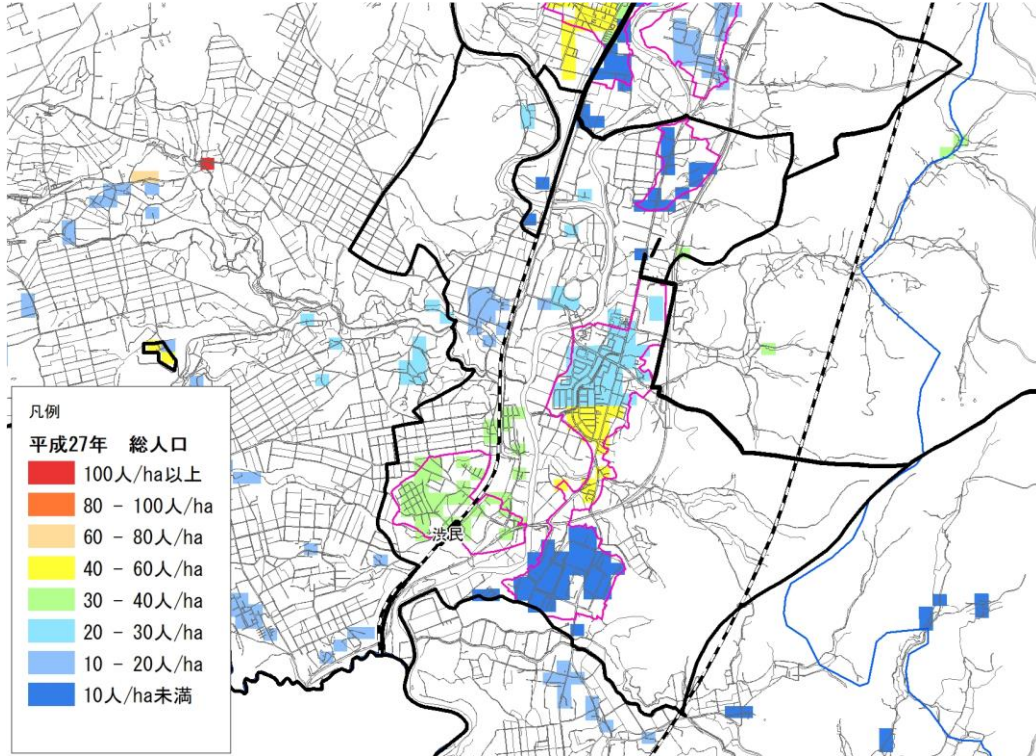


iii)人口の分布状況

地域内に 40 人/ha 以上の人口が集積しているエリアがみられますが、将来的には地域全域で人口の減少が見込まれます。

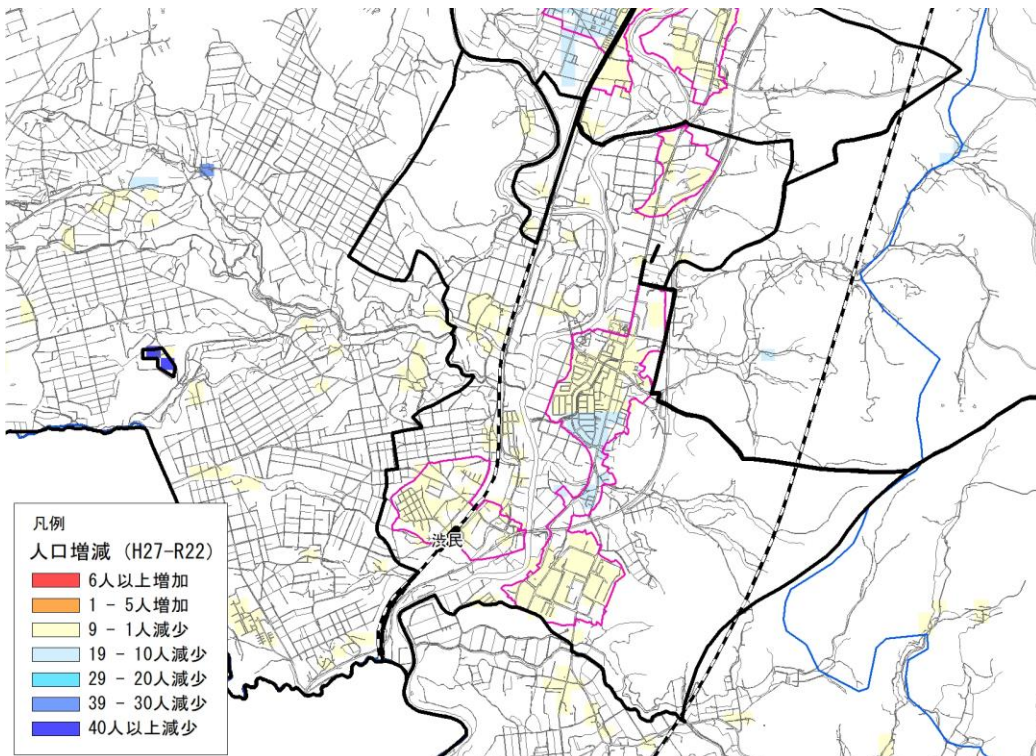
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲は地域の南側に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図 資料:平成 27 年国勢調査結果

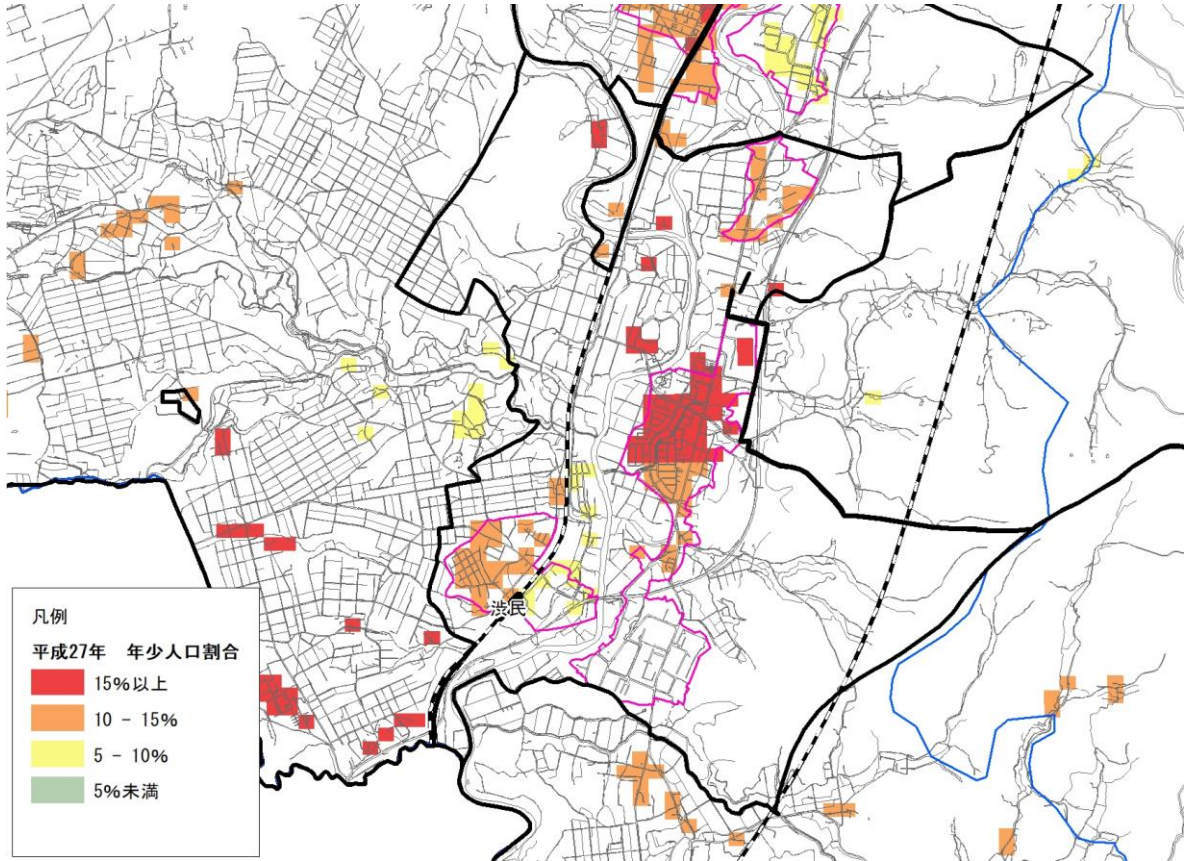


人口増減予測図(平成 27 年~令和 22 年)

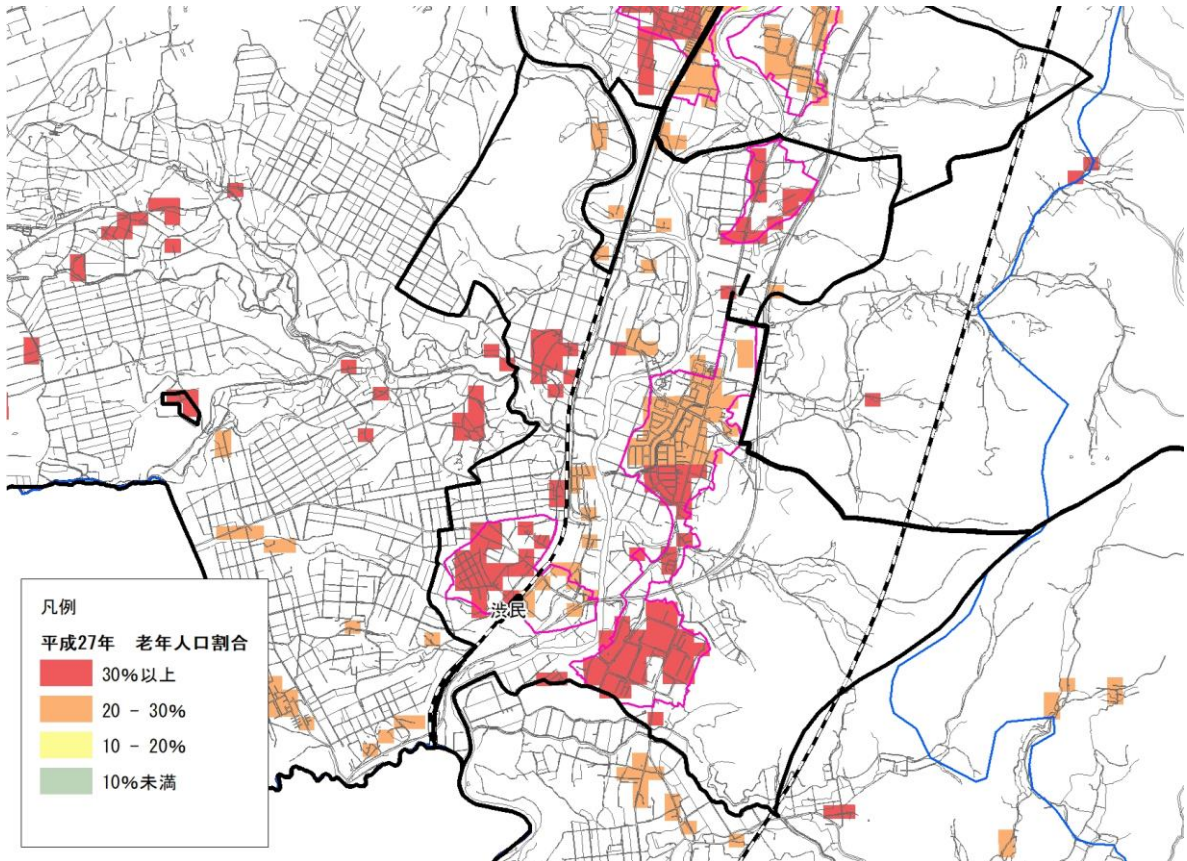
資料:平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



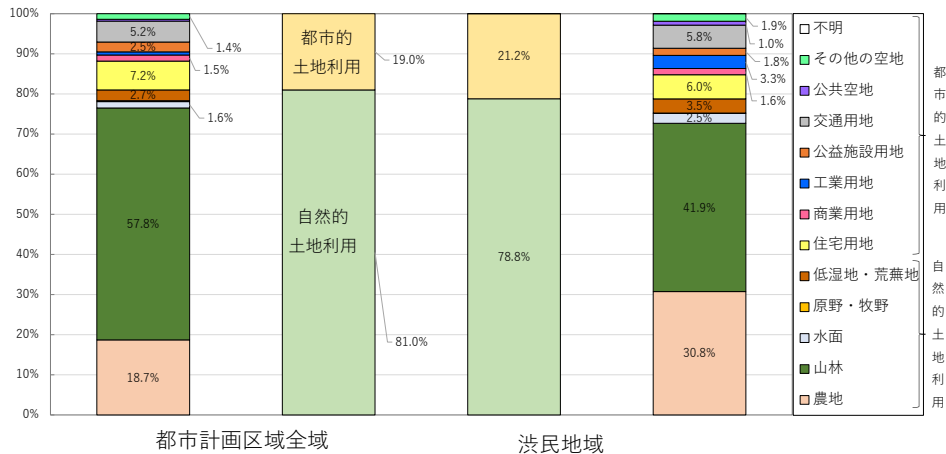
iv) 土地利用の状況

渋民地域の土地利用は、自然的土地利用が約79%を占めています。

自然的土地利用においては、山林と農地の割合が高くなっており、田や畑などの農地の広がり、東部の山林が地域の特徴となっています。

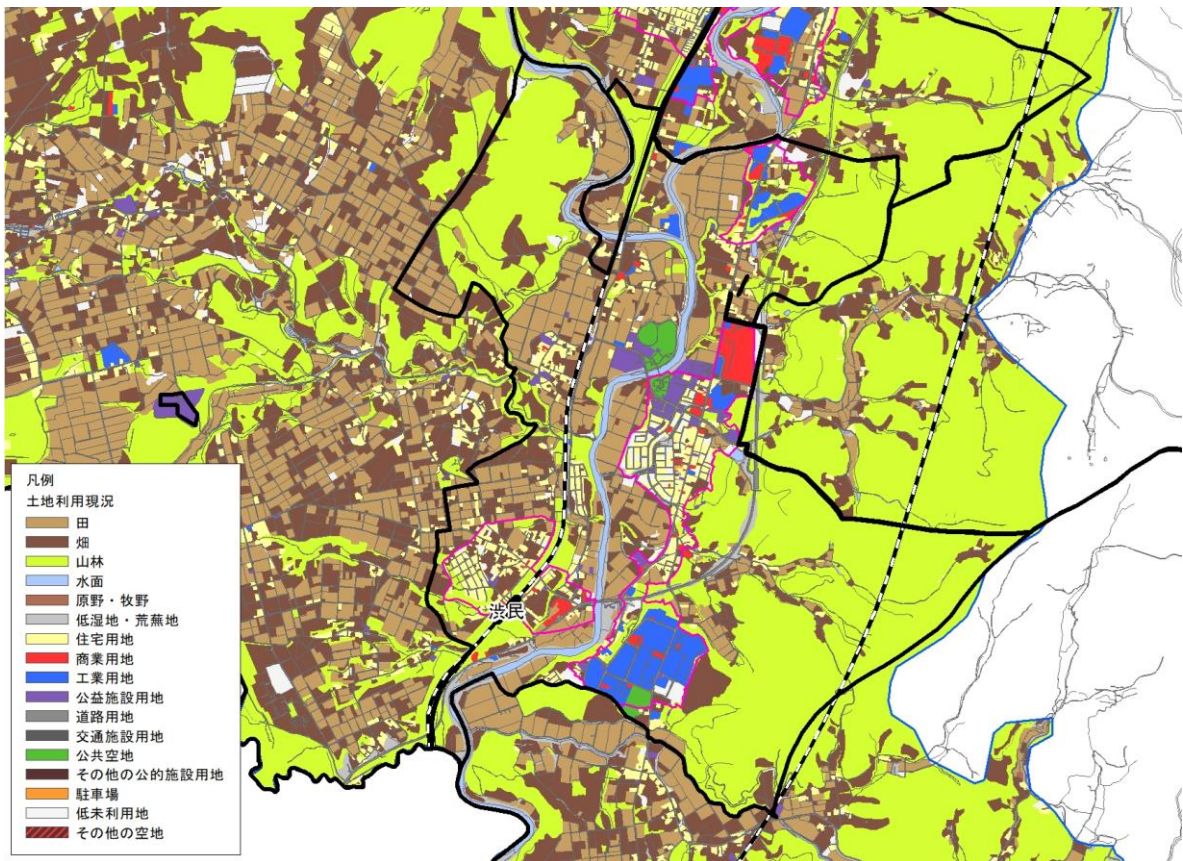
都市的土地利用においては、住宅用地と交通施設用地が多いほか、盛岡工業団地などがあることから工業用地も多くなっており、豊かな田園が広がる中、国道沿いの市街地を中心に、多様な土地利用が進んだ地域となっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較 資料:平成27年都市計画基礎調査



(地域の土地利用の割合が1%未満のものは、表記を割愛しました。)

土地利用現況図 資料:平成27年都市計画基礎調査

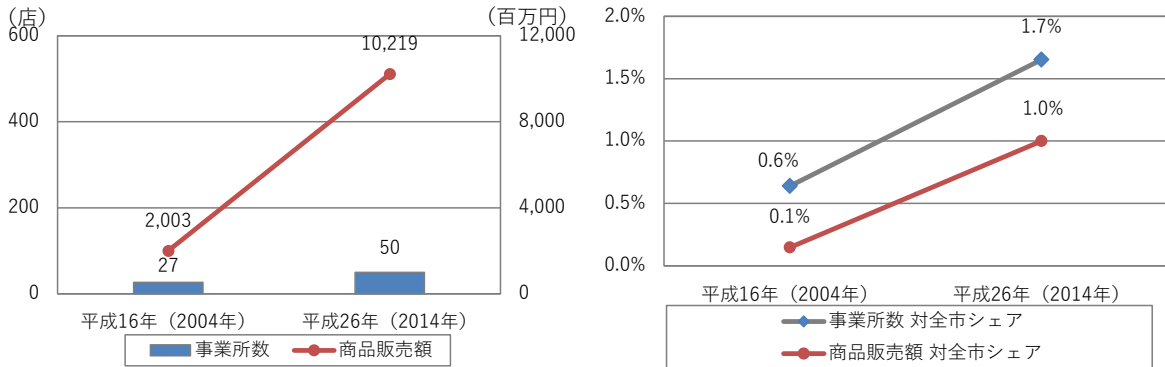


v) 商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも増加傾向にあります。

平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは 1.7%、商品販売額の対全市シェアは 1.0%となっています。

産業関連指標と対全市シェア 資料:商業統計



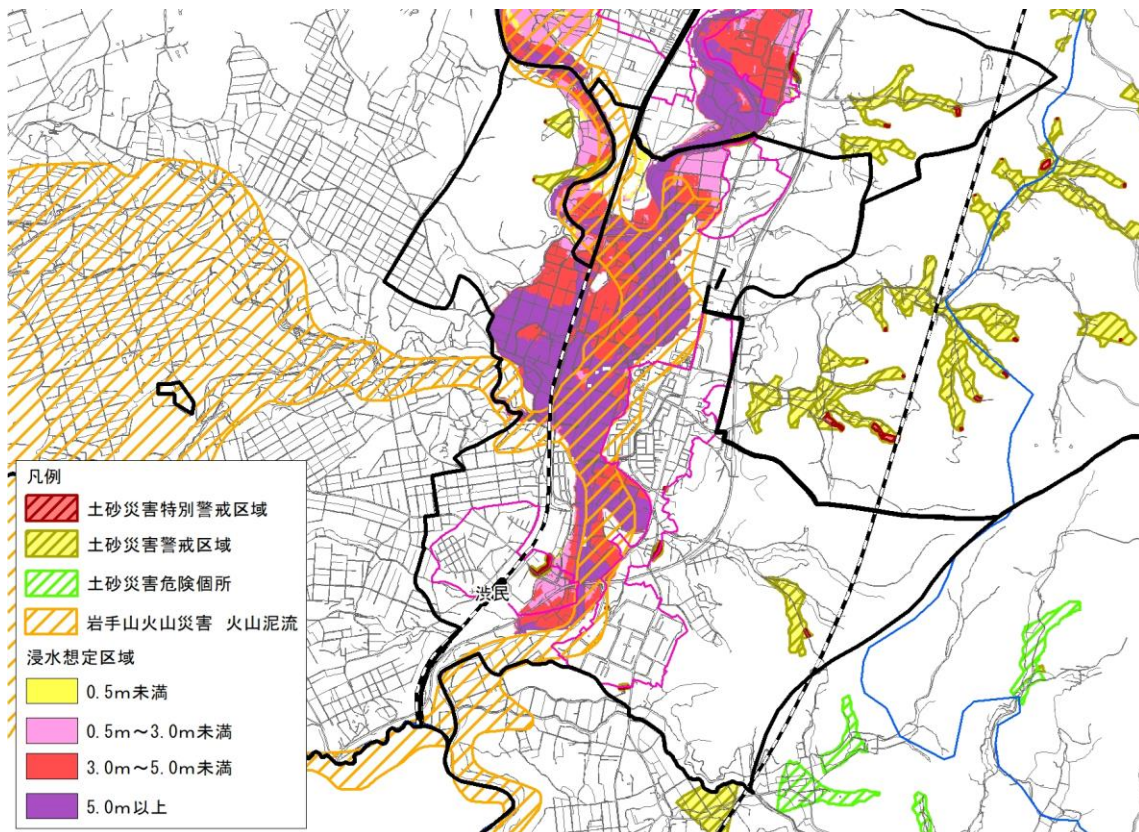
vi) 災害リスクの分布状況

北上川、松川沿いに洪水浸水想定区域が広く分布しており、浸水深が 5.0m 以上となる範囲もあります。

松川、生出川沿いなどには、火山泥流が流れ下る危険性のある範囲も広く分布しています。

また、地域の東側には、土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域などが分布しています。

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図 資料:国土交通省、岩手県

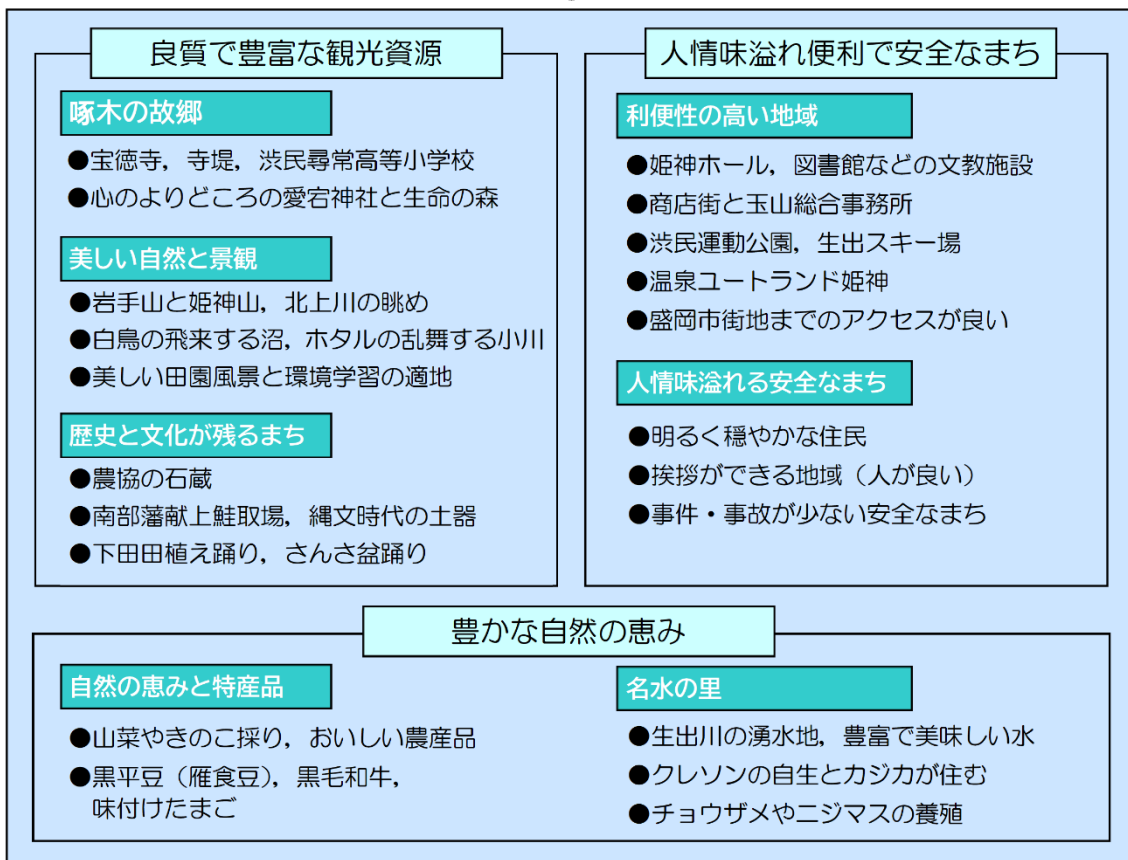
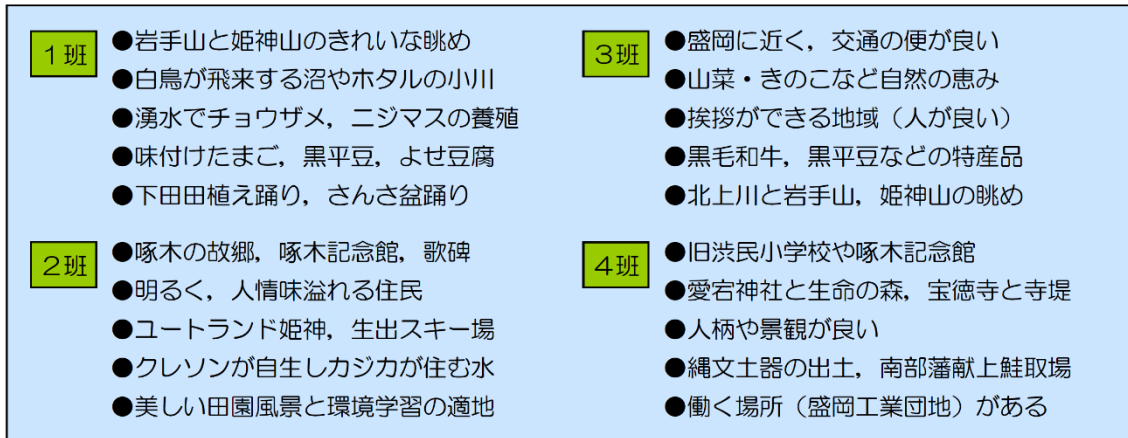


②市民の意見

平成 18 年度に策定した地域別構想（渋民地域）における、「資産」及び「課題」に関するワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

i) 地域資産(魅力・宝)

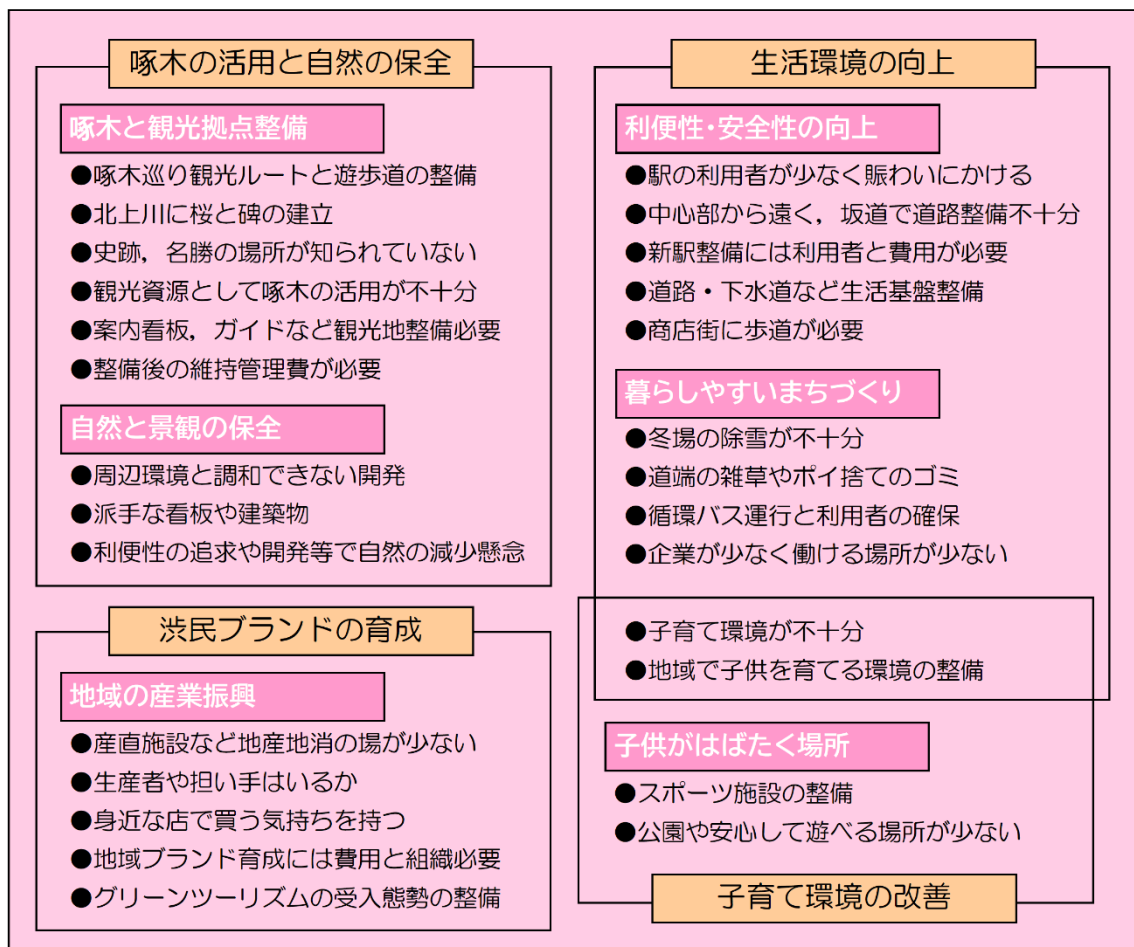
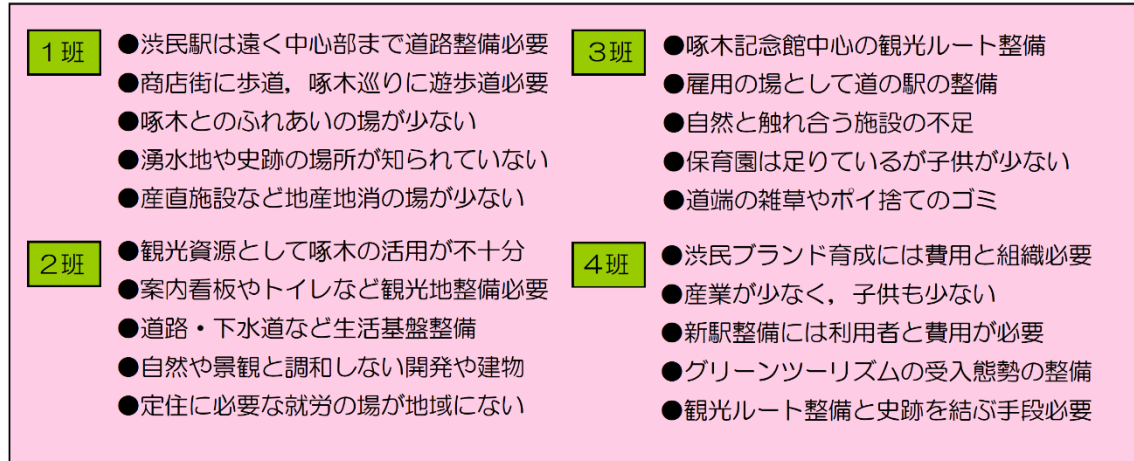
石川啄木の故郷として有名な渋民は、姫神山や北上川など美しい自然のもと、啄木ゆかりの史跡や街道沿いに並ぶ寺社などの歴史的・文化的地域資産に恵まれた、穏やかな人柄がにじむ平穏な地域であるといった意見が多く出されました。



美しい自然に生まれ、人情味溢れる人々が暮らす石川啄木のふるさと

ii)地域の課題

渋民は玉山の中心市街地として発達してきたまちですが、現在の地域における課題として、鉄道や道路といった交通施設、自然や建築物に対する景観対策、地場産業と雇用の関係、地域資産と観光施策などに関する意見が出されました。

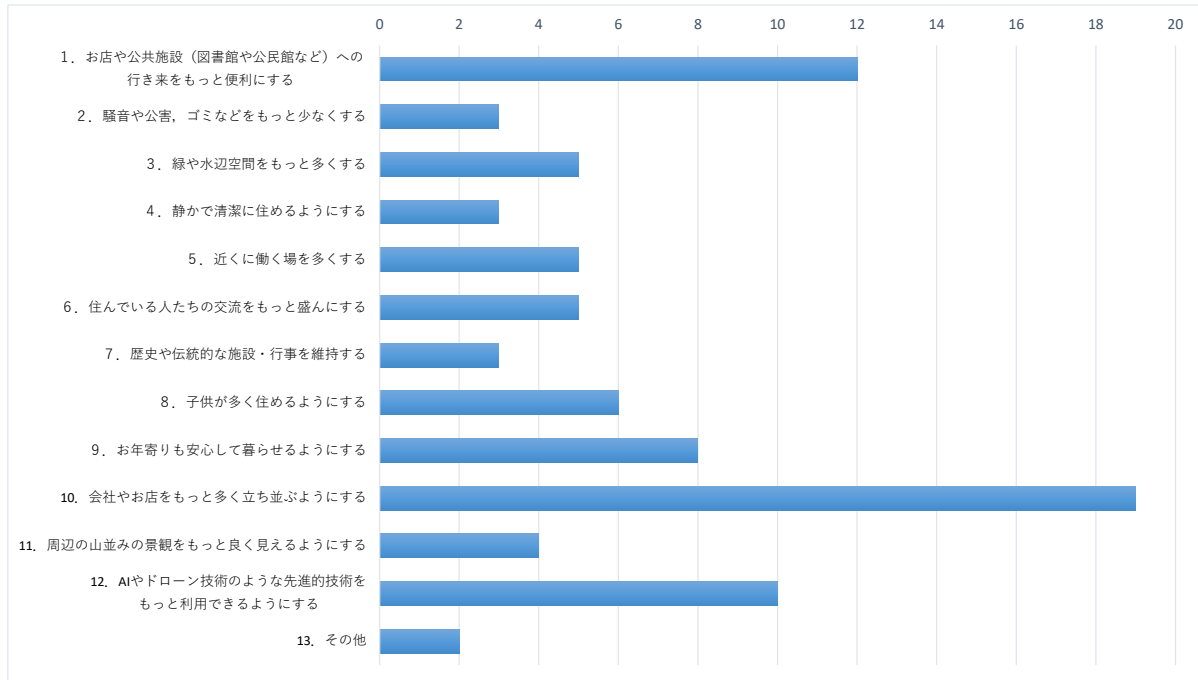


地域の特性を活かし、安全で暮らしやすいまちづくり

iii)中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（渋民地域）の見直しにあたり、約20年後のまちづくりを担う世代である渋民地域の市立中学校2学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（渋民地域の32人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「先進的技術をもっと利用できるようにする」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、公共交通に関する意見（新駅の整備）、公園整備に関する意見（新たな公園の整備など）が多くありました。

iv)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（渋民地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、渋民地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔8町内会・自治会のうち5団体（63%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

- 岩手山、北上川、姫神山の美しい山河の眺望。
- 啄木記念館、姫神ホール、運動公園等文教施設が整備されている。
- 大型商業施設の進出整備に伴い生活環境が充実している。

【課題】

- 地域の中心地に直結する新駅を設置し交通の利便性向上を図る必要がある。
- 観光施設を補完する歩道、広場、公園が少ない。
- 就労の場が少ない。
- 大型店の立地により小さな店がなくなり、渋民銀座が活性化されていない。

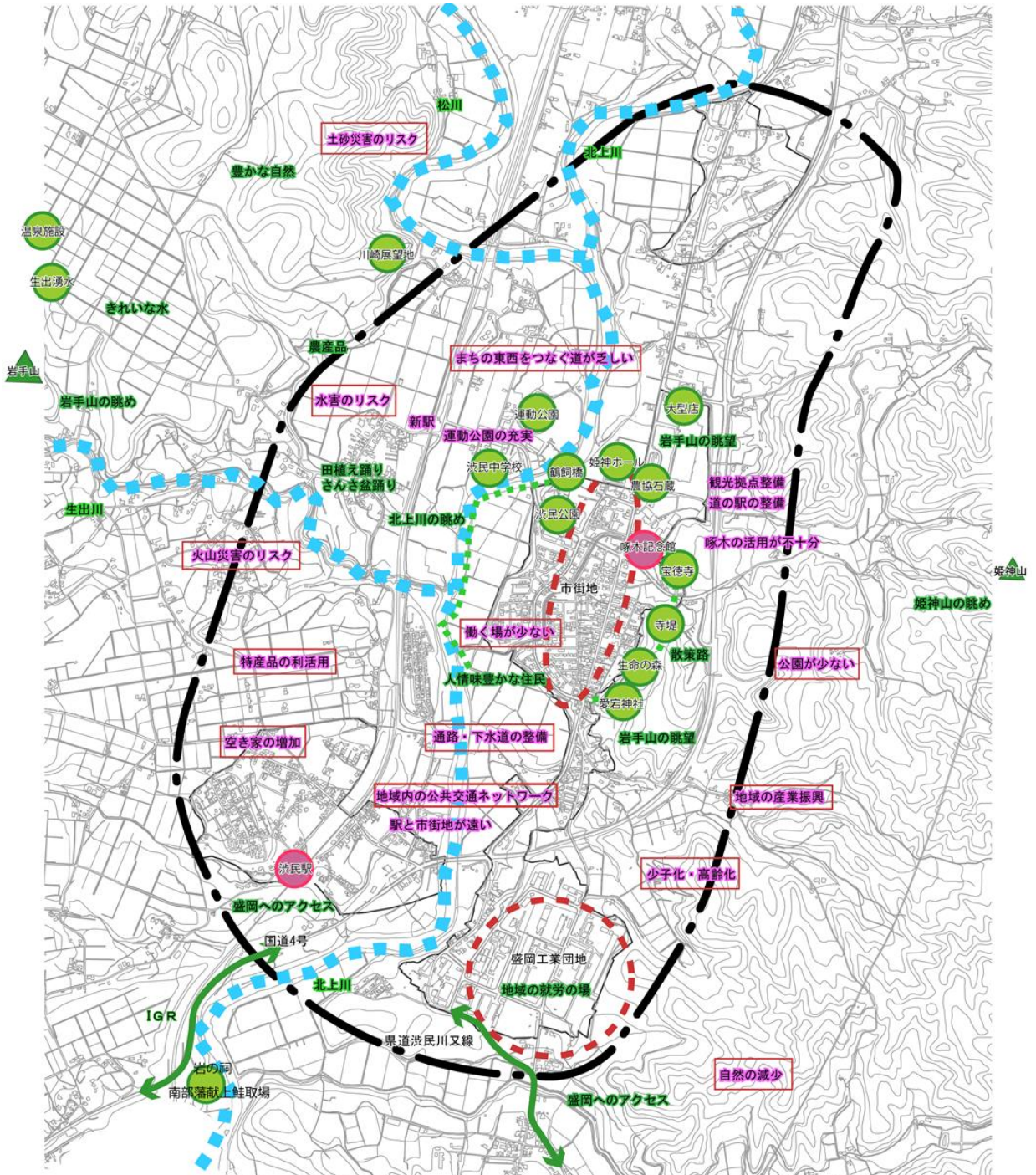
v)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（渋民地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、渋民地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔8町内会・自治会のうち5団体（63%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

- 現在の地域別構想の「まちづくりの方向性」の内容を今後も継続して良いと思う。
- 新駅を早期整備するとともに啄木関連の施設や総合運動公園、姫神ホール等の文化施設等と一体となった歩道、市道を整備することにより文化的なまちと自然あふれる住環境を目指してほしい。
- 道の駅を中心としたまちづくりを考える。
- 啄木のふるさととしてのアピールに加えて自然と調和した景観も強くアピール。
- 誰もが安心して暮らせる利便性の向上、若い人たちや高齢者が住みやすい全国で一番住みやすいまちを目指してほしい。
- 防災力、防犯力を高め誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり。
- 里山、川など身近な自然を保全活用し、自然と触れることのできる環境づくり。
- このまま現在の地域別構想の基本方針に沿って進めてほしい。

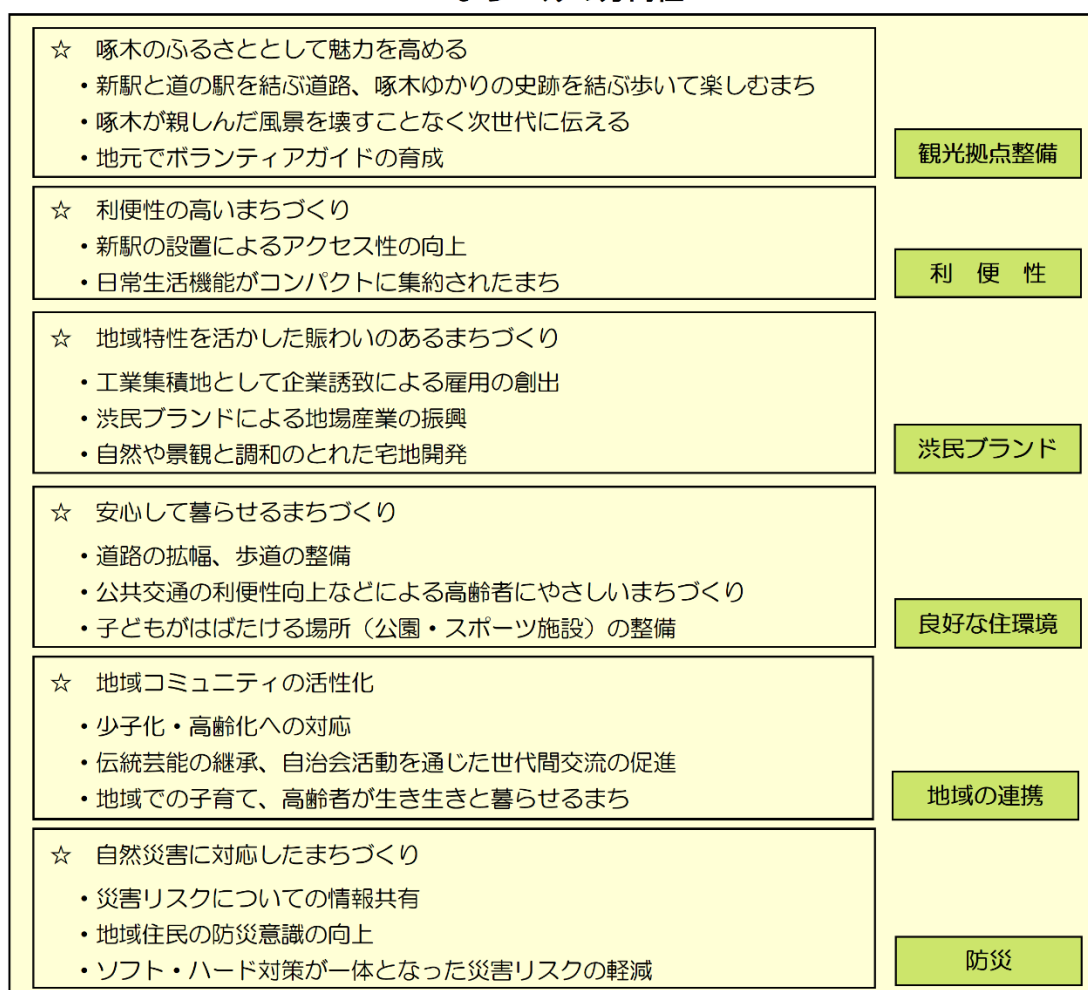
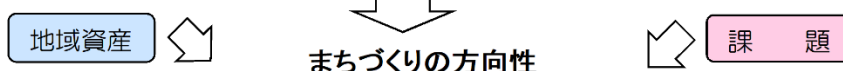
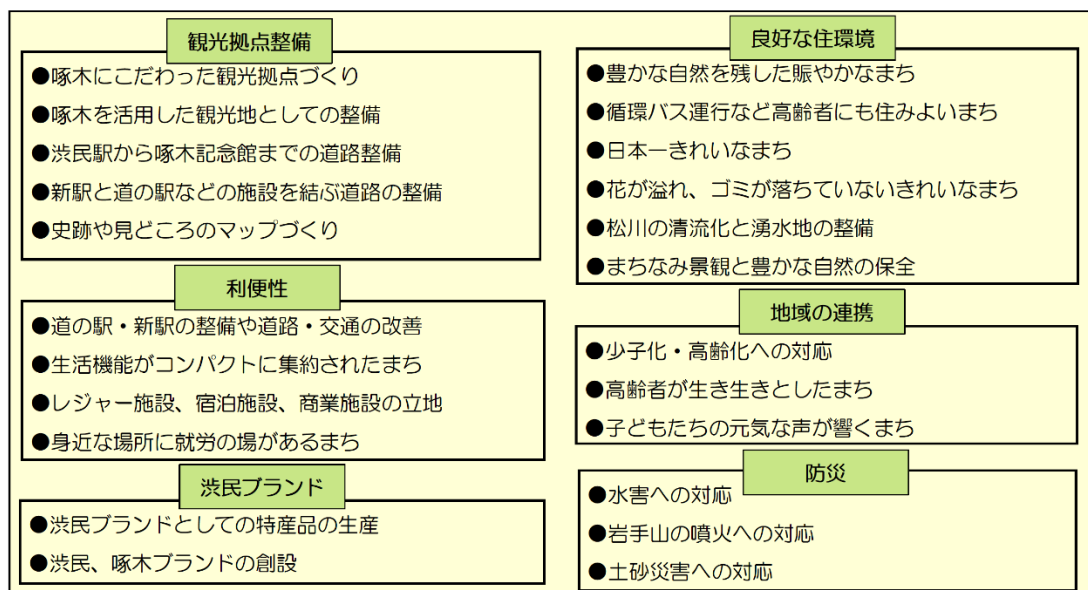
地域の資源・課題マップ



図の凡例	
	地域の範囲
	地域の資源 場所を特定できるもの
	地域の資源 場所を特定できないもの
	地域の課題 場所を特定できるもの
	地域の課題 場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成18年度に策定した地域別構想（渋民地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。



魅力ある啄木のふるさと、地域特性を活かした賑わいのあるまちづくり

(3)まちづくりの目標と基本方針**①目標****『诗情あふれる自然と詩人・歌人のつどう啄木の故郷』****②基本方針****i) 啄木の故郷として地域資産を活かした詩歌と観光のまちづくり**

石川啄木が“おもひでの山、おもひでの川”と詠い、心の拠りどころとしたふるさとの風景が今も色濃く残る渋民地域は、北上川、生命の森、寺堤の史跡など、訪れた人を詩の世界に誘い、啄木と心通わせることができる、大切な地域の宝物が多く残っています。啄木のぬくもりを感じさせる資料を展示した石川啄木記念館やゆかりの史跡、さらには豊かな自然や美しい景観といった地域の資産をつなぐことにより、魅力ある観光地の形成を図るとともに、観光案内板を始めとする観光施設の整備、地元住民を対象としたボランティア観光ガイドの育成など、地域が一体となった魅力ある啄木の故郷の創出を目指します。

また、国道4号渋民バイパスの沿道に「道の駅」の整備を進めるほか、IGRいわて銀河鉄道線への新駅設置に向けた調査等を進め、渋民地域の市街地と各施設を有機的に結ぶ東西アクセスの軸となる道路を整備し、地域の利便性の向上と観光拠点としての魅力向上を目指します。

ii) 豊かな自然と地域の特性を活かした人々が集うまちづくり

渋民地域は、四季折々の美しい景観を織り成す、雄大な岩手山と優美な姫神山に抱かれ、山菜やきのこ採り、おいしい湧水と空気に育まれた農産物など豊かな自然の恵みを満喫することのできる地域です。この自然と農産物を活かしたグリーンツーリズムの展開や、地域の黒平豆やそばなど農産物を活用した特産品開発による「渋民」の地域ブランドの育成や、道の駅や産直施設などを活用した地産地消の推進による産業振興を図ります。様々な体験や交流を通じて来訪者が「また渋民に来たい」、「将来住みたい」、「本当の故郷に帰ってきた」と感じられる魅力あるまちづくりを推進します。

また、渋民地域は工業集積地としての特性を活かした企業誘致による新たな雇用の創出や、中心市街地への通勤圏としての立地条件を活かした勤労者世帯の定住の促進を図るとともに、郷土の宝である風景を次世代に伝えるため、自然や景観と調和したまちづくりを推進します。

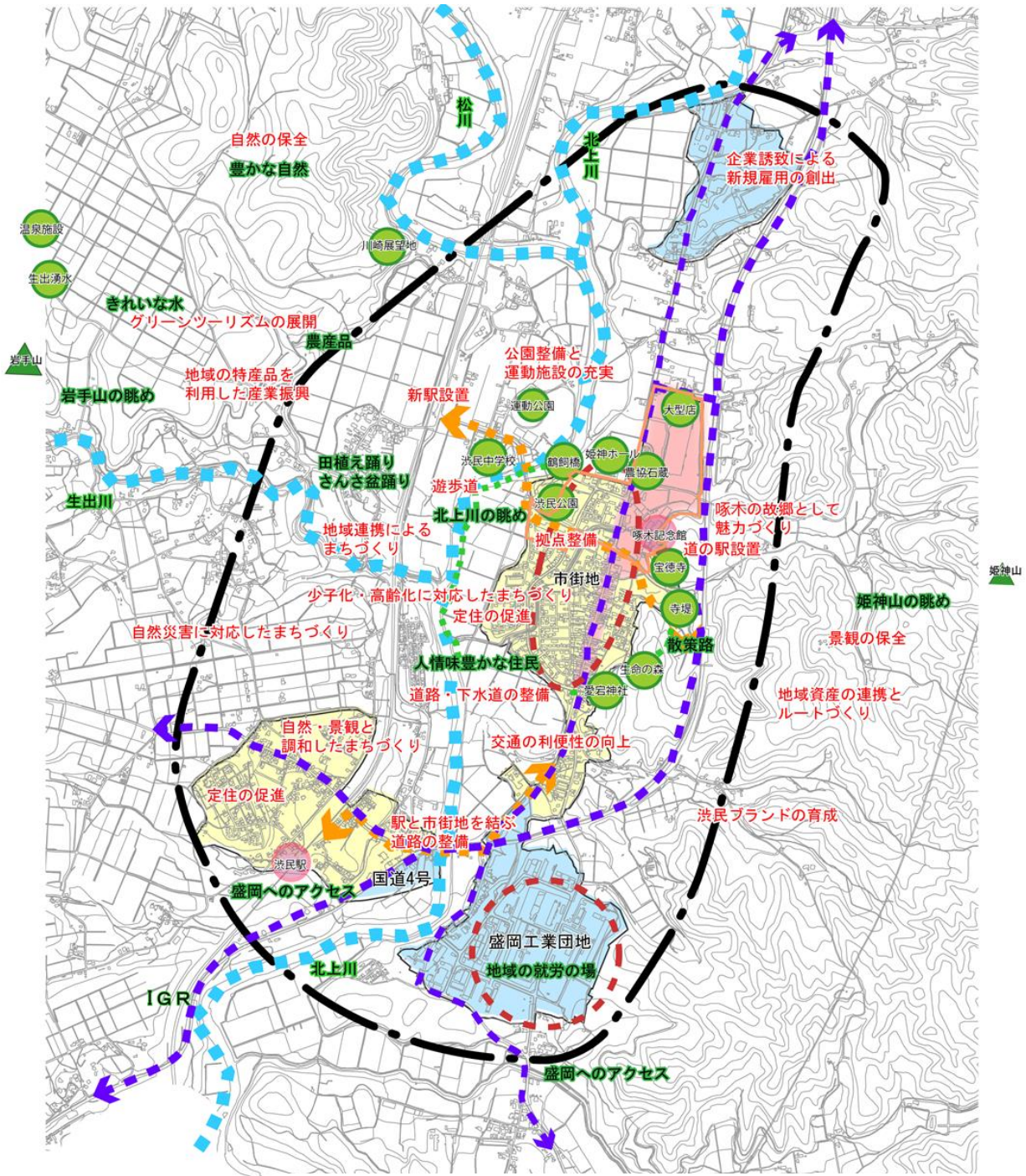
iii)誰にでも優しく、安心して暮らせるまちづくり

渋民地域は、大型商業施設の進出や公共施設の整備などによる生活環境の充実が進む地域である一方、少子化・高齢化の進行や既存の商業地の活力低下が課題となっています。また、地域内の交通の利便性の向上や自然と触れ合う施設、子どもがはばたく場としての公園などの整備が必要といった意見があります。

地域全体の活性化と、地域住民の生活の利便性向上のため、周辺の山並み眺望などの景観に配慮しながら、地域の拠点にふさわしい商業地をはじめとした都市機能の維持、再生を図るとともに、誰もが安心して暮らしやすい生活環境をつくるため、道路をはじめとする公共施設の充実を図り、さらには田植え踊りなどの伝統芸能の継承や、自治会活動などの世代間交流を通じた人々のふれあいにより、地域コミュニティの活性化を図り、お互いを支え合える結いのまちづくりを推進します。

防災面では、地域を流れる北上川及び松川沿いが、洪水浸水想定区域に含まれ、また、広範囲にわたり岩手山の火山噴火による火山泥流が想定されるエリアがあります。さらに、地域の東側には、土砂災害警戒区域などに含まれているエリアが多くあります。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

まちづくりの方針マップ



図の凡例		まちづくりの方針	
	地域の範囲		まちづくりの方針
	地域の資源 場所を特定できるもの		幹線道路
	地域の資源 場所を特定できないもの		河川・水路・水辺
	土地利用の方針 住居系土地利用		拠点
	商業系土地利用		都市機能誘導区域 (中心拠点)
	流通系土地利用		都市機能誘導区域 (地域拠点)
	工業系土地利用		
	沿道(住居系)土地利用		
	沿道(商業系)土地利用		

15)好摩地域

好摩地域の平成 18 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

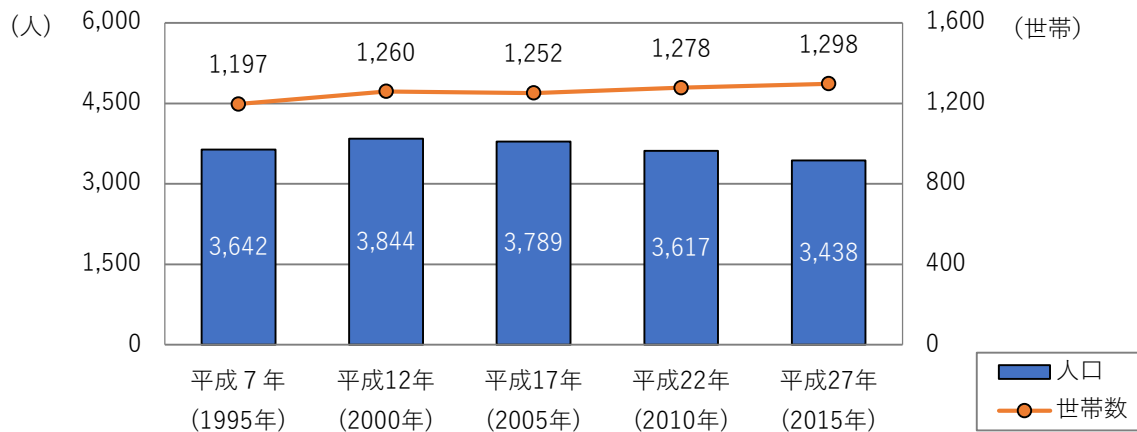
(1)地域の現状

①地域データ

i)人口・世帯数

好摩地域の人口は減少傾向、世帯数は増加傾向にあります。

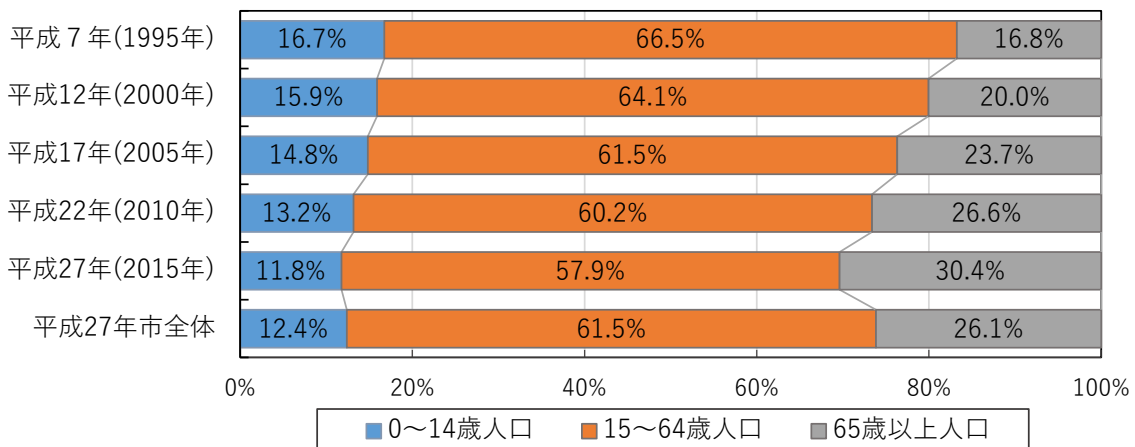
人口・世帯数の推移 資料:国勢調査



ii)年齢階層別人口割合

好摩地域の 0～14 歳人口の割合は全市とほぼ同じですが、65 歳以上人口の割合は市全体に比べて高く、高齢化が進んでいる地域となっています。

年齢階層の推移 資料:国勢調査

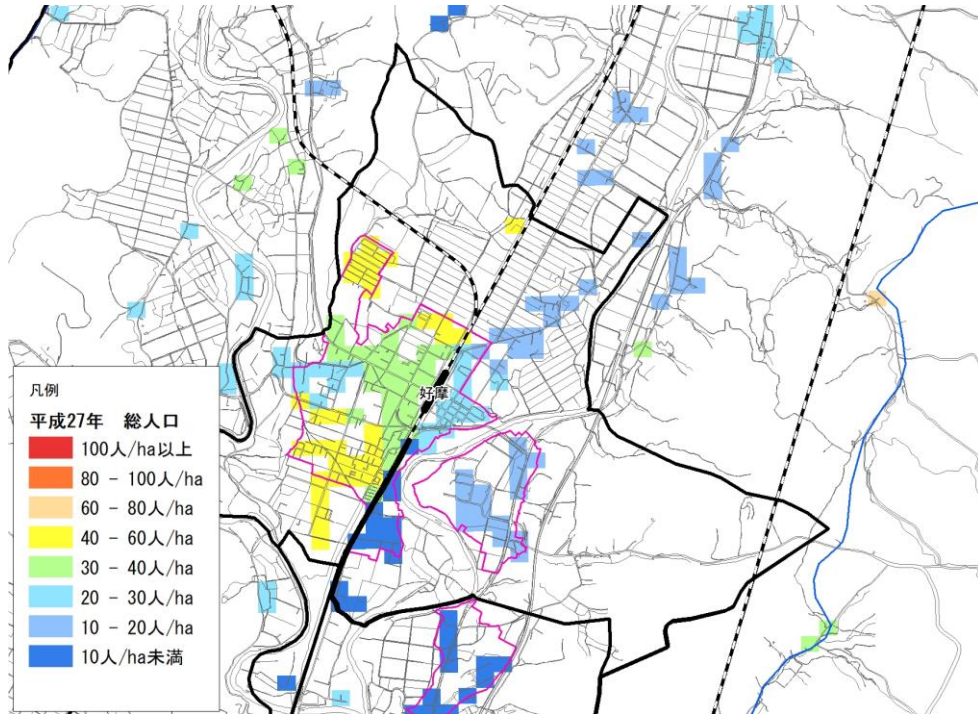


iii)人口の分布状況

地域内に 40 人/ha 以上の人口が集積しているエリアがみられますが、将来的には、地域全域で人口の減少が見込まれます。

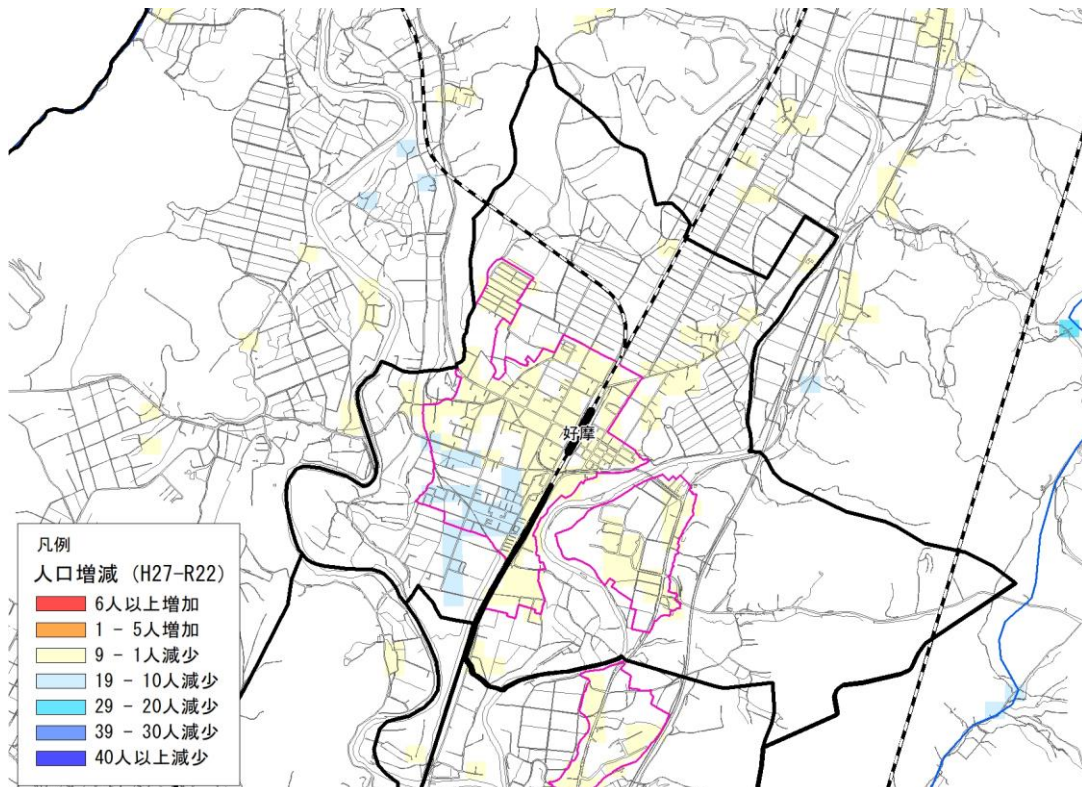
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲は地域の西側に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図 資料:平成 27 年国勢調査結果

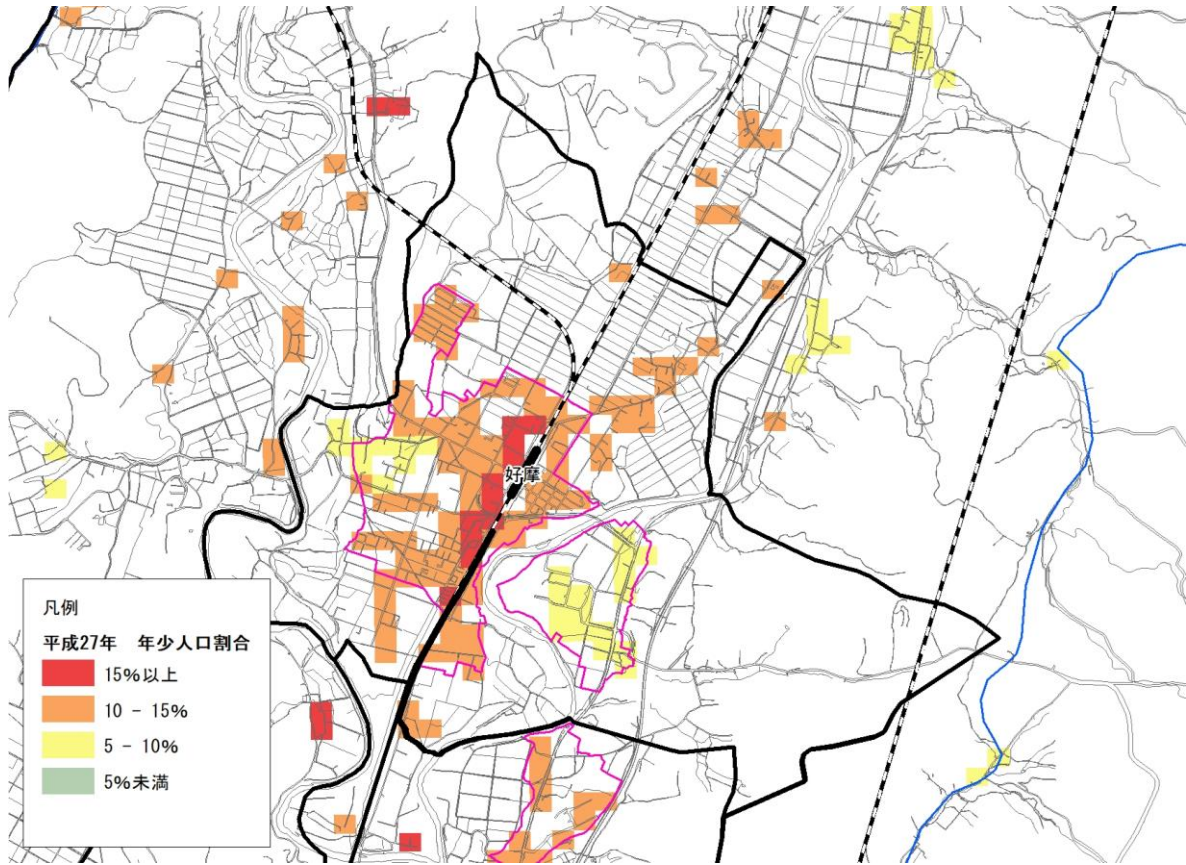


人口増減予測図(平成 27 年～令和 22 年)

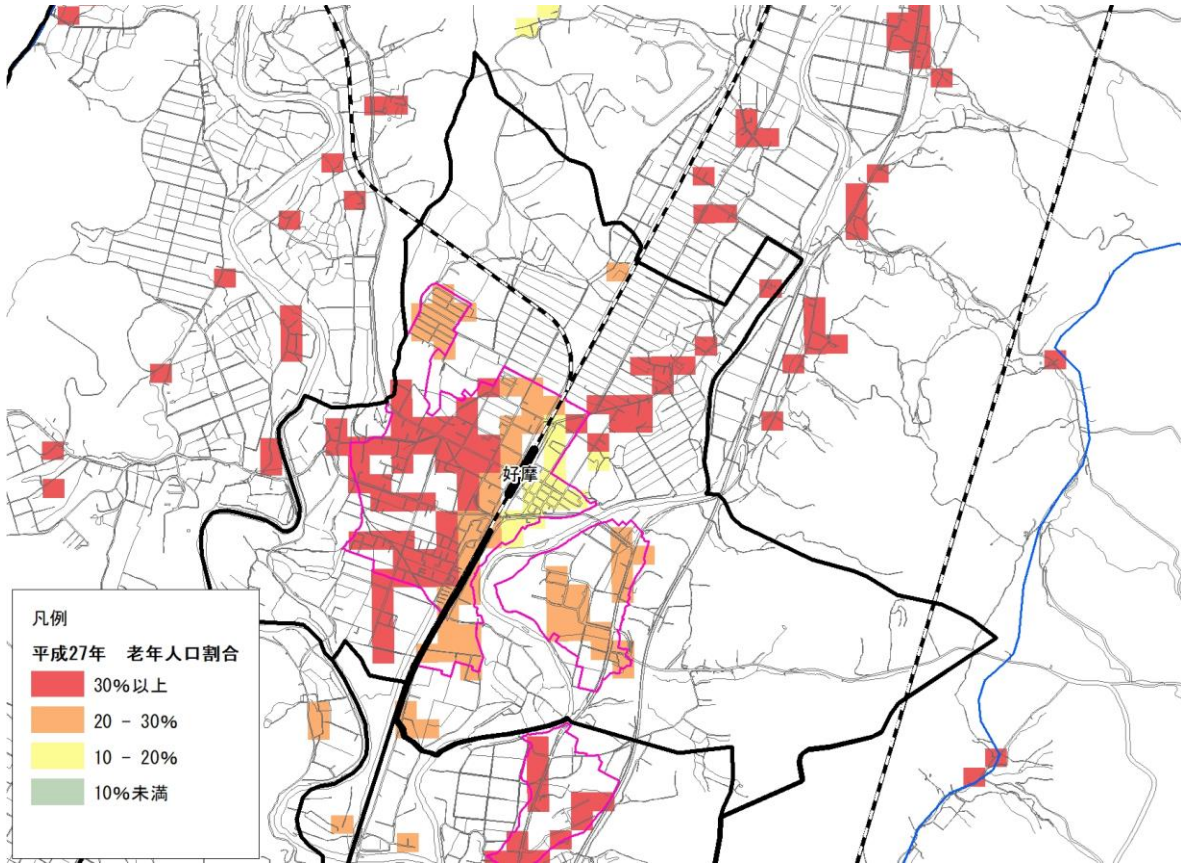
資料:平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図 資料:平成 27 年国勢調査結果



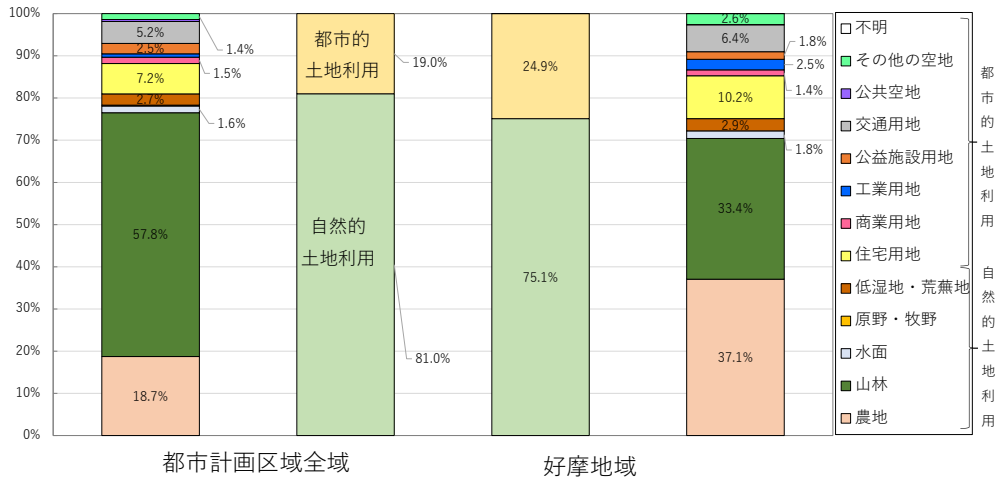
iv)土地利用の状況

好摩地域の土地利用は、自然的土地利用が約75%を占めています。

自然的土地利用においては、農地と山林の割合が高くなっており、平坦地には農地、丘陵地には山林が広がっています。

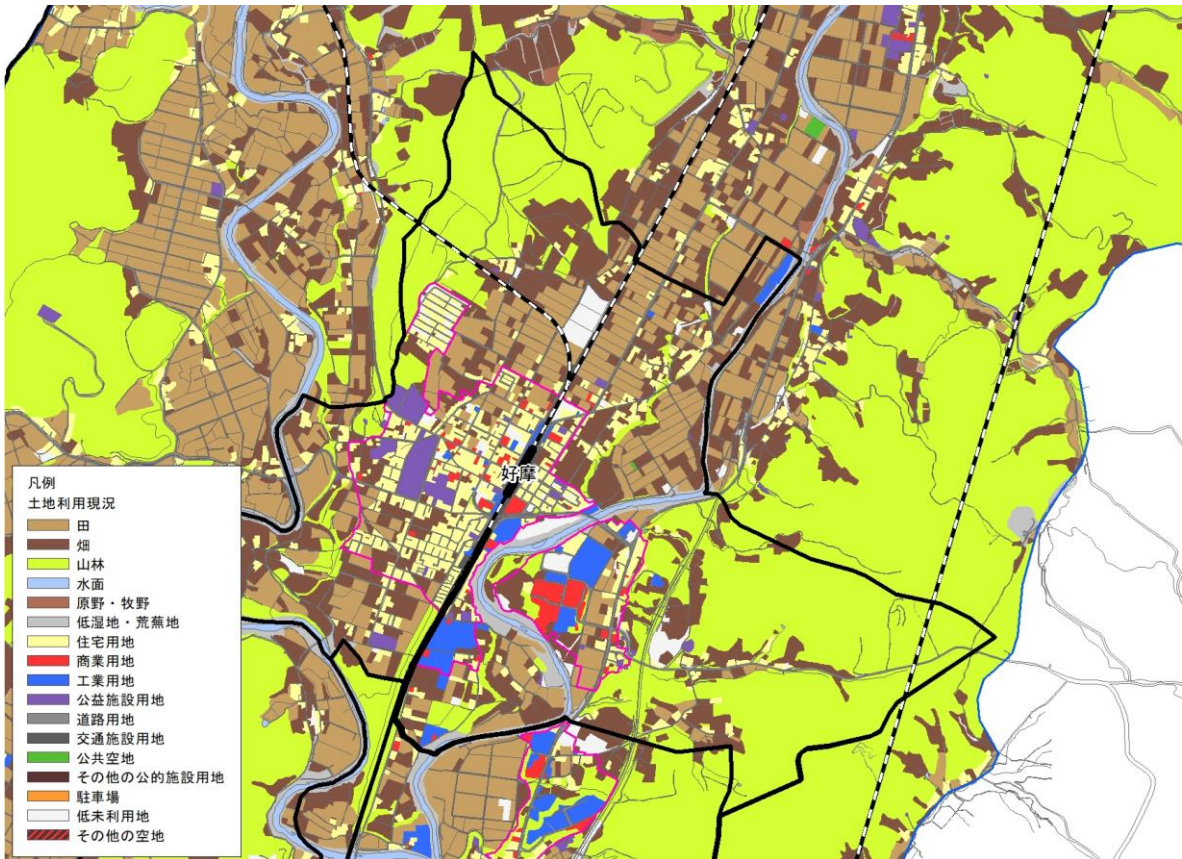
都市的土地利用においては、住宅用地が最も多く、次いで、交通施設用地、工業用地が多くなっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較 資料:平成27年都市計画基礎調査



(地域の土地利用の割合が1%未満のものは、表記を割愛しました。)

土地利用現況図 資料:平成27年都市計画基礎調査

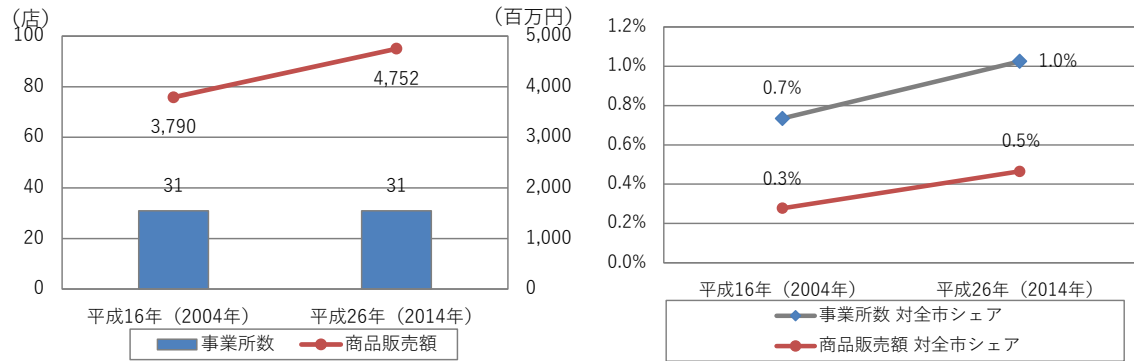


v) 商業の状況

地域内の事業所数は横ばい、商品販売額は増加傾向にあります。

平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは 1.0%、商品販売額の対全市シェアは 0.5%となっています。

産業関連指標と対全市シェア 資料:商業統計



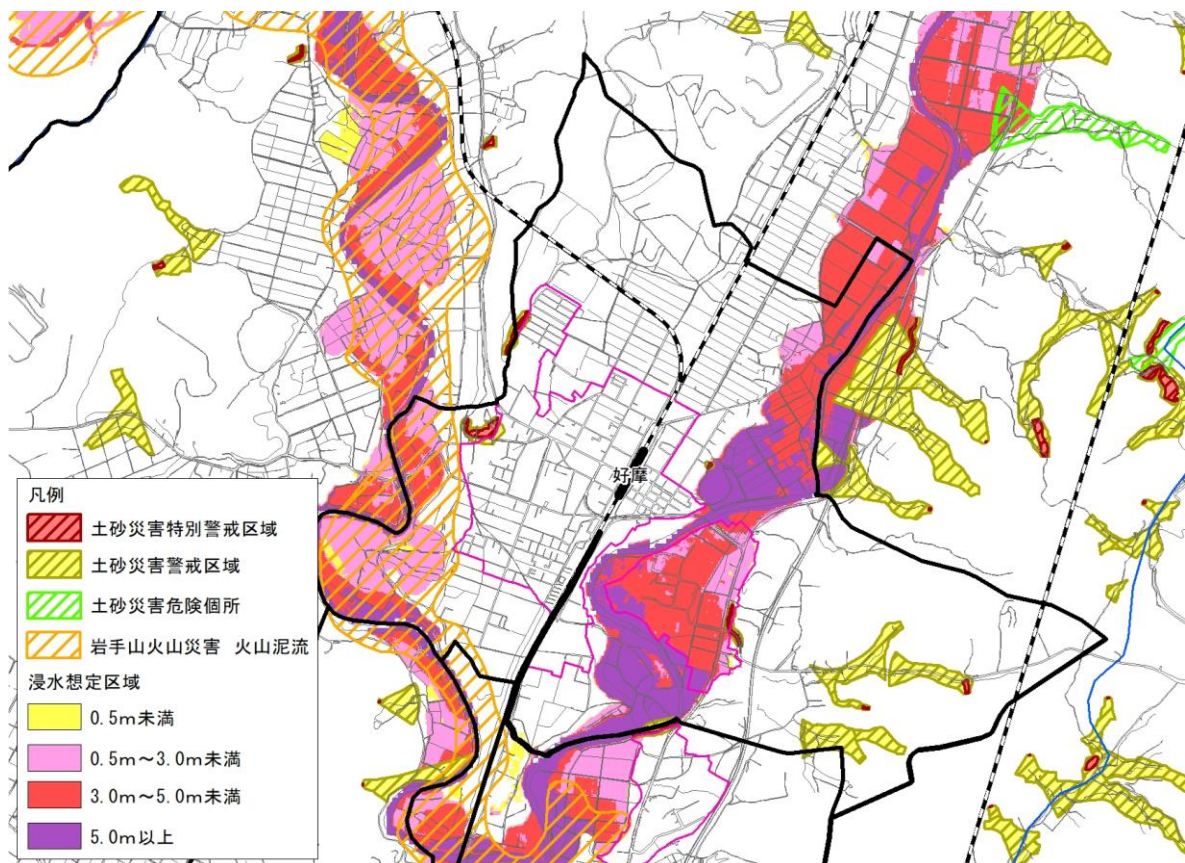
vi) 災害リスクの分布状況

北上川、松川沿いに洪水浸水想定区域が広く分布しており、浸水深が 5.0m 以上となる範囲もあります。

松川沿いには、これと重なるように、火山泥流が流れ下る危険性のある範囲も広く分布しています。

また、土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域などが分布しています。

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図 資料:国土交通省、岩手県

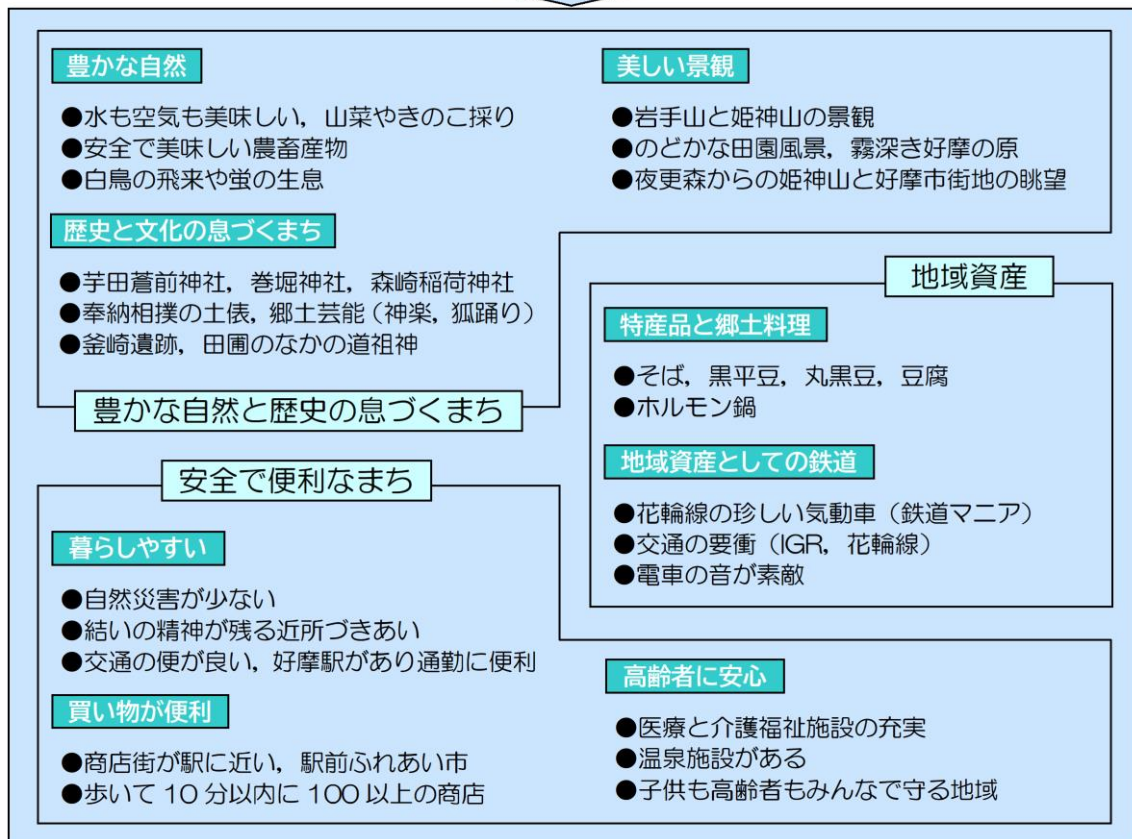
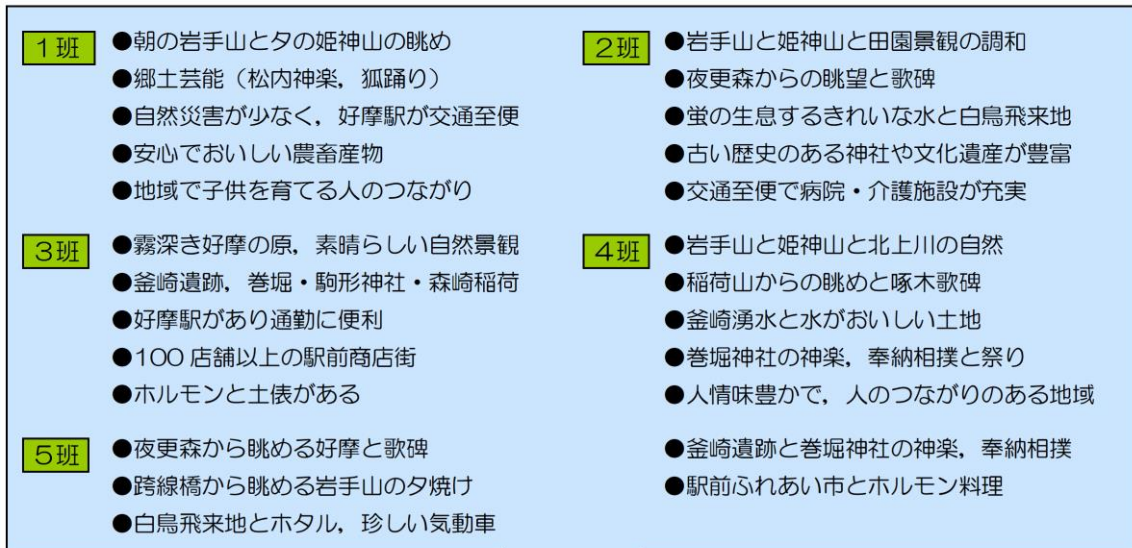


②市民の意見

平成 18 年度に策定した地域別構想（好摩地域）における、「資産」及び「課題」に関するワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

i) 地域資産(魅力・宝)

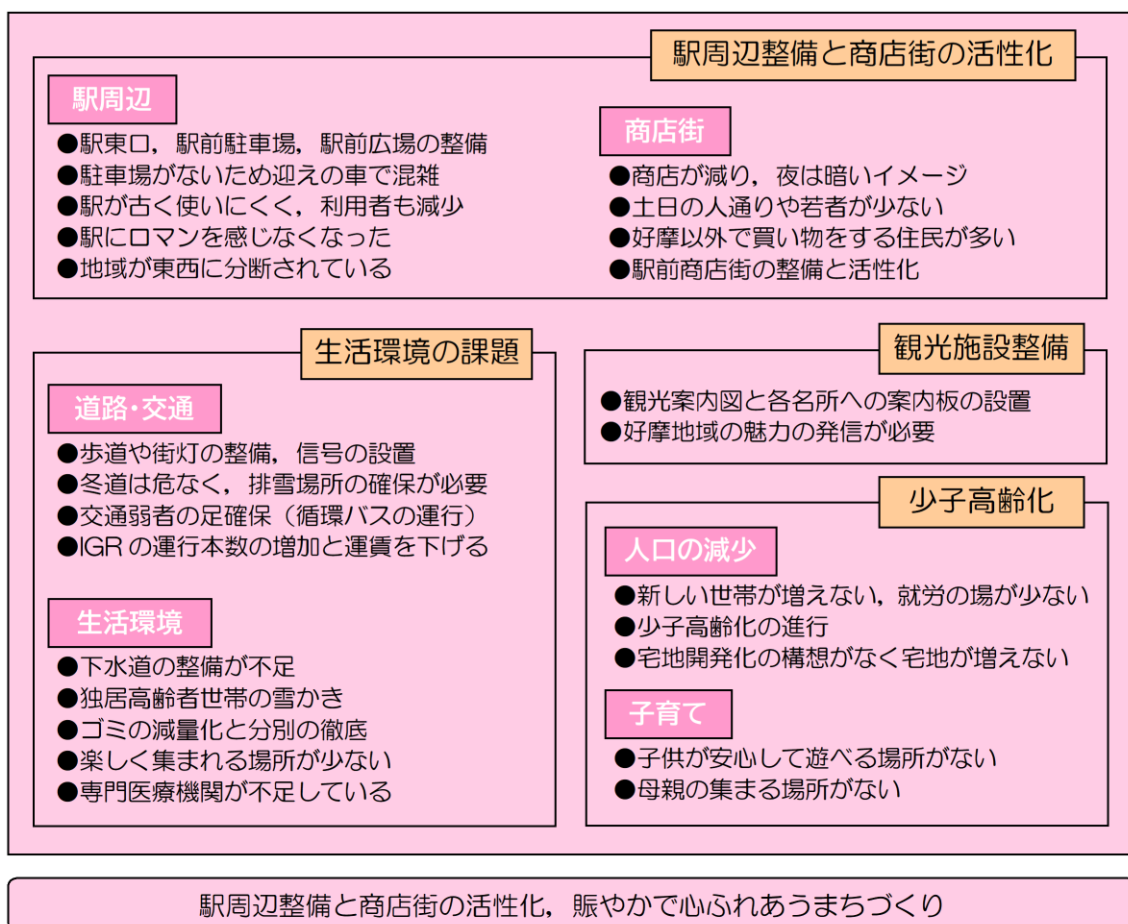
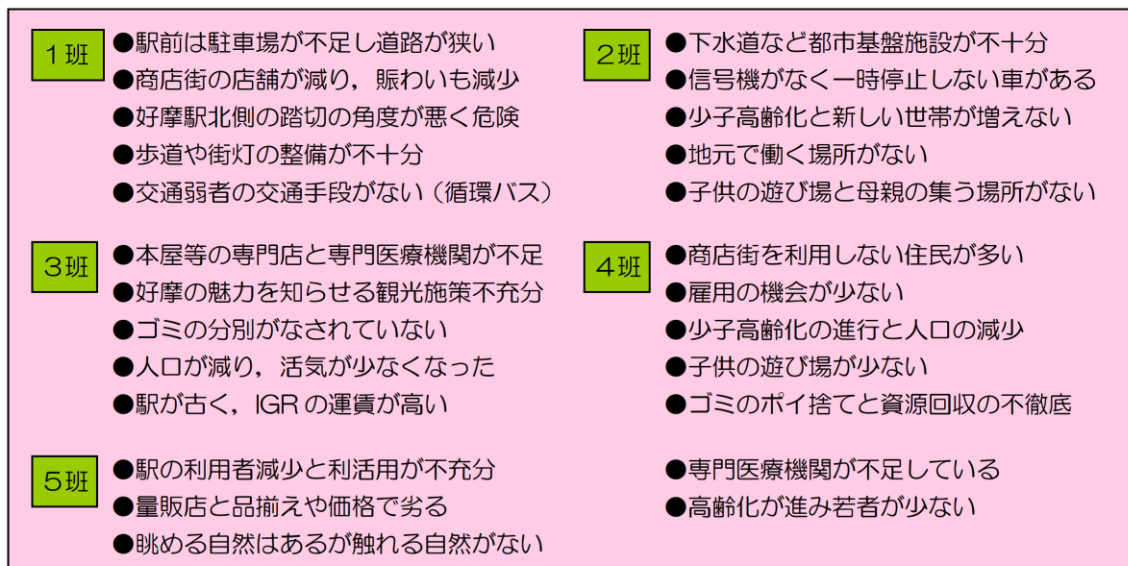
かつての好摩ヶ原に交通の結節点として発展してきた好摩の地域では、随所に見られる古代の遺跡や歴史ある神社、神楽や奉納相撲など盛んな伝統芸能、周辺の山並みや田園風景、郷土料理や地域特産品などが地域の宝として挙げられました。



歴史と文化が息づき，災害がなく安全で便利なまち

ii)地域の課題

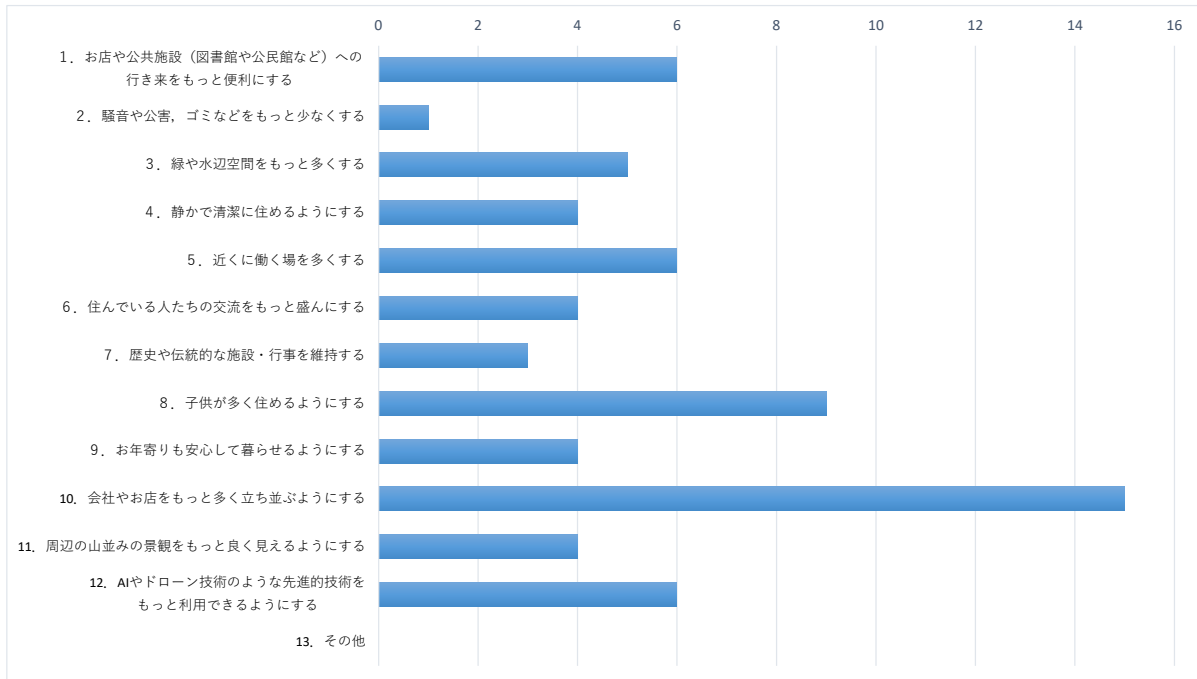
好摩は駅を中心として町並が形成されている文化意識の高い地域ですが、駅周辺のインフラ整備改善と駅利用者の減少、少子高齢化とそれに対応する施策不足、商店街の魅力減少及び購買力低下などが地域における課題として挙げられました。



iii)中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（好摩地域）の見直しにあたり、約20年後のまちづくりを担う世代である好摩地域の市立中学校2学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（好摩地域の26人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「子どもが多く住めるようにする」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「近くに働く場を多くする」、「先進的技術をもっと利用できるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、公園整備に関する意見（新たな公園の整備など）が多くありました。

iv)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（好摩地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、好摩地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔8町内会・自治会のうち6団体（75%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

- 自然の美しさは10年経っても変わらない。岩手山、姫神山の眺望は美しい。
- 好摩駅の東西自由通路が整備され、東西の往来がスムーズになった。交流の深まりが期待できる。

【課題】

- 10年前と比べて商店はかなり減ってきている。
- 高齢化により転居、施設等への入所があり空き家が増えている。
- 高齢化世帯が多くなり、庭木の手入れが悪くなり、交差点などの視界が悪化して事故が多くなっている。
- 地元の商店を利用しない住民が多くなっている。

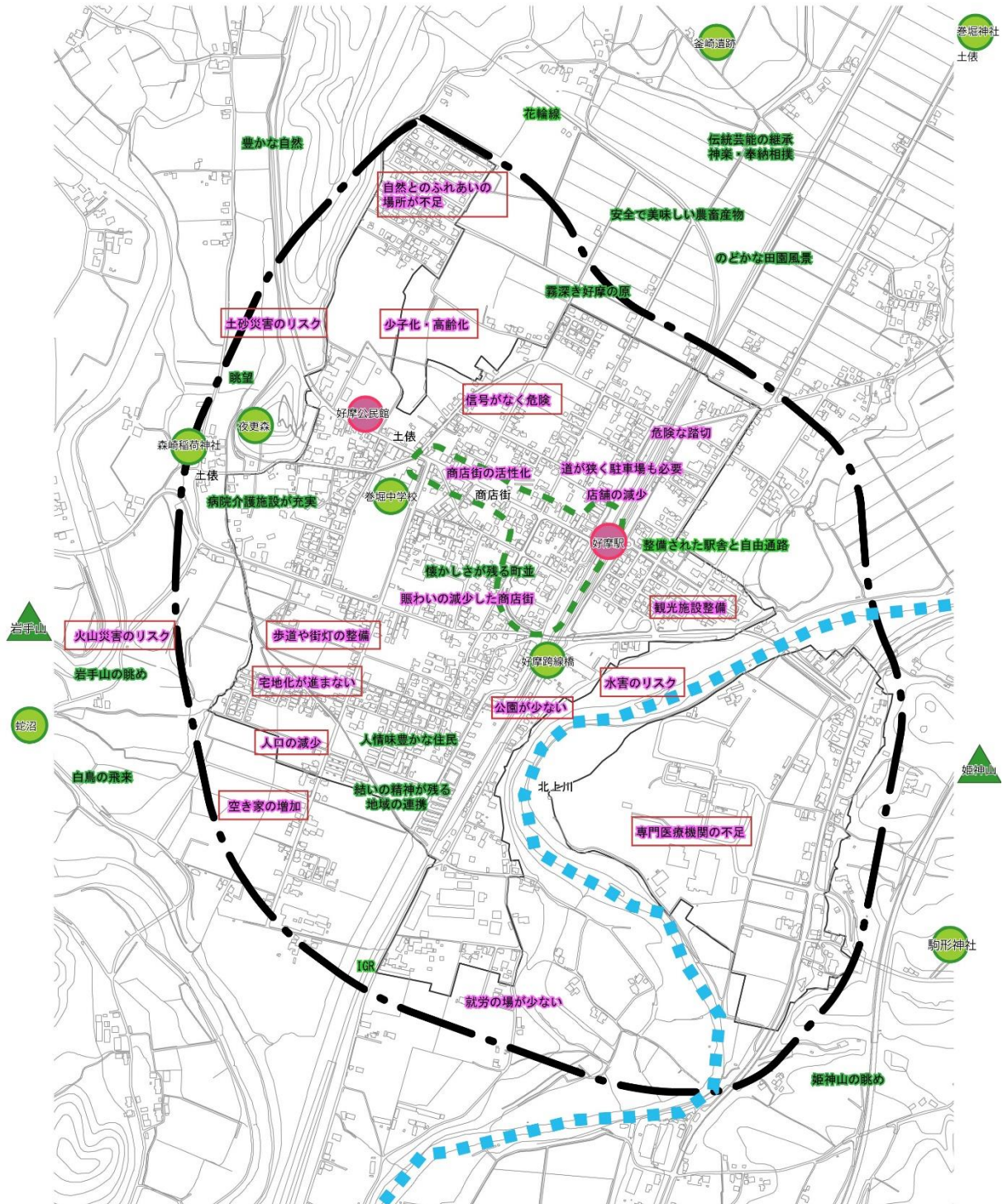
v)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（好摩地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、好摩地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔8町内会・自治会のうち6団体（75%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

- 現在の地域別構想の「まちづくりの方向性」はまったくその通りだと思う。
- 好摩駅と駅前商店街の活性化が必要。
- 現在の地域別構想のまちづくりの方向性とこれに基づく目標並びに基本方針は、今までどおり継続すべきと思う。

地域の資源・課題マップ

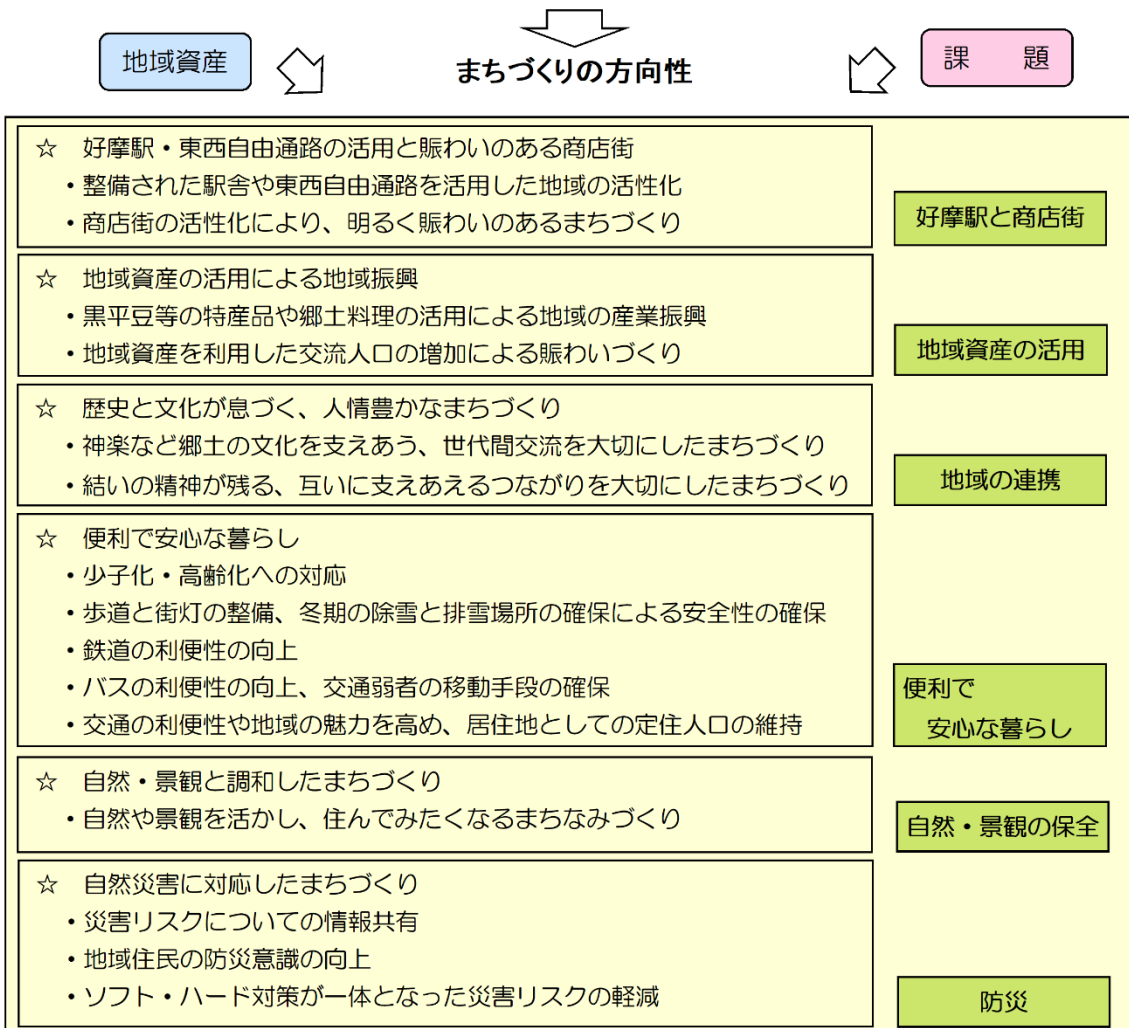


図の凡例	
	地域の範囲
	地域の資源 場所を特定できるもの
	地域の資源 場所を特定できないもの
	地域の課題 場所を特定できるもの
	地域の課題 場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成18年度に策定した地域別構想（好摩地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。

<ul style="list-style-type: none"> ●好摩駅と駅前商店街の活性化 ●降りたくなる駅前広場のある好摩駅 ●整備された東西自由通路による交流の促進 	好摩駅と商店街	<ul style="list-style-type: none"> ●少子化・高齢化への対応 ●鉄道やバスの利便性向上 ●歩道や街灯の整備 ●地域の魅力を高め移住者を募る ●中心市街地などへの通勤圏として住民の増加 ●福祉の充実した、癒しのまち ●人の笑顔が絶えないまち ●明るく、子どもたちの笑い声が聞こえるまち ●子どもからお年寄りまで憩えるまち 	便利で安心な暮らし
<ul style="list-style-type: none"> ●地元商店の活用と産直施設による活性化 ●黒平豆などの特産品の活用 ●体験型農園などによる交流人口の増加 	地域資産の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●自然や景観が保たれたまち ●住んでみたく自然を活かしたまちなみ ●自然を活かして遊べる施設の整備 ●景観を保全し、詩情豊かな景観マップの作成 	自然・景観の保全
<ul style="list-style-type: none"> ●子どもからお年寄りまで憩えるまち ●世代間交流があり郷土の文化を支えあう地域 ●スポーツで大きな大会ができるまち（相撲） ●草花の手入れを通じて住民が集う場所づくり ●ボランティア活動により地域のつながり復活 ●芸術文化の発掘と活性化（神楽） 	地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ●水害への対応 ●岩手山の噴火への対応 ●土砂災害への対応 	防災



自然を守り、地域資源を活用した賑わいのあるまちづくり

(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『懐かしくも新しい独自の生活文化の薫るまち好摩』

②基本方針

i)好摩駅を中心とした商店街地区の利便性の向上と、

地場製品の活用によるにぎわいあるまちづくり

好摩地域は、旧国鉄時代から東北本線と花輪線が分岐する広い構内のある好摩駅を擁する鉄道の要衝の地として栄えてきました。しかし時代とともにその役割は小さくなり、かつては夜行列車や特急も停車していましたが、東北新幹線の盛岡・八戸間の開業に伴い I G R いわて銀河鉄道の管轄するローカルな駅となっています。駅前には当時の面影を留めた旅館を始めとする商店街が軒を連ねていましたが、乗降客の減少や近隣の大型商業施設の利用の増加など、生活環境の変化により、店舗の数が減り賑わいも失われつつあります。

しかし、一方では、駅舎と東西自由通路の整備により、駅周辺の利便性が向上しており、交流の深まりなど、地域の活性化につながっていくことが期待されます。

周辺の優美な山並み眺望と調和の取れたまちなみを形成している好摩地域は、これら良いところを保全しながら、黒平豆などの特産品を活用し、地域で地元の商店街や鉄道を利用する気持ちを育てることにより、地域と駅・商店街が一体となって人々が集い、活気溢れる賑わいの拠点としてのまちづくりを推進します。

ii)地域資産を連携し、身近な自然や景観の保全による誇れるまちづくり

好摩地域は、奈良平安時代から人々が暮らした跡が残る釜崎遺跡や、森崎稲荷、駒形神社、巻堀神社などの歴史・文化資産、石川啄木に“霧深き好摩の原の駐車場の”と詠まれた好摩のまちと優美な姫神山が一望できる夜更森、懐かしい面影を留めた建築物やまちなみなどの景観資産、さらには白鳥が飛来する沼やホタルが生息する小川などの自然資産により、歴史と文化・伝統が息づく、美しい自然と景観に囲まれた住みやすい環境を備えています。これらの資産をつなぎ合わせることで、魅力ある好摩を発信して交流人口を呼び込むと共に、地域の人々の大切な宝物として再認識を促します。神楽や奉納相撲などの伝統芸能や、美しい景観や豊かな自然を後世に継承するため、地域の宝物である資産を保全し調和のとれた環境の整備などにより、住民自身が自らの地域を誇れる魅力あるまちづくりを推進します。

iii)世代間交流や結のコミュニティによる安心して暮らせるまちづくり

好摩地域は、身近に鉄道駅や商店街、病院、介護施設のある便利で安心な地域でありながら、奉納相撲など地域の祭礼や神楽・狐踊りなどの伝統芸能の継承を通じた世代間交流や地域間交流が盛んで、地域で子どもを育てる環境や高齢者を守る地域の連携が形成されており、生活の原点に触れられる地域です。

好摩地域がさらに便利で安心して暮らせるまちになるように、少子化・高齢化の進行や空き家の増加などの課題に対応しながら、都市基盤の整備の促進や、医療機関、福祉施設の更なる充実を図り、より良い住環境を整えることで地域の定住人口の維持に努めます。また、伝統芸能などにより培われてきた地域の輪をさらに広げるため、地域の老若男女が集える伝統行事などの地域活動を通じて、住民相互の助け合いによる信頼関係が保たれた、結いの精神によるコミュニティの形成を図ります。

防災面では、地域を流れる北上川及び松川沿いに、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域などに含まれているエリアが多くあります。さらに、松川沿いには、岩手山の火山噴火による火山泥流が想定されるエリアがあります。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

まちづくりの方針マップ

